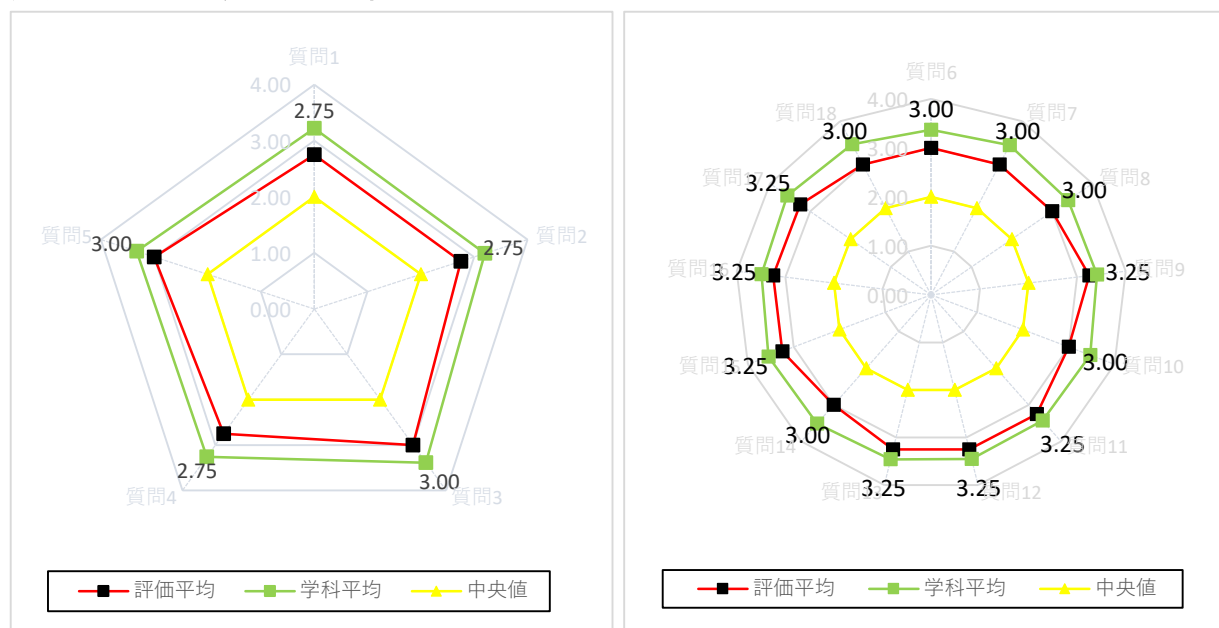


| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | あすなろう（初年次教育含） | 9名   |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

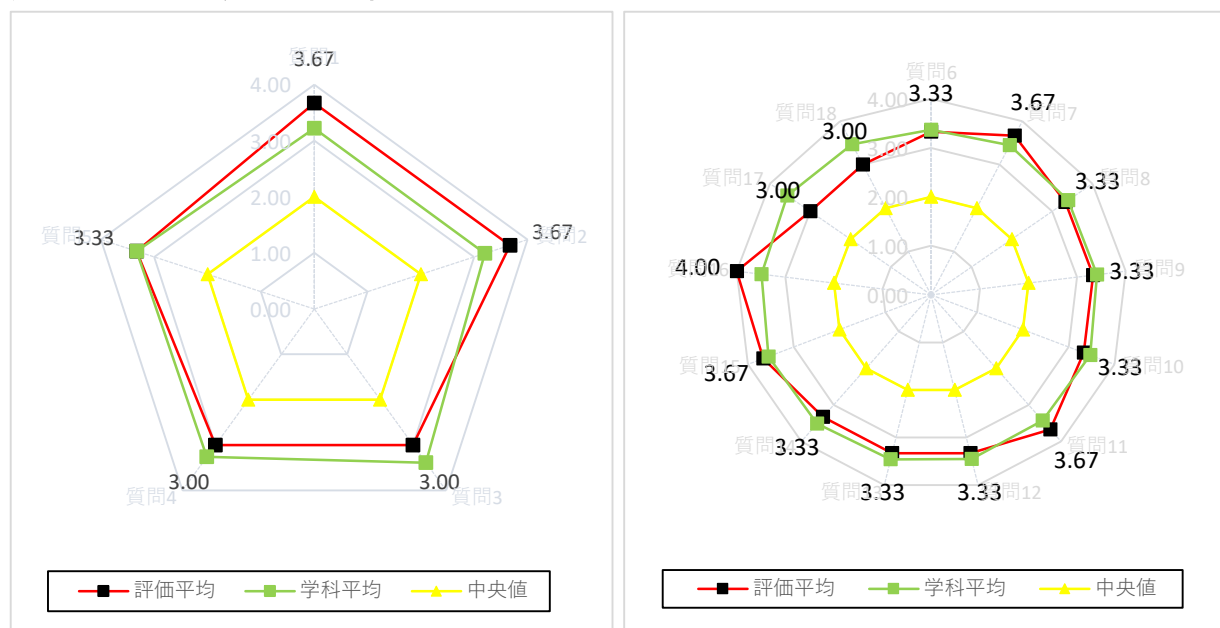
- ・ 学生の自己評価、授業評価ともに学科平均を下回っており、この結果については真摯に受け止めている。
- ・ 特に授業評価については、従前と同様の方法及びスタンス、姿勢で学生に臨んだが、ゼミ形式で指導学生を指導する期間が今年度から半分になったことで学生との関係構築が十分にできなかったことが主な要因と考えている。
- ・ また、回答率が44.4%と低かったことも、学生の自己評価、授業評価とも学科平均を下回ったことに影響していると考えている。

### （３）次年度に向けての取り組み

- ・ 今年度以降も、指導学生は、前期は神埼キャンパスにおいて本講義を受講し、後期から子ども学科においてゼミ形式での指導を受けることになる。1年生担当の講義は「地球環境・SDGs入門」のみであり、前期において授業で指導学生に接する機会は1回しかないため、これまでの方法やスタンス、姿勢に加え、日々の大学生活の様子をメールで尋ねるなど、前期のうちから指導学生との関係づくりに努めることで、後期、子ども学科におけるゼミ形式での指導の充実を図りたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | あすなろう（初年次教育含） | 7名   |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

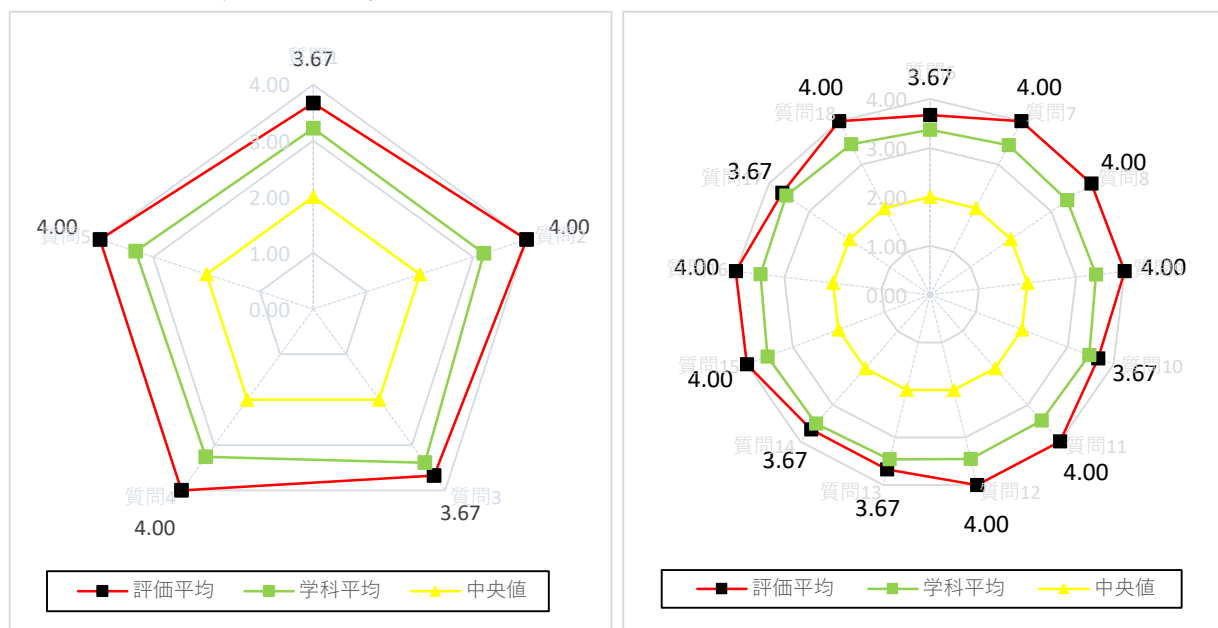
全ての項目で高得点である。今後も精進したい。

### （３）次年度に向けての取り組み

14の項目について他項目と比べるとやや低い点が今後の取り組みの課題である。学生に質問に対応できるように便覧等を精読したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | あすなろう（初年次教育含） | 10名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

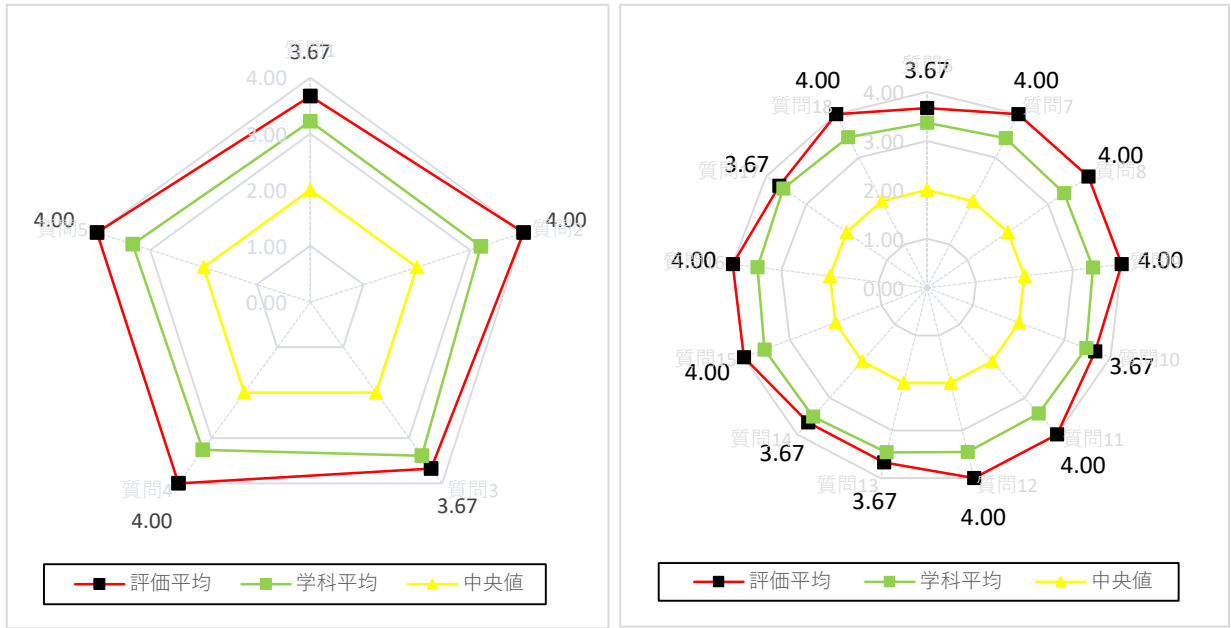
概ね学科平均に近い評価をしているものと推察されるが、評価の低かった質問17、18については、授業構成上、ゼミ担任との交流が少なかったことが一因ではないかと考える。

### （３）次年度に向けての取り組み

アンケートに回答した学生は10名中3名であった。来年度は全員から回答を得るよう指導したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | あすなろう（初年次教育含） | 8名   |

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

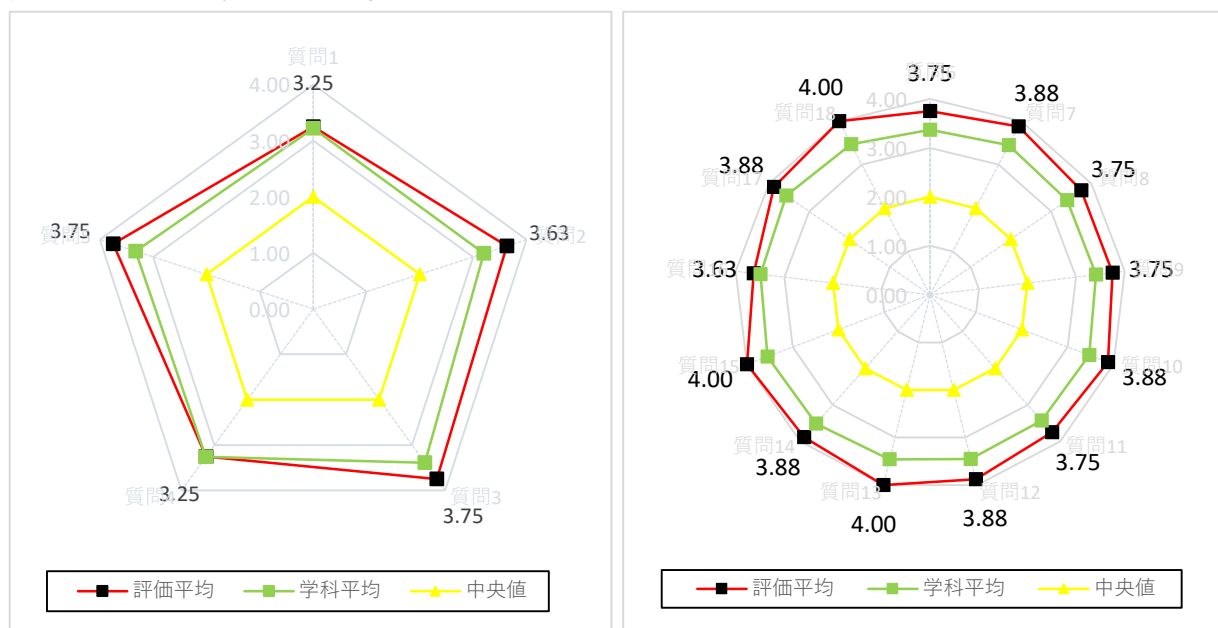
すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

（３）次年度に向けての取り組み

すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|---------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | あすなろう（初年度教育含） | 10名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

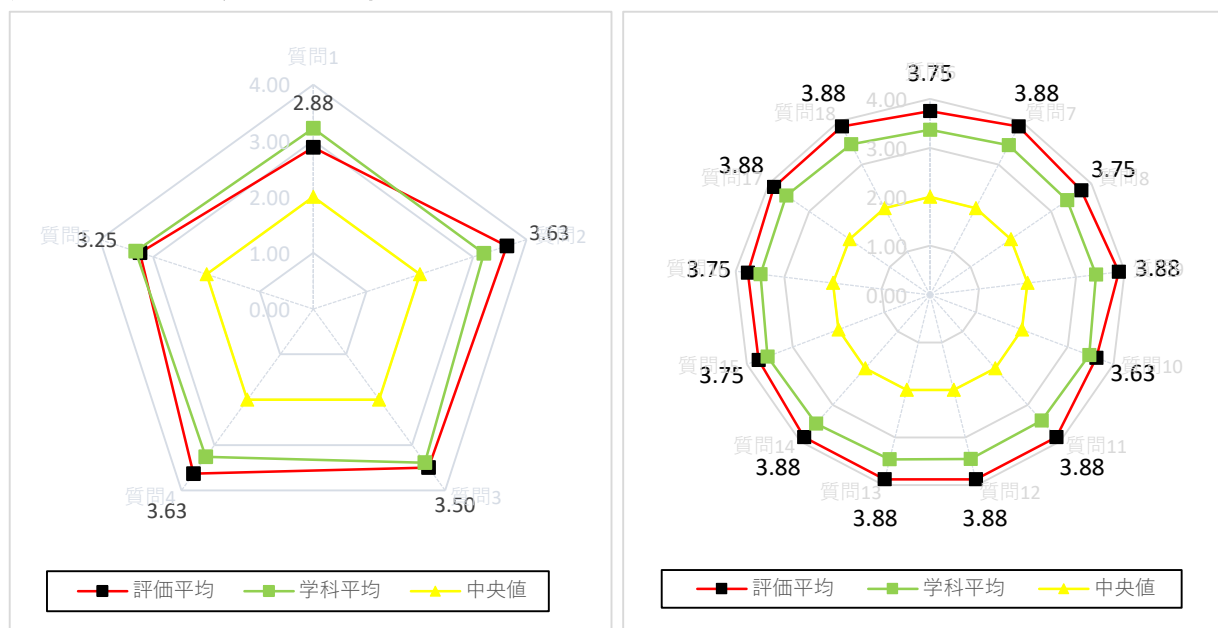
概ね高評価を得ている。本年度のあすなろう（初年度教育含）は大きな内容の変更を伴っていた。大きな変更点として、神埼キャンパスでの開講をはじめ、宿泊体験、全体での講義などであった。前期のほとんどの時間を神埼キャンパスで過ごしていた。これまでの学科独自の講義体制から大きな変化に、学生がどのような反応をするのか、心配でもあった、しかしながら、学生の多くは好意的に受け止めており、概ね前向きに、積極的に受講していた。しかしながら、これまでにない形式からか、やや態度が芳しくない学生も散見された。このような学生の対応について、今後は検討していかなければならない。

### （３）次年度に向けての取り組み

次年度は、担当から外れることになっている。そのため、今年度の評価等については、次年度の担当者に引き継ぎを行った。次年度の講義内容に反映される予定である。しかしながら、大学全体として決定している方針もあるため、学科独自の時間は限られている。そのため、限定的な内容しか反映されない。その中でも、一部が変更される予定である。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|---------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | あすなろう（初年次教育含） | 11名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

授業評価回答数については受講者11名中8名の回答を得た。学生自身の自己評価については、欠席回数等に関して個人のばらつきが大きい状況であった。教員への評価については、全ての項目で学科平均と比して高い評価であった。

授業内容は前期は神埼キャンパスにて学科混成で行われ、後期は学科全体授業とゼミ別授業とが混在していたが、ゼミ別授業では、できる限り各受講生に個別的な声掛けを行い指導支援を行った。また、学科ゼミ担任としてのかかわりが行いにくい前期期間においても、授業時間とは別に日程を設定し、一週間の記録票を活用して学生の生活実態の把握に努めた。その中で気になる学生については、細やかに声掛けをするとともに、気がかりな状況がある場合、個別に対応するよう心掛けた。

学生からは自由記述においても自身の成長を実感したという記載が見られた。今後も、学生への公平なかかわりやレポート・発表指導等を丁寧に行っていきたいと考える。

### （３）次年度に向けての取り組み

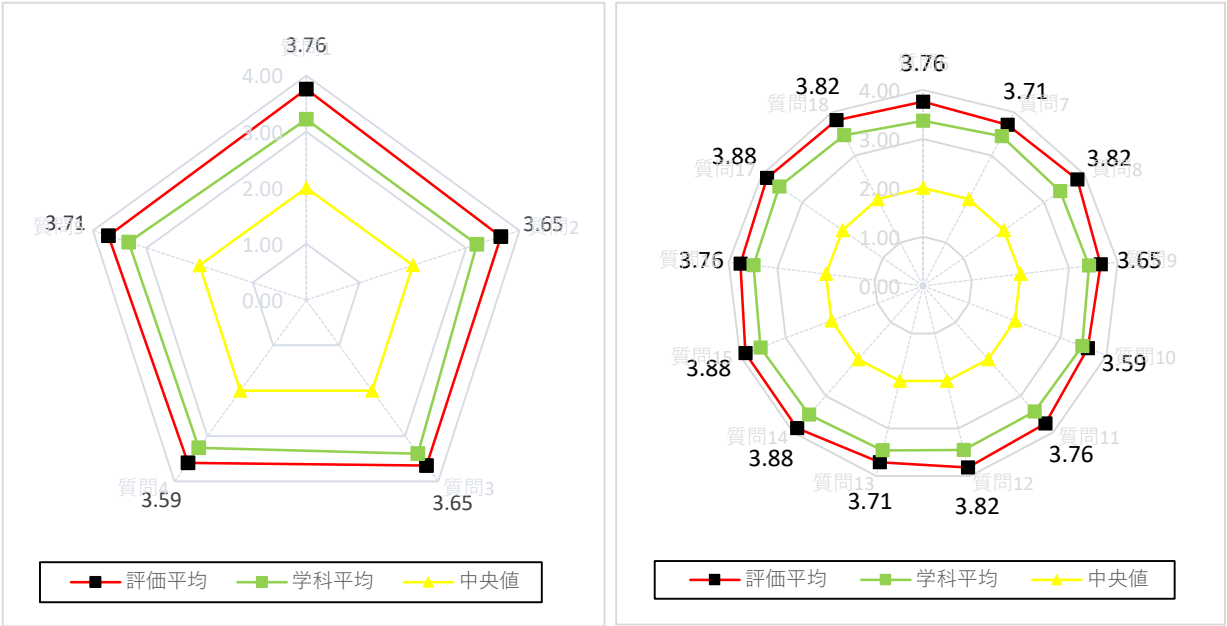
次年度も今年度同様に学科ゼミ単位での授業が開講されない前期期間においても一週間の学修・生活記録をもとにした面談を定期的に行い、学生の状況把握に努めたい。後期は各学科における授業が行えるため、今年度同様に全体へ向けては指示の明瞭さに留意し、また学生には誠実・公平に接する姿勢を重視して、教育に取り組んでいきたい。

また、一人一人のあすなろう体験実習の進捗や生活状況などを把握するなかで、気になることがあれば早めに声をかけることで、学生が大学生活を滞りなく送ることができるよう教育・支援を行いたい。

授業評価については、次年度も最終講義回で十分な授業評価回答時間を設けて回答を促していきたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名         | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 保育内容指導法（健康） | 53名  |

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

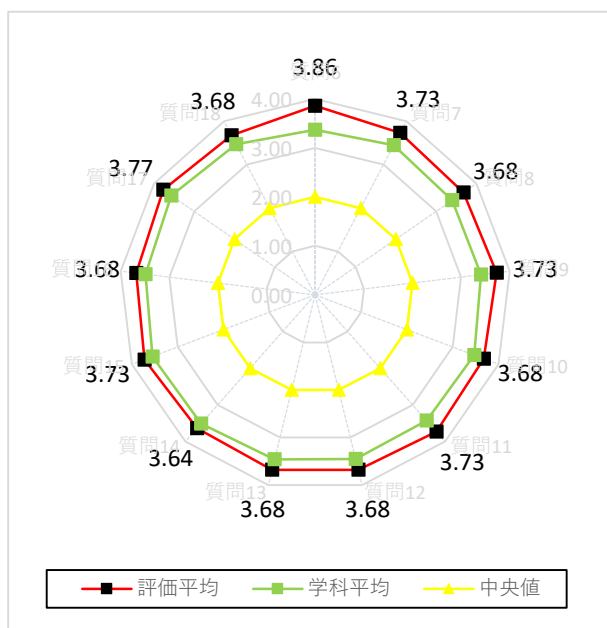
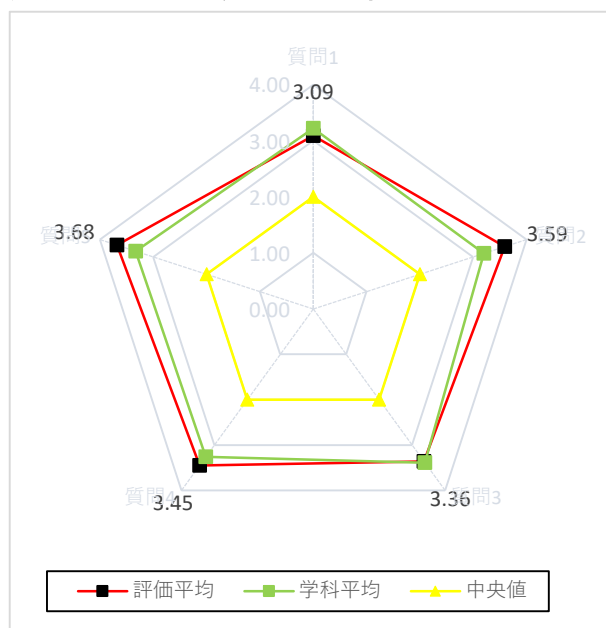
全ての項目が高得点であるという点は素直に嬉しい。これに満足することなくよりよ授業を目指す。

（３）次年度に向けての取り組み

もっと模擬授業に関するディスカッションの時間を確保したい

| 学部    | 学科               | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|------------------|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども<br>心理カウンセリング |     | 子ども学総論 | 125名 |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

学生からの評価は概ね学科平均値と同じであった。

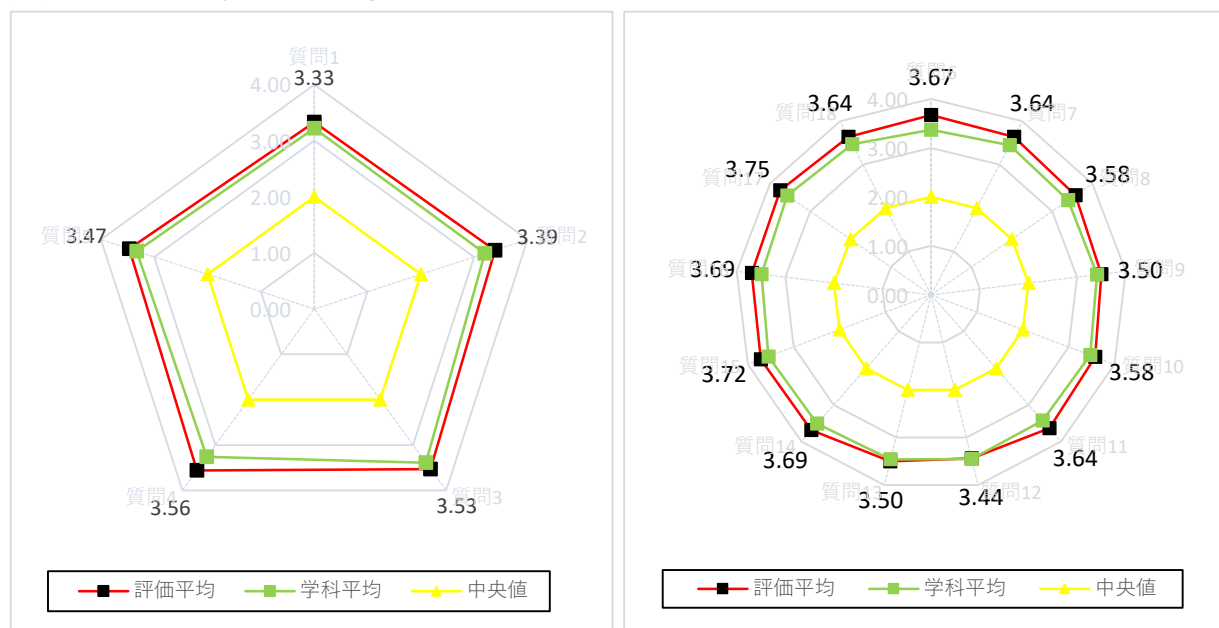
### (3) 次年度に向けての取り組み

学生からの回答率が非常に低かった。来年度は改善するように指導したい。



| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名           | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 保育内容指導法（人間関係） | 49名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

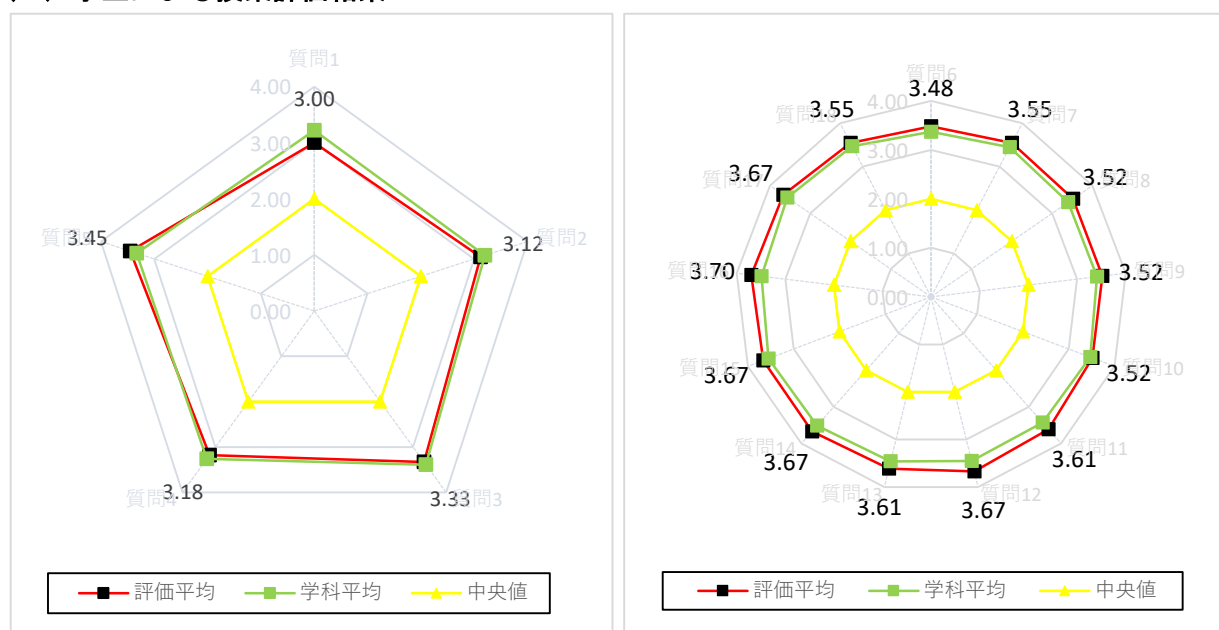
この授業は、乳幼児期の人間関係の発達に応じた遊びや生活環境について事例を通して学ぶ事。また実習の経験を活かし、人間関係に関する内容と人的環境の重要性について理解する事。担当制で手遊び発表・指導案作成など保育技術の向上である。学生が育った環境や実習体験から自分に引きつけて考え、個人で感想を書いて見つめる機会を作った。事例や実習体験エピソードの取り扱いは、周りの学生で意見を交換し合い、他者の考えにも触れる機会となり、グループで話し合うことで全体で発言することもスムーズに出来ていた。実習経験の有無、構成メンバーが真面目か不真面目かが影響し、グループワークの内容がかなり違っていった。自由記述は、未記入であった。ワークシート、DVDを視聴、教科書の内容を互いに共有する時間が設けた。出席状況は良く、他学年の小学校教育実習の公欠の影響もあったが、課題の範囲を狭くし、取りかかりやすく工夫した。やはり、遅刻や出席状況と課題未提出は比例していて、提出を最後まで呼びかけなければならなかった。授業計画はオリエンテーションで詳しく説明しているので、学生に周知させたい。

### （３）次年度に向けての取り組み

事例や経験談を大いに取り入れ、意見交換をして大事な事を心に留める時間を作りたい。教科書で理論的なこと確認していく時間の改善が必要なので、今までよりも増して質問や確認を学生に振っていく。手遊びは楽しい模擬保育とし、頑張りの度合、貢献の評価を工夫したい。指導案は次回の正規の実習に生かせる計画案としてより実践的にしていきたい。毎回、授業の感想を文章で書くことに関しては、得て不得手を考慮しながら、時にはフィードバックして表現することが個々人のステップアップになるので、十分に配慮したい。その感想を授業の最後には学びのプロセス図解として個人でまとめる中で、人間関係を浅く捉えている学生もいる。ポイントは①愛着形成や信頼関係の構築が土台、②子どもが遊びや生活の中で心情や意欲を持って行動、③友だちとの関わりにおけるいざこざを当事者として解決していくことが人間関係の力となる、④保育者の援助の見極めや役割の重要性、⑤乳幼児期の心の発達と身体的発達の両方の特徴を専門的に理解する事、の等を捉えて、今後の実習や経験において気づいて欲しいので、教員の評価に留まらず、図解の活用を考えていきたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|-------|-----|-----|------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 保育原理 | 88名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

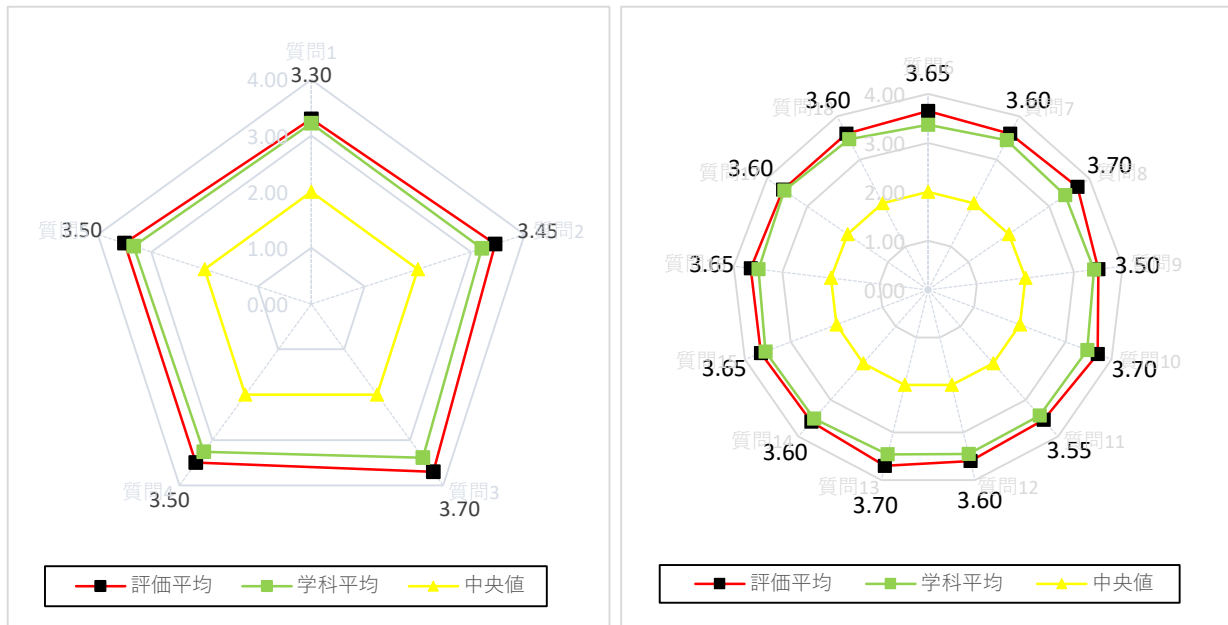
評価結果は、学科の平均値と同等であることが確認されました。  
 学生自身の授業に対する取組についての自己評価は、  
 学科平均よりも若干低い傾向がみられました。  
 オンデマンドを活用した集中講義という実施形態もあり、  
 出席しづらかったのではないかと反省しているところです。  
 授業内容の充実度や教師の説明のわかりやすさなどが  
 学科全体の平均値とほぼ一致しています。  
 対面する機会が少ないながらも、双方向的なやり取りを意識しながら、  
 授業を展開したことを高く評価してもらえたことは、今後の励みになります。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学科の基幹科目、卒業必修科目であることを考えると、  
 集中講義ではなく、月曜日から金曜日の授業時間枠で開講することが  
 第一だと感じています。  
 そのうえで、オンデマンド教材を活用して、授業時間外の学習を促し、  
 授業時間ではグループワークやプレゼンテーションに  
 十分な時間を充てたいと考えています。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | カリキュラム論 | 60名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

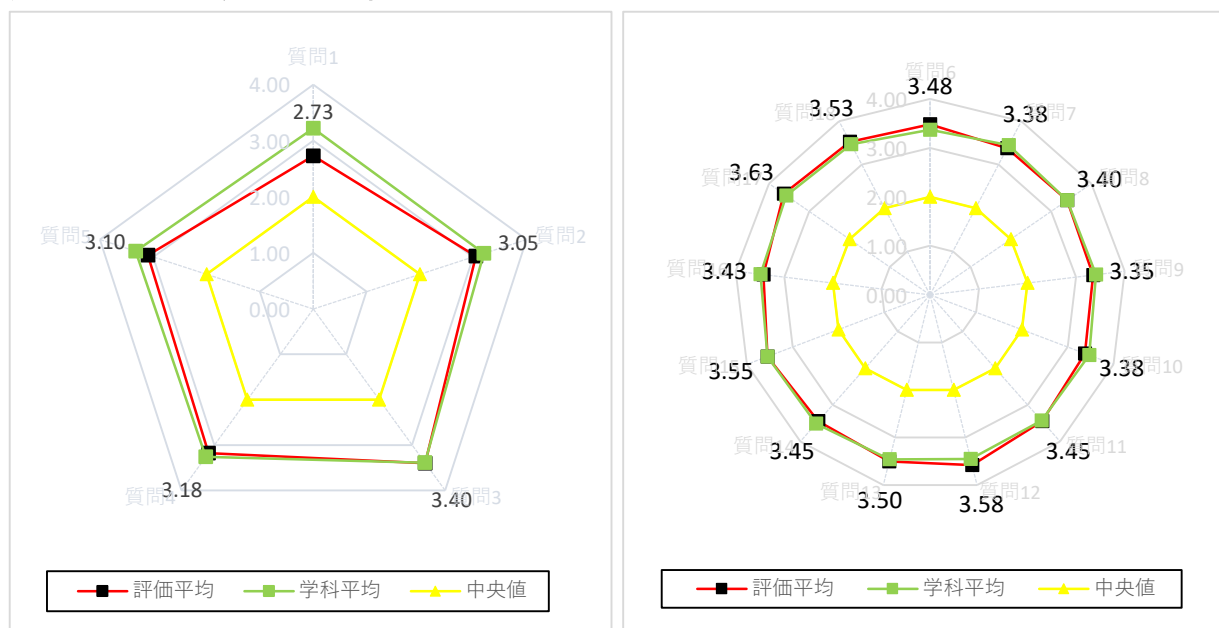
すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 保育内容総論 | 48名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

学生の授業評価については、すべての項目で一定以上の高い評価を得ている。

一方通行の授業にならないように一人ひとりからの意見を聴くように努め、演習として手遊びをするなど工夫して行い、学生も積極的に参加することができた。双方向的な授業であるアクティブラーニングを意識して進めたことがこのような評価につながっているのではないだろうか。

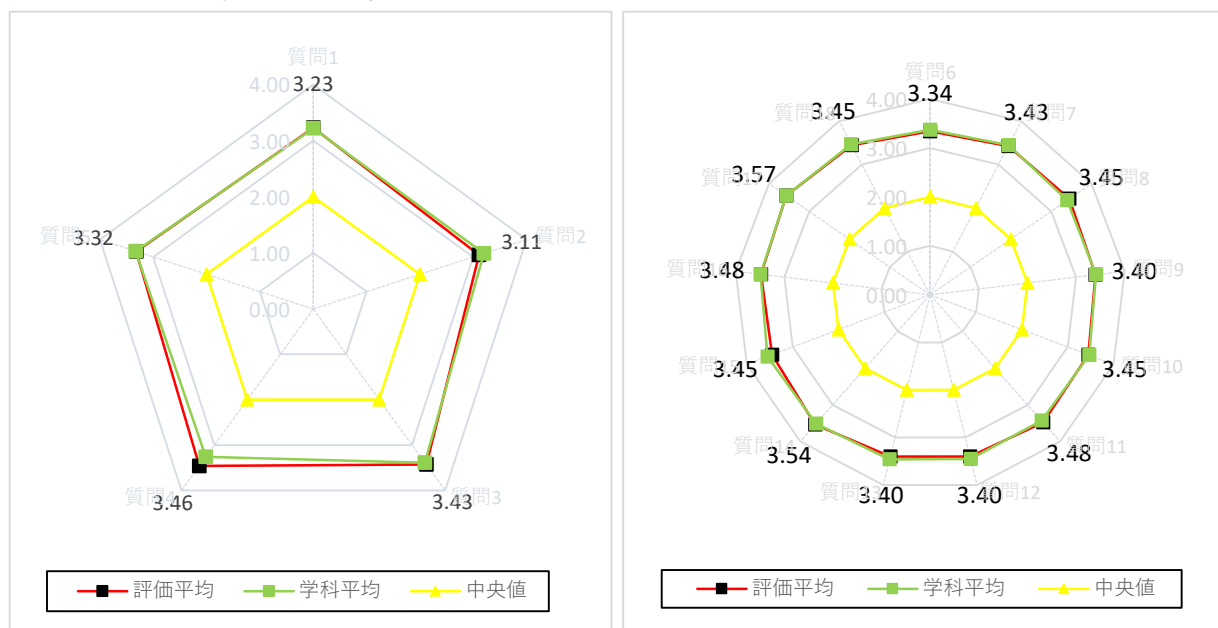
また、本授業は1年次後期の授業である。次年度には初めての実習体験をすることを視野に入れて、学生が子どもの姿や保育所・幼稚園の1日の流れをイメージできるような授業が期待されていると考える。そのため、特に保育現場で求められる「記録」の取り方については実際にワークをとおして重点的に行った。その成果は現場での実習に活かされると期待する。

### (3) 次年度に向けての取り組み

該当なし

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名        | 履修者数 |
|-------|-----|-----|------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 教育相談の基礎と方法 | 165名 |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

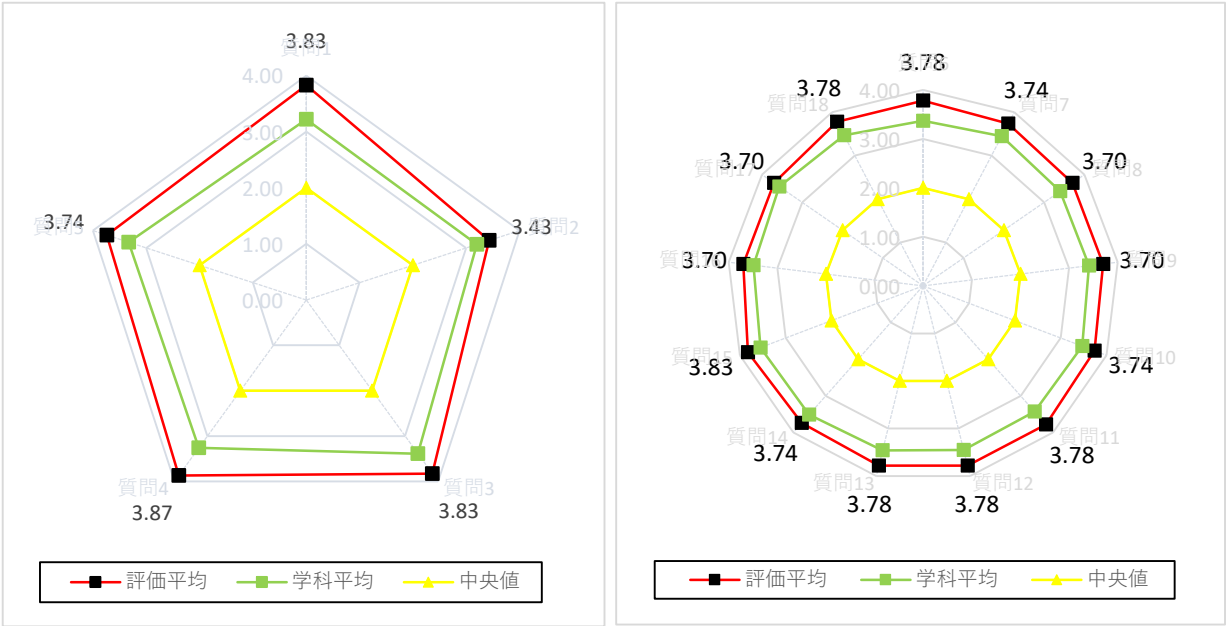
総合評価に示されているように、子ども学科平均に比べて授業者の評価は0.08点低い。全体に平均より高い評価は皆無であった。大いに反省すべきことと思われる。特に「6. シラバスについて説明がありましたか」の事項が平均より、0.13低く、他の事項に比してその差が顕著である。授業者もシラバスの一通りの説明はしている。評価としては3.32であり、最高の「4」が全体の4割、「3」の評価が全体の4割、「2」の評価が1割弱となっている。一通りの説明に対する評価としては妥当であろうか。焦点にすべきは「2」の1割弱の受講者であろうか。次に学科平均との差が大きかったのは「15. 公平に学生に対応しましたか」の事項である。授業者としては公平に対応したつもりである。56人の回答者の5人が「2」の評価、1人が「1」の評価を下している。一方自由記述には「指名に偏りがある」との記述もあった。授業者が意識しないところでの偏った対応があったことをしっかり反省すべきことと思われる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明の時、授業に集中しない学生に注意を向けさせるべく、シラバスを説明していくことが必要である。また、指名等が偏らないように留意し、出来るだけ公平性を受講者が感じることができるよう授業展開を実施したい。さらに声の質量ともに低下してきている、その自覚がある。声の出し方についても一定の留意をもって授業を展開したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 国語科指導法 | 72名  |

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

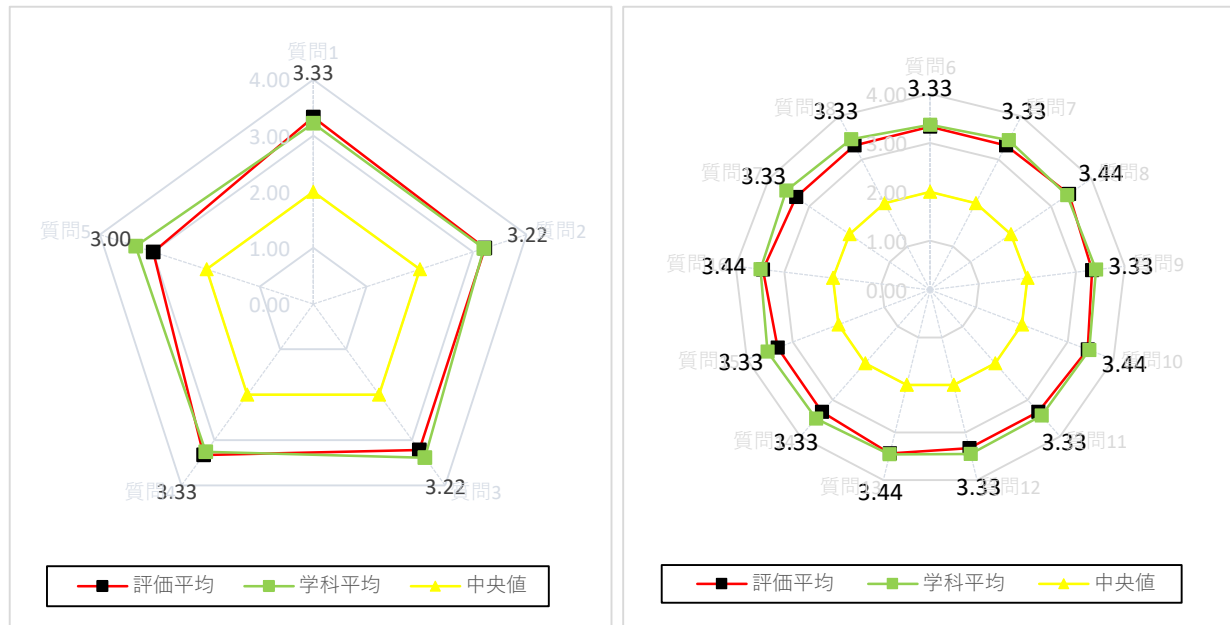
すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名   | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 理科指導法 | 65名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

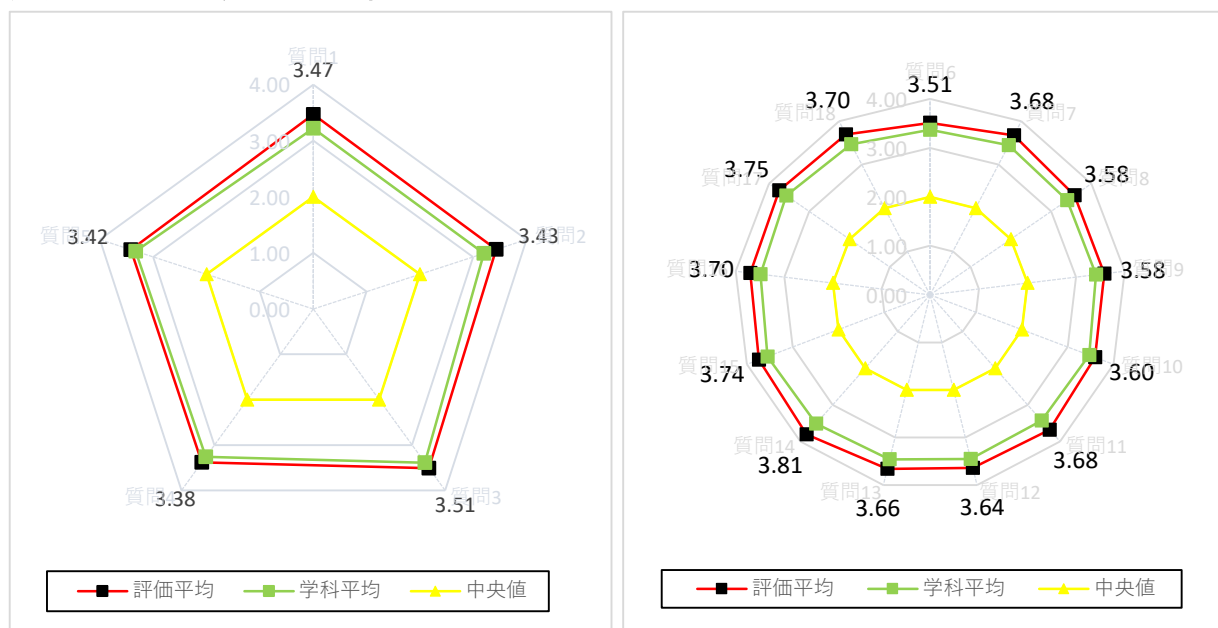
学生からの評価は概ね学科平均値と同じであった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

全体的に本学科の学生は理系科目についての関心が低いようである、今後は少しでも学生が興味を持つよう、授業内容を改善していきたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 音楽科指導法 | 65名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

ピアノの経験がない状態で入学した学生にとって、読譜や楽典の知識を要する音楽科指導法は苦手意識を抱きやすい傾向にある。しかし学生たちの受講態度は真面目で、真剣に取り組む姿が見られた。授業評価に関しては、大きく数値が落ち込んでいる個所はないことから、現行の指導に特段の問題はないと思われる。

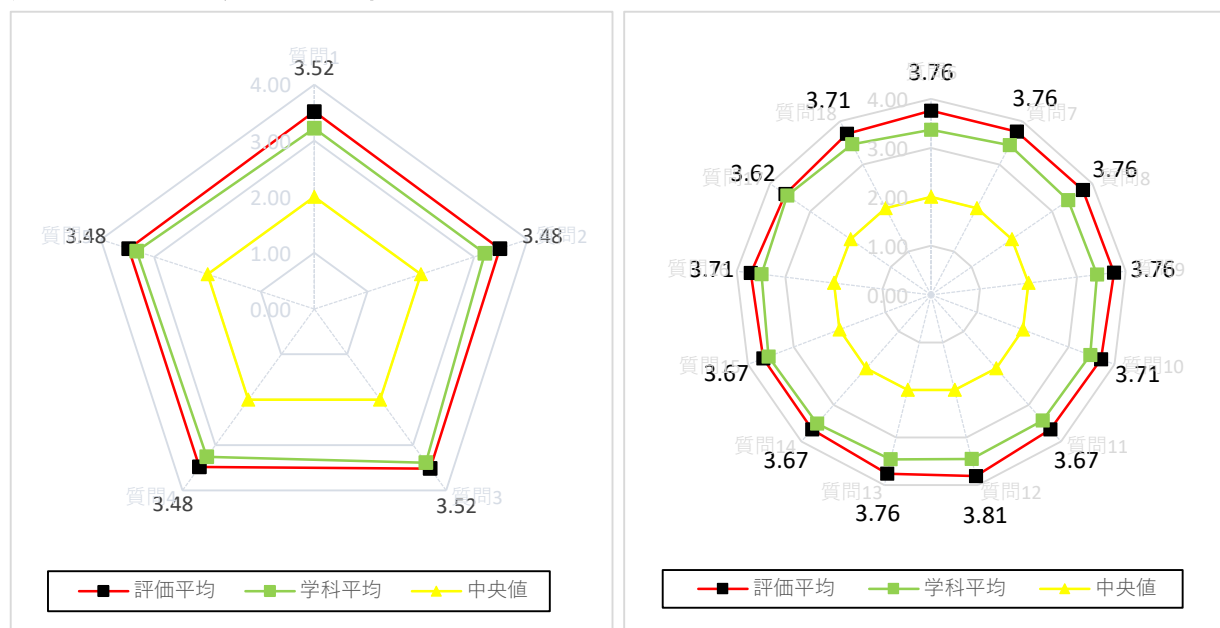
### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度は、苦手な学生に対する助言を丁寧に行うことを意識して指導し、学生からの求めに応じて時間外指導を組み込むこともあった。今後も、個々の学生からの要望にも極力対応するように努め、個別指導の充実を図りたい。



| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 体育科指導法 | 63名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

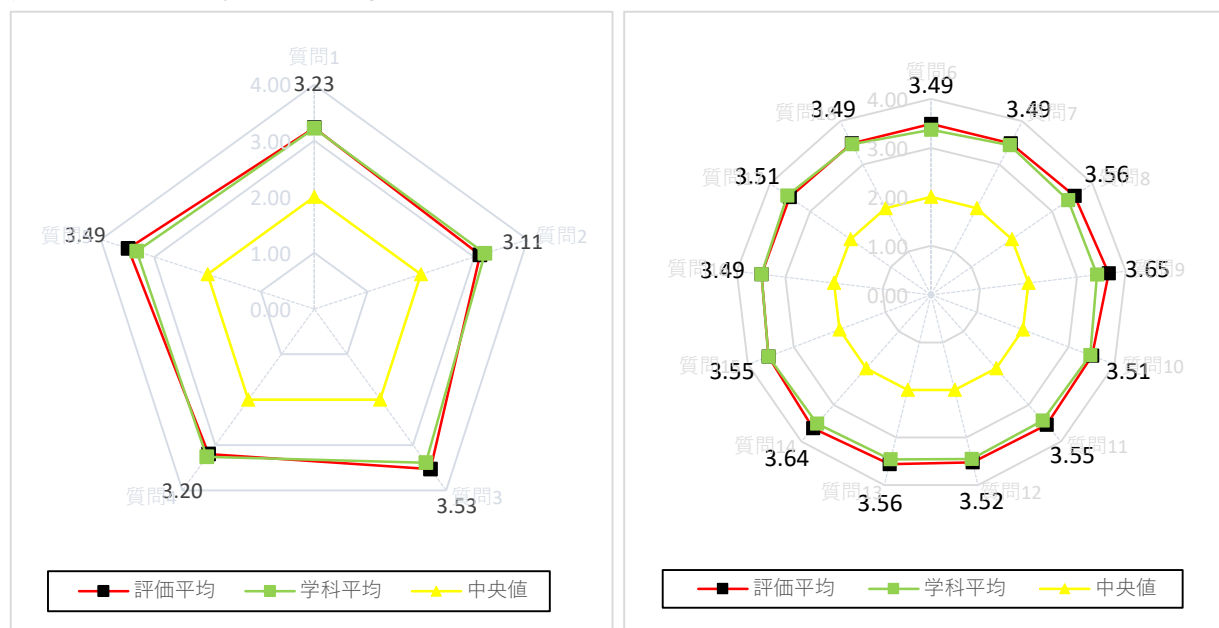
全ての項目が高得点であるという点は素直に嬉しい。ただ項目17のみが他項目に比べるとやや低いのが反省点である。もう少し対話的に抗議を進める必要がある。

### (3) 次年度に向けての取り組み

項目17を反省点と捉え、今後は模擬授業のディスカッションに積極的に参加していきたい

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名                | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 保育・教職実践演習<br>(幼・小) | 82名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

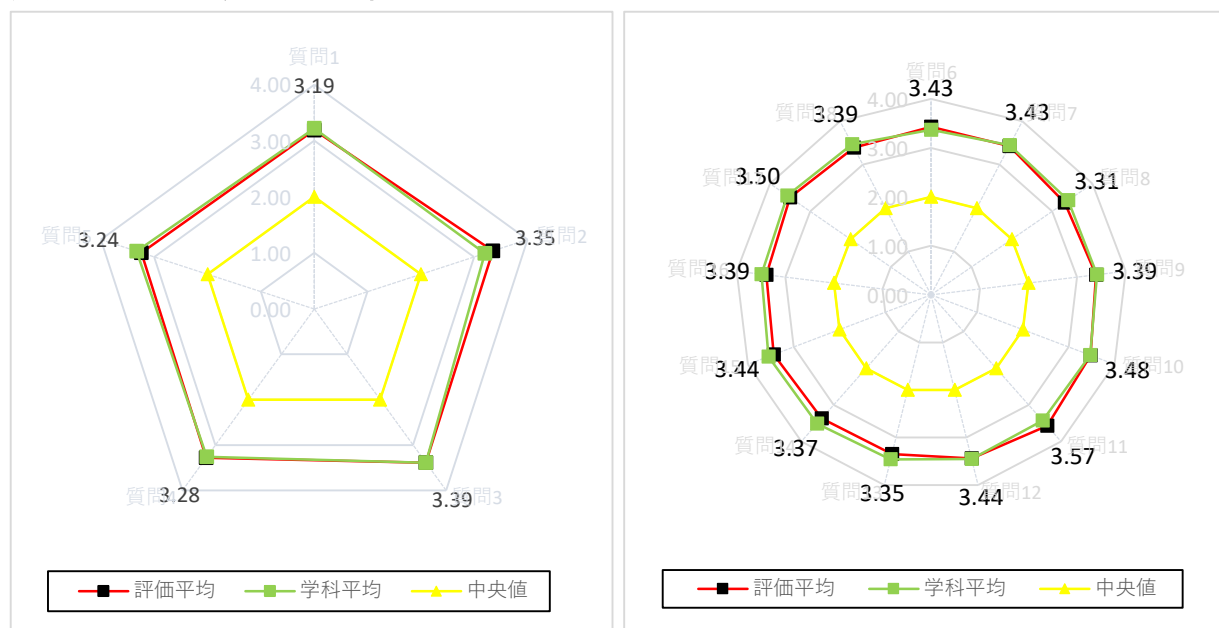
- ・ 質問4を除く17項目が学科平均とほぼ同等であり、授業評価において評価4.96であった質問6、7、16、18以外の項目の評価はすべて3.5以上であった。加えて学生の自己評価において、質問4の評価は3.2であった。
- ・ 自由記述についても、ほとんどが肯定的なものであり、めざす職に就く直前の4年後期に意を新たにすることによって有用な授業であったというものであった。
- ・ 以上のことから、本授業の目標である「保育・教職課程でこれまでに学習した内容や実習経験等について振り返り、保育・教職の使命や職務についての自覚と決意を抱くようにする」ことは概ね達成することができたと考えている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 引き続き、就職を目前に控えた4年生が職に就くことへの意を新たにすることに資する授業とすることができるよう、教育現場における今日的な課題を踏まえたより実践的な内容を目指すとともに、適宜、受講学生の意向も踏まえながら、授業内容及び指導の質の向上に努める。

| 学部    | 学科               | 担当者 | 科目名      | 履修者数 |
|-------|------------------|-----|----------|------|
| 子ども学部 | 子ども<br>心理カウンセリング |     | 子ども家庭支援論 | 63名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

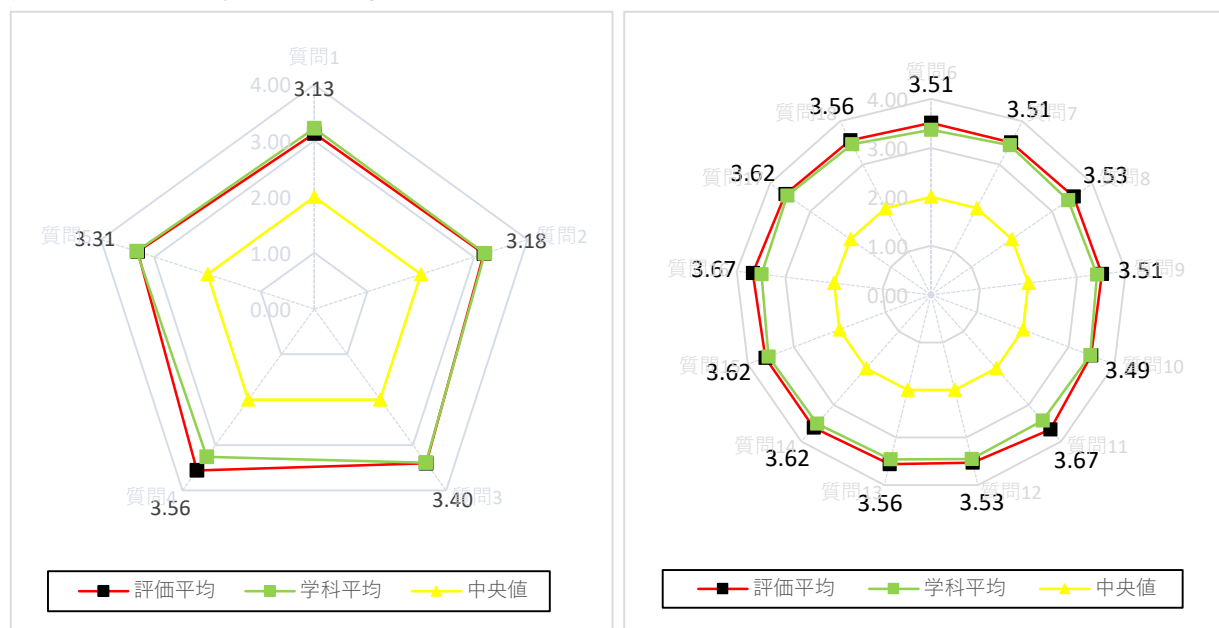
本科目受講学生の回答率は、63名中54名で、回答率85.7%であった。本科目への総合評価は子ども学科3.39、心理カウンセリング学科3.37と高評価であり、学生の総合自己評価は子ども学科3.28、心理カウンセリング学科3.17、授業に関する評価は子ども学科3.36、心理カウンセリング学科3.44と共に高評価であった。学生の感想として、事例検討の考察や子どもの支援に関する学びが深まったなどがあり、事例を用いた授業内容への好意見が多数聞かれた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

回答者からは高評価ではあったが、学生全員からの回答が得られるように、授業時の働きかけを意識していきたい。授業については、紹介する事例の検討及び分かりやすい解説の工夫を意識して、授業の準備を行っていききたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名         | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 子ども家庭支援の心理学 | 100名 |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

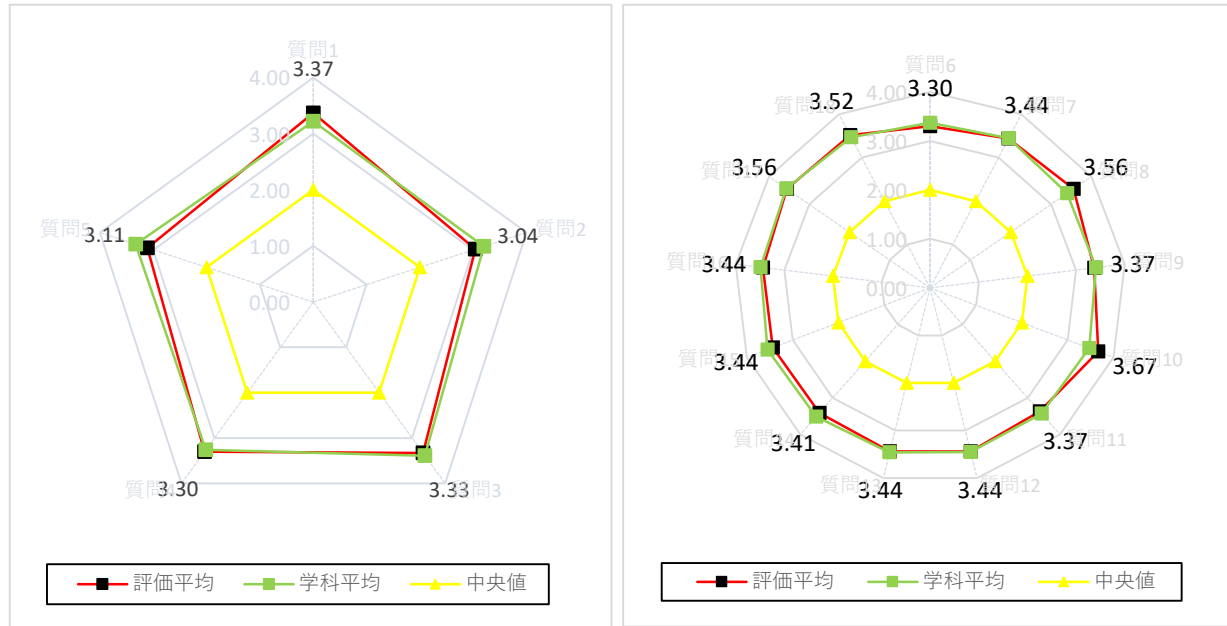
総合評価について、授業者は3.58、学科平均は3.53であり、0.05授業者の方が高かった。これに示されるように他の評価も一つの事項を除いて、授業者の評価が学科の平均値より高かった。唯一低い事項は「10. 視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか」の問いである。確かに視聴覚に訴える教材、中でも動画等は一切活用しなかった、その結果が反映されたものと思われる。一方従来学科平均に比し長い間低かった「シラバスの説明」は今回学科平均より高い評価を受けた。意識して説明を念入りにしたことが影響したものと思われる。さらに、学科平均より授業者の評価が顕著に高かった事項は「11. 教科書・配布資料等は役に立ちましたか」がある。配布資料に「漫画」を取り入れた配布物が含まれたことが影響しているのかもしれない。さらに「13. 授業の進む速さは適切でしたか」の問いへの評価も高かった。焦点を絞った解説を念入りにしたことが、受講者の理解を促したのかもしれない。

### (3) 次年度に向けての取り組み

全体的評価、各事項の評価も学科平均より高かった。この状態を維持していくべきと思われる。すなわち、シラバスをしっかりと説明する。配布印刷物に「漫画」等学生の理解を助ける資料を入れ込む、焦点を絞った解説を念入りにするなど心掛けたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 乳児保育 I | 42名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

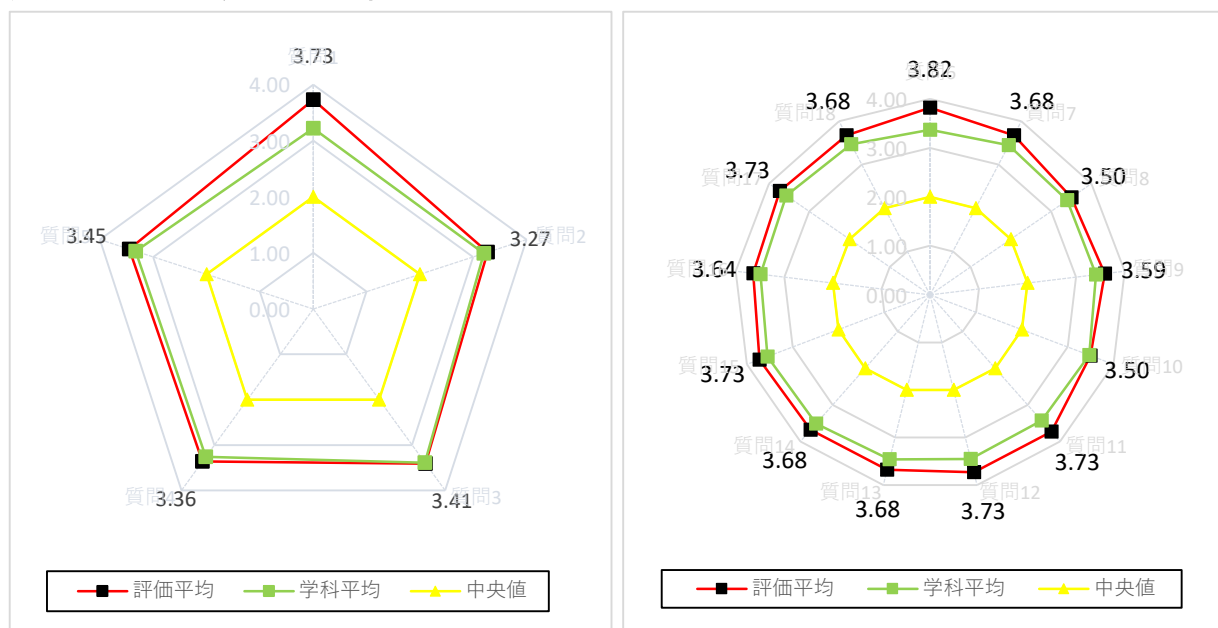
近年の保育所等における3歳未満児の子どもの就園率が高くなり、それに伴って乳児保育の重要性が指摘されている。令和3年度から「乳児保育」が「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」に分けられ、Ⅰは主に概論、Ⅱは実践の形式で行われた。Ⅱについては保育現場経験が豊富な教員が担当し、Ⅰの概論について担当した。授業は対面形式で行い、学生の考えや意見を聞きながらアクティブラーニングの形式で行った。テキストを用いながら、配布資料等も適切に準備し、状況に応じて視聴覚教材も使用しながら進めた。学生からの授業評価についてはすべての質問項目について一定以上の評価を得ている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

該当なし

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-----------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 子育て支援（基礎） | 70名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

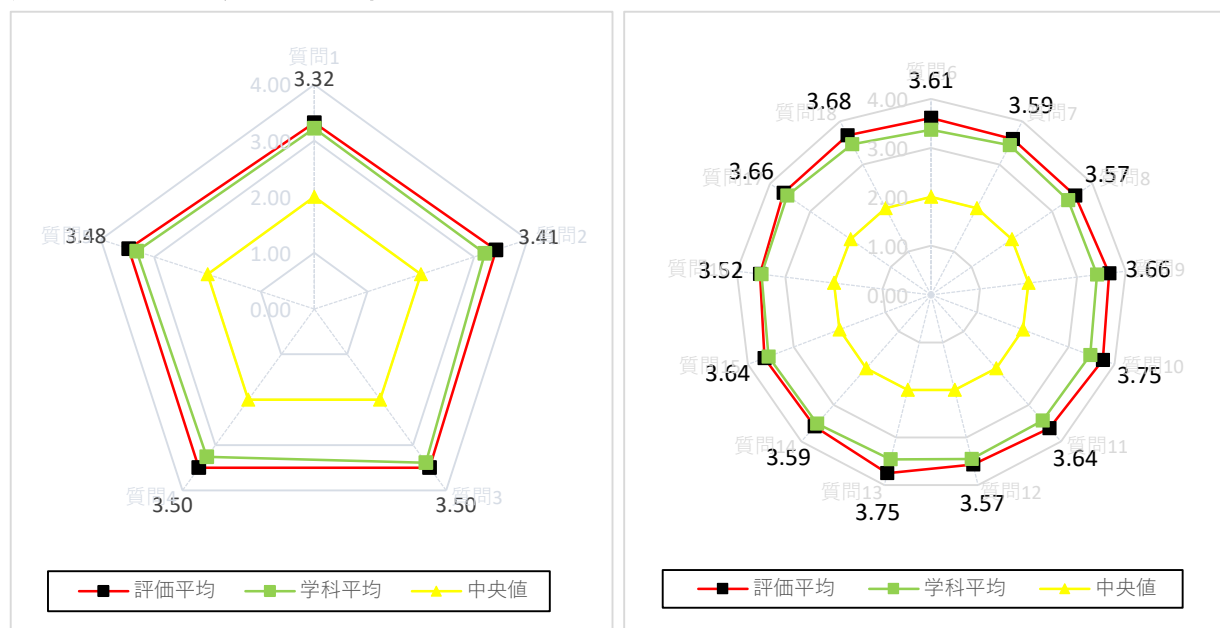
本科目受講学生の回答率は、30名中19名で、回答率63.3%であった。本科目への総合評価は3.62と高評価であり、学生の総合自己評価は3.42、授業に関する評価は3.74と共に高評価であった。学生の感想として、「事例検討の考察が楽しかった」「子どもの支援についてあらためて学ぶことができた」など、例年行っている事例の解説及び学生自身の考察を複数回重ねたことで、有意義な授業であったと実感していると思われる。関連して「レポートの記入時間が短いと感じた」とあり、このレポートとは、検討した事例についてのレポートのことと思われることから、授業の構成、時間配分を再検討することも考えたい。

### （３）次年度に向けての取り組み

回答者からは高評価ではあったが、学生全員からの回答が得られるように、授業時の働きかけを意識していきたい。授業については、今年度同様、基礎的な学びと事例紹介と考察を重視した応用的内容を大切にしながら進めていく。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名 | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-----|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 理科  | 73名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

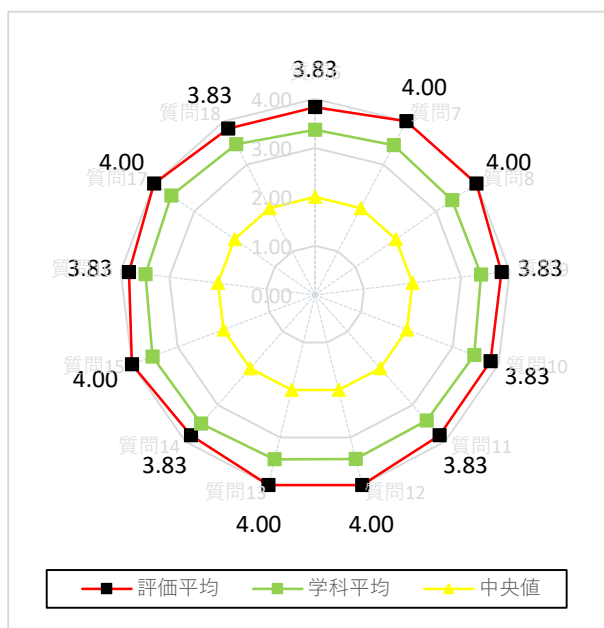
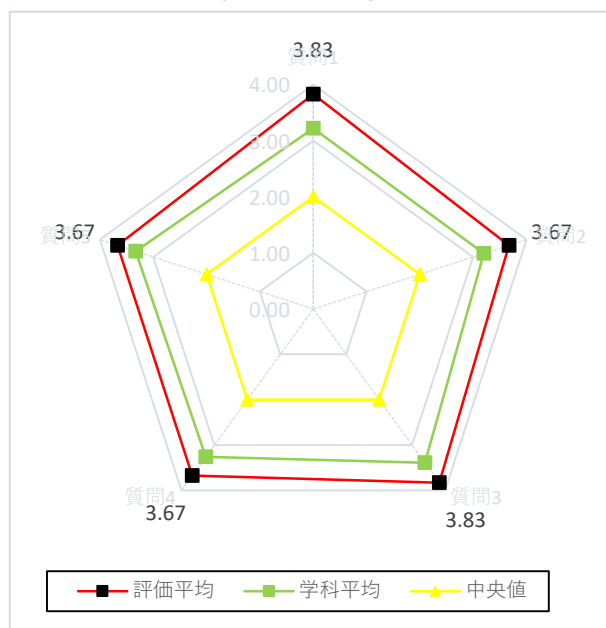
学生からの評価は概ね学科平均値と同じであった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

全体的に本学科の学生は理系科目についての関心が低いようである、今後は少しでも学生が興味を持つよう、授業内容を改善していきたい。また、アンケート回答率についても改善するよう次年度は指導したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名 | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-----|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 体育  | 66名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

全ての項目で高得点であるという点は自信になる。

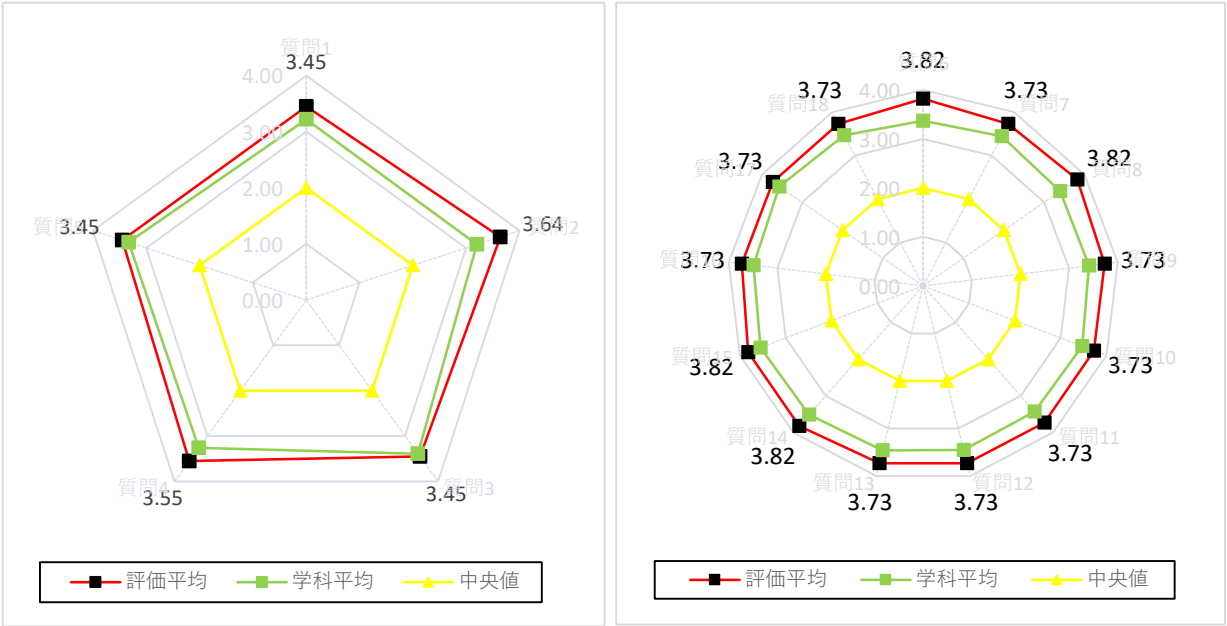
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度はより学生に主体性を持たせて授業を行いたい。



| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名 | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-----|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 国語  | 73名  |

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

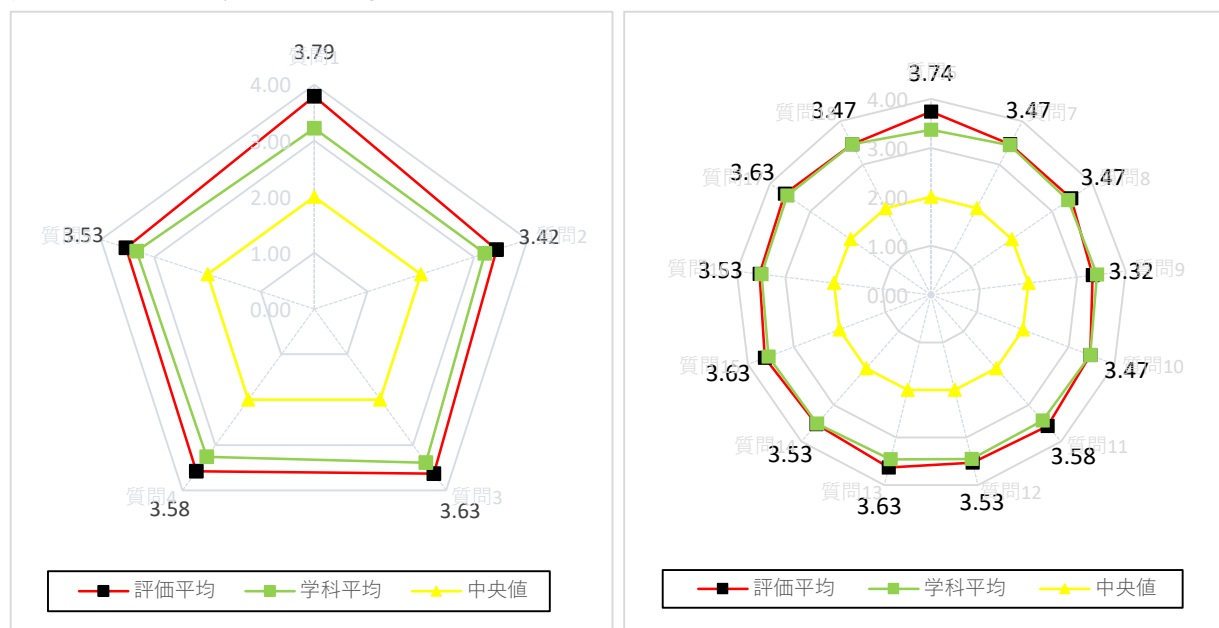
すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 幼児と人間関係 | 55名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

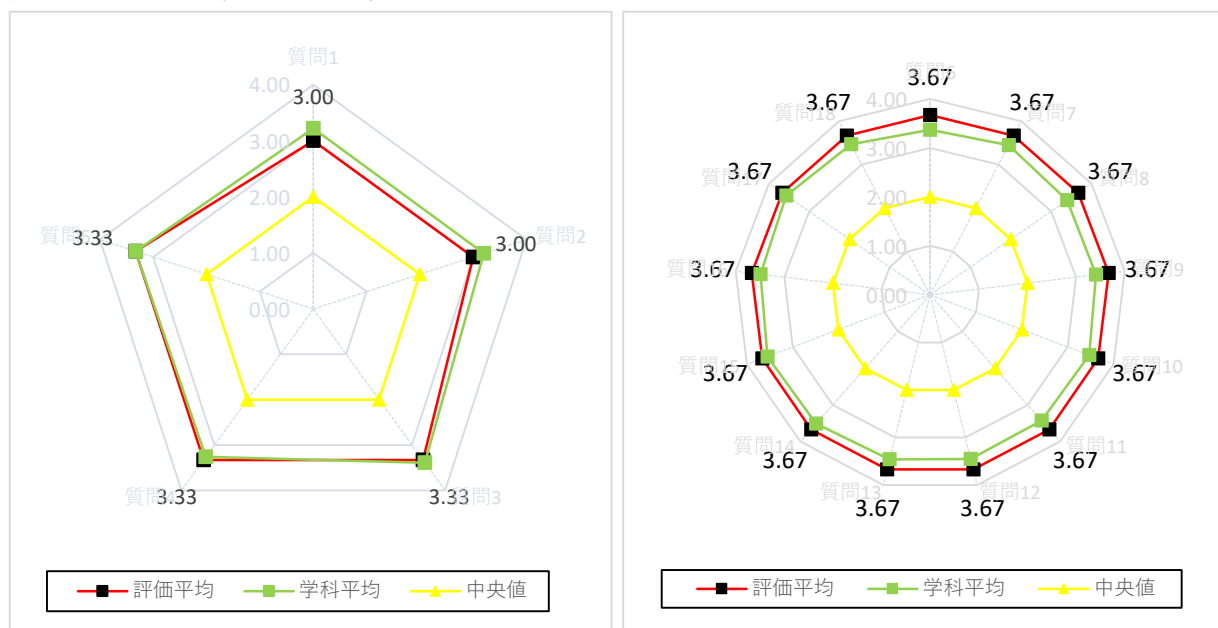
8回の授業の中で、①乳幼児の発達と特徴を踏まえ、それに応じた遊びや自立心を活かした生活の重要性の理解。②領域「人間関係」のねらいや内容の理解。③家庭・地域・園の役割と人的環境の重要性の理解を掴むことがねらいである。同時に、心は体調にも影響を受けるので、幼児期は特に「食う・寝る・遊ぶ」がいかに重要か。大人であっても「早寝・早起き・朝ご飯・朝うんち」は意識することも触れた。まず、人間関係なので周りの人との自己紹介から入ったが、編入生2人が受講しており、周りの学生と良い関係を作るきっかけとなったようであった。留学生は日本語が難しい幼で最後には自国の幼児教育を紹介してもらえなかった。また、教科書の説得力のある文章や現場の実例から、自分自身の人間関係に刺さると言う学生もいた。生涯に渡って人間関係は大事なので今の自分の悩みに引きつけて考えることが出来ているようであった。意見交換も取り入れ、人間関係が希薄と言われているが、避けなくなる理由等、考えた。自由席にしていたが、学びの姿勢に差があり、締めくくりは小テストだったが、範囲を絞ったので点数は取れていたが、取り組みにやや差があった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

8回の授業の中で、何を厳選して取り上げるかが課題である。乳幼児の発達と特徴を踏まえ、それに応じた遊びや自立心を活かした生活の重要性に焦点を置く。特に0, 1, 2歳児は最も重要であるので、様々な資料を提供しつつ深めていきたい。また、領域「人間関係」のねらいや内容の理解は、子どもの姿がエメージ出来るように絵や写真を用いる。その上で、家庭・地域・園の役割と人的環境の重要性も事例を出して考えていきたい。特に、生涯に渡って人間関係は大事なので、幼児期に人的環境が果たす役割を、自分事として過去の自分を振り返りながら、「人間関係を築く力」について深めていきたい。今後も学生同士の意見交換を取り入れ、人間関係にまつわる話題を学生から集めていく。そして「人間関係を学ぶ意義」を個々人が掴めるよう、学生が自分自身の言葉で納得していくよう、様々な工夫をしていきたい。実践を踏まえて、心の栄養剤である「絵本の読み聞かせ」の機会も取り入れていく。そして、毎回の授業の感想をとり、学生の捉え方、見方を踏まえ検討し、授業の柱をしっかりとしたものにしていく。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|-------|-----|-----|------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 卒業研究 | 5名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

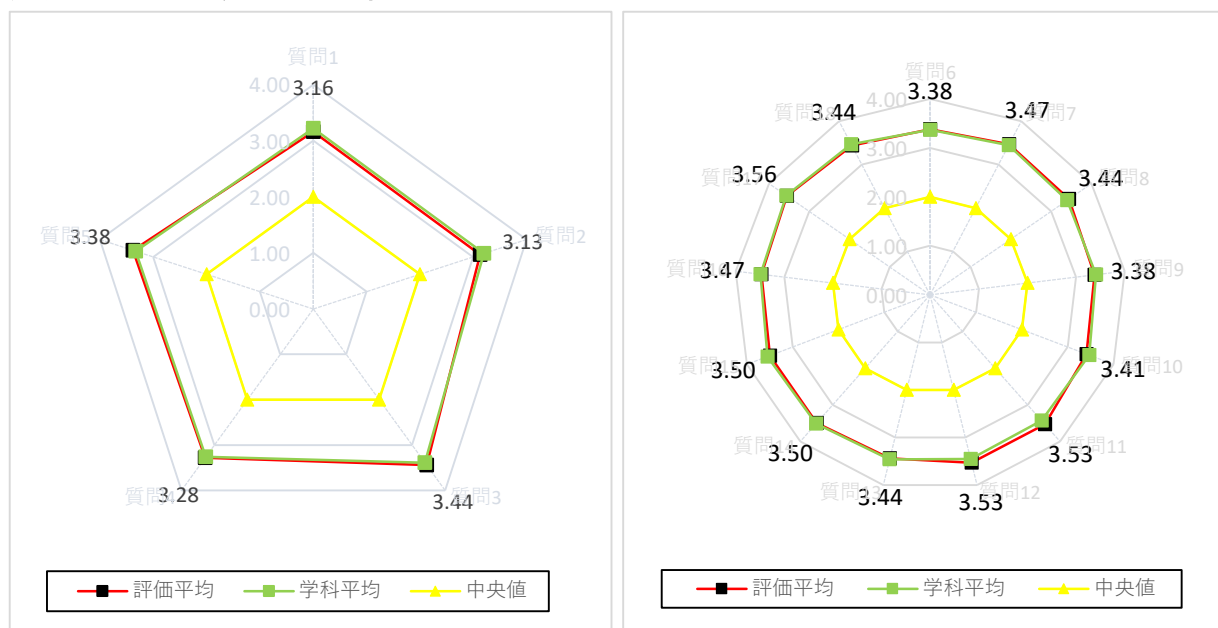
時折、体調不良のために欠席する学生が複数名出ることがあったが、体調回復後には各自で研究課題に取り組むことが出来ており、作業の遅れを取り戻すことが出来ていた。履修態度そのものは、全学生とも真面目であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

就職活動の時期が、一般企業、保育所・幼稚園、小学校教員採用試験等、個々の学生が受験する先によって異なるため、卒業研究の進捗状況も異なってくる。学生の住職活動と並行して、研究も進めていくことが出来るよう個々の研究テーマに応じた指導を行っていく。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名      | 履修者数 |
|-------|-----|-----|----------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 保育実習指導 I | 38名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

すべて対面授業で行った。実習指導については遠隔授業では伝えきれない部分も多いので、対面授業ができたことは非常に有意義であった。

初めての外部実習である施設・保育所実習に向けて、実習の意義・目的・心構えを学習するとともに、対象となる子どもや利用者の年齢や状況に応じた保育・支援、また指導計画・支援計画立案等さまざまな内容を習得できる指導を行うよう心がけた。特に学生にとっては、経験のない未満児や障がいをもつ利用者についての理解が非常に難しいため、視聴覚教材等を適切に使用したり、保育現場の保育者や指導員を招へいし、具体的な指導を盛り込むなどの工夫をしている。

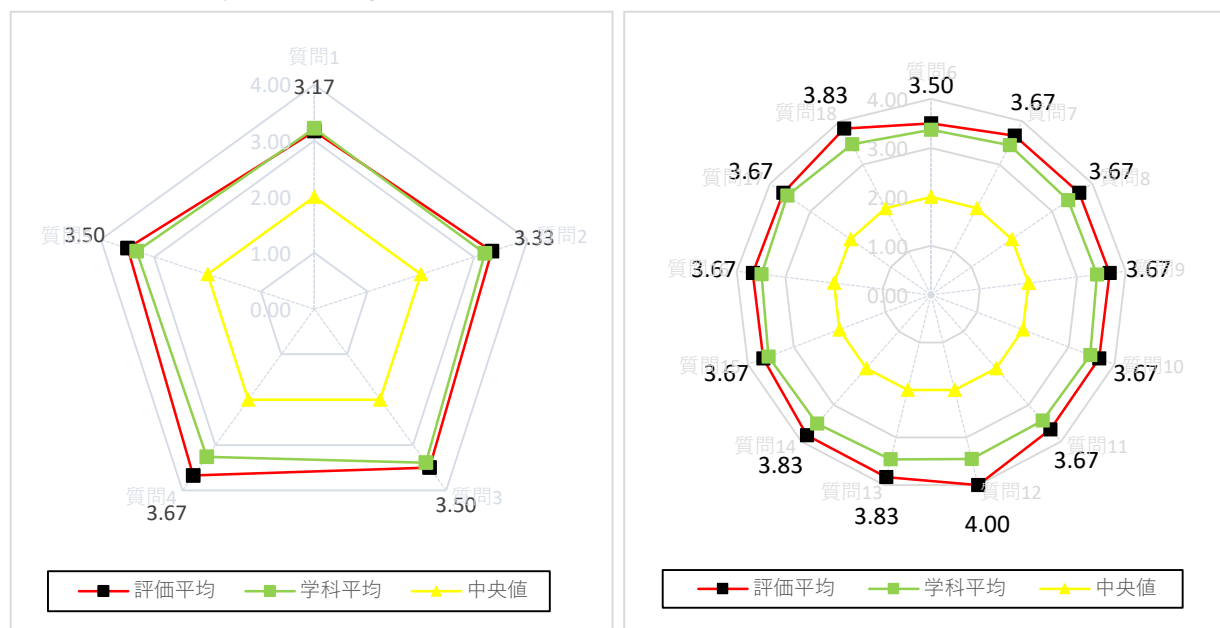
授業評価については一定以上の高い評価を得ている。学生も不安を抱えながらではあったが、より以上に真剣に取り組むことが高い授業評価につながっていると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

該当なし

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|-------|-----|-----|------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 卒業研究 | 7名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

「子ども学」領域において、各分野・学問に応じた教育研究や学術研究等を遂行し、その結果を提出・報告することが求められている。本ゼミにおいては「子どもの環境と文化」に視点を置き、さまざまな角度からアプローチして疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったことなど、身近な内容で興味や関心をもった研究テーマを各自選択し、深めている。

集大成である「卒業論文」作成については、遠隔授業も利用しながら対面授業で行った。コロナ禍で身に着けたオンライン授業もうまく取り入れながら進めることができた。アンケート調査をコロナ前と同じように夏休み前に行い余裕をもって分析・考察することができたが、7名の学生の取り組みの姿勢や進度に大きな個人差が見られた。

結果としては何とか論文を完成し、発表まで行うことができたことは学生の努力によるものであった。

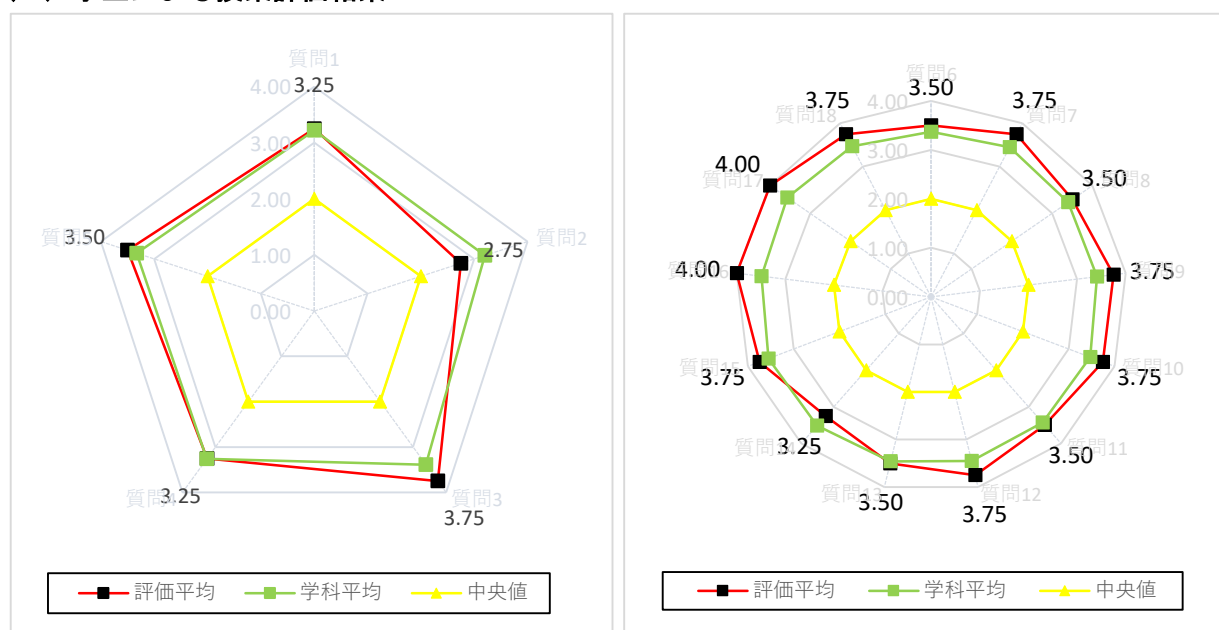
授業評価については、すべての項目について非常に高い評価を得ている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

該当なし

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|-------|-----|-----|------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 卒業研究 | 4名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

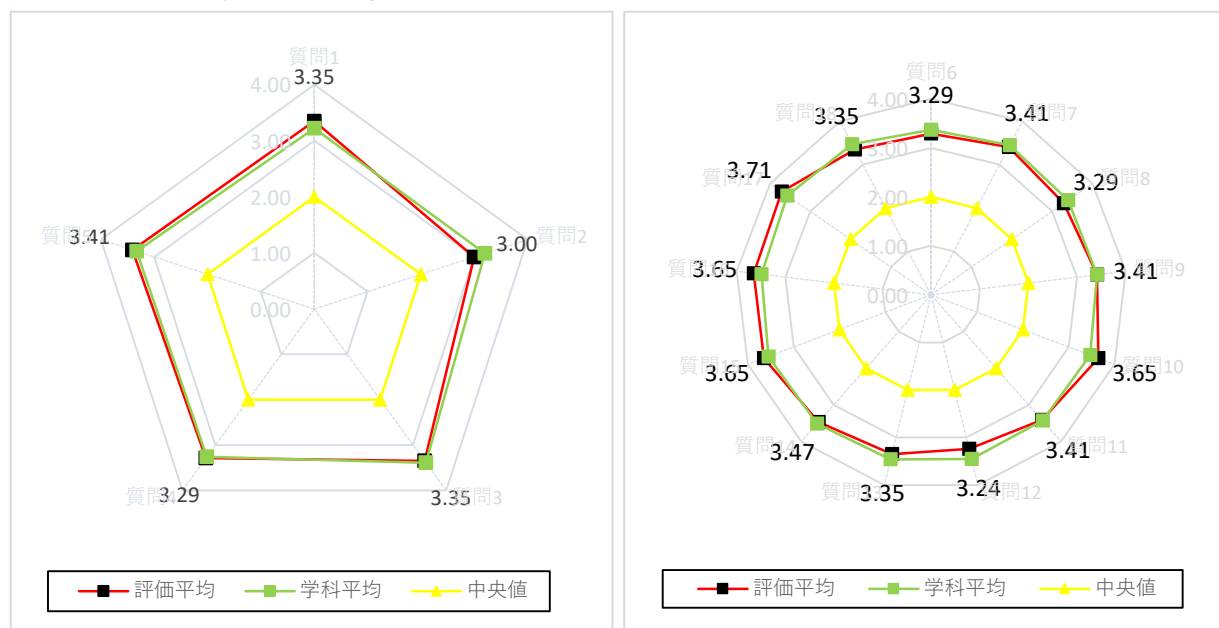
本科目受講学生の回答率は、4名中4名で、回答率100%であった。本科目への総合評価は3.57と高評価であり、学生の総合自己評価は3.50、授業に関する評価は3.57と共に高評価であった。学生自身の学ぶ意識、意欲の高さが窺え、結果として充実した卒業研究の取組となった。授業に関する評価のうち、質問1 4学生への質問等に誠実に対応するが、学科平均を下回っていたことに関し、質問への対応としてはその調べ方や考察の方法などを丁寧に伝えたうえで、学生自身が自発的に行動できるように導いていったが、他担当ゼミの教員と比較するとその対応はまだ十分とはいえないのだろうか。その一方で、双方向のやりとりや熱心さはかなり高い結果であった。今後は、さらに学生の意向を汲み取り、充実した研究となるように、指導を徹底していきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生の高評価が得られるよう、質問等への誠実な対応を念頭に置いて、個々人の研究に対する姿勢と方法を丁寧に伝授、指導していきたい。また、研究を通して、他者への興味関心、思いやりの精神を大切に、ゼミ内のチームワークの充実を図りたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 保育実習指導Ⅱ | 18名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

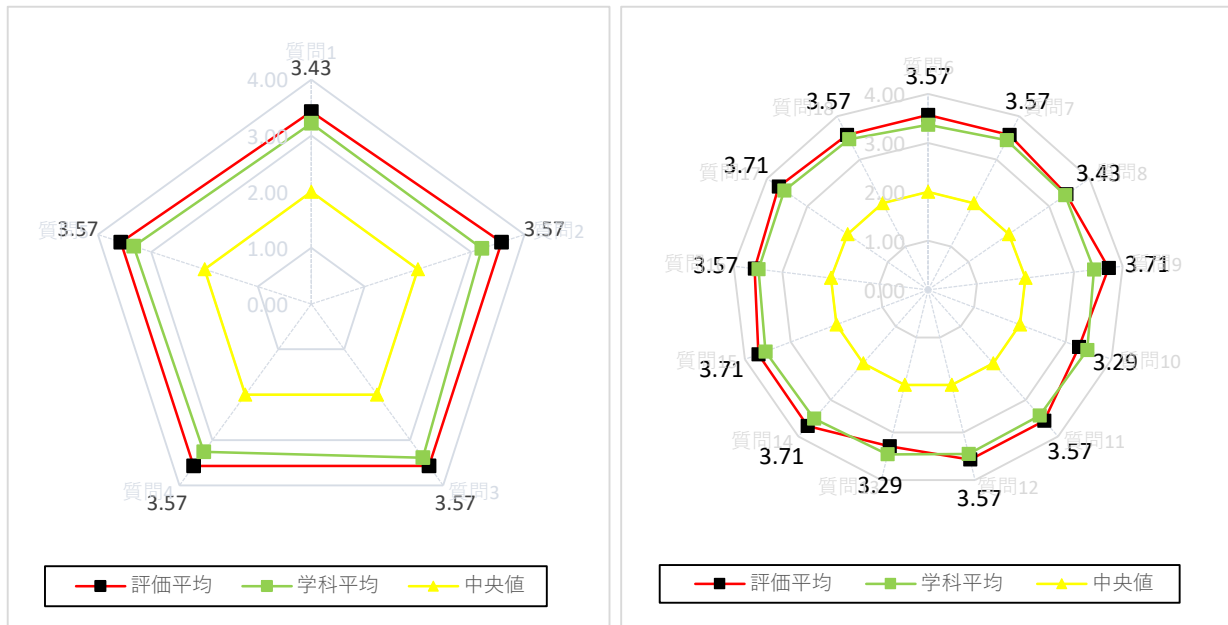
保育士の資格取得の集大成として、就職を意識した学生の真剣な姿勢が伺え、模擬保育やグループワークで大いに学び合う事が出来た。それが出席率や自己評価の高さに表れている。授業では、保育所での実習の目的を明確にし、子育て支援、地域社会とのつながり、小学校への接続などの問題にも触れた。ほとんどの学生が保育実習Ⅰ・幼稚園教育実習ⅠとⅡを経験しているので、模擬保育では子どもに実際に見せ聞かせるクオリティーの高い保育教材を作ることが出来ていた。また、責任実習の経験からの学びや保育の課題など、経験による生の声で意見交換が出来ていた。評価では、シラバスの活用や説明の評価が低いが、授業の目的・模擬保育の日程調整など計画的に進めてきた。また、視聴覚機器、板書の活用は少なかったのが、要点の明確な確認のためにも、もう少し取り入れていきたい。その分、配布資料は厳選して内容を補っていたが、説明を工夫していきたい。特に評価が高かったのが、授業は分かりやすく工夫されていた、公平に学生に対応した、教員は熱心に取り組んだ、総合評価、であったので、学生と教員側の意向が合っていたと分析している。

### (3) 次年度に向けての取り組み

ほとんどの学生が卒業に向け、保育・教育現場という社会を意識して授業に取り組んでいるので、保育実習Ⅱの目的を踏まえ、学生同士のやりとりで保育観・倫理観が深まる授業を目指したい。学生の中には道に迷い、欠席したり元気が出ない様子もあったので、相談にのりながら、実習は最後まで人生の糧になるように取り組むよう励ましていきたい。学生の模擬保育では、保育者役として奮闘し、導入や雰囲気作りなど、緊張しながらも楽しんで取り組んでいるようであったので、さらには子ども役の充実、その後の意見・情報交換を有意義にしていきたい。授業で取り上げる内容は、子育てにおける家庭との連携・地域との関わり・小学校との接続にしてきたが、保育現場の現状は複雑で厳しいことから、家庭問題など、学生の問題意識から取り上げ、見つめていきたい。今後、社会において助け合って学ぶ姿勢が大事になるので、グループワークを工夫し周りの協力者と共に意欲が湧くような時間を作っていきたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 保育実習指導Ⅲ | 9名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

保育実習指導Ⅲについては、対象となる学生が9名と少ないため、ゼミ形式で授業を進めている。  
 本年度はすべて対面授業で行った。それによって遠隔授業では伝えきれない細かい部分も十分に伝えることができた。実習先施設の種別としては、今回の受講生の実習先は児童養護施設を中心にさまざまな種別であったため、お互いが情報を共有し学べるよう配慮して進めた。  
 授業評価については、自らの学びについての評価も授業についての評価も高い。

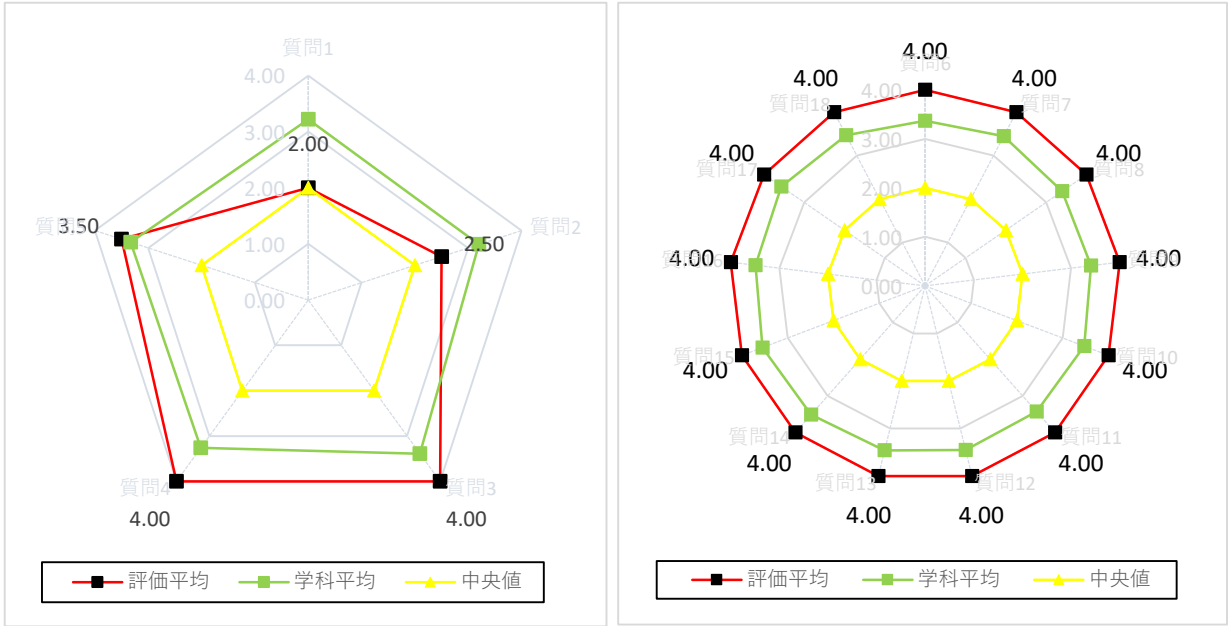
### (3) 次年度に向けての取り組み

該当なし



| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名   | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 幼児と健康 | 46名  |

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

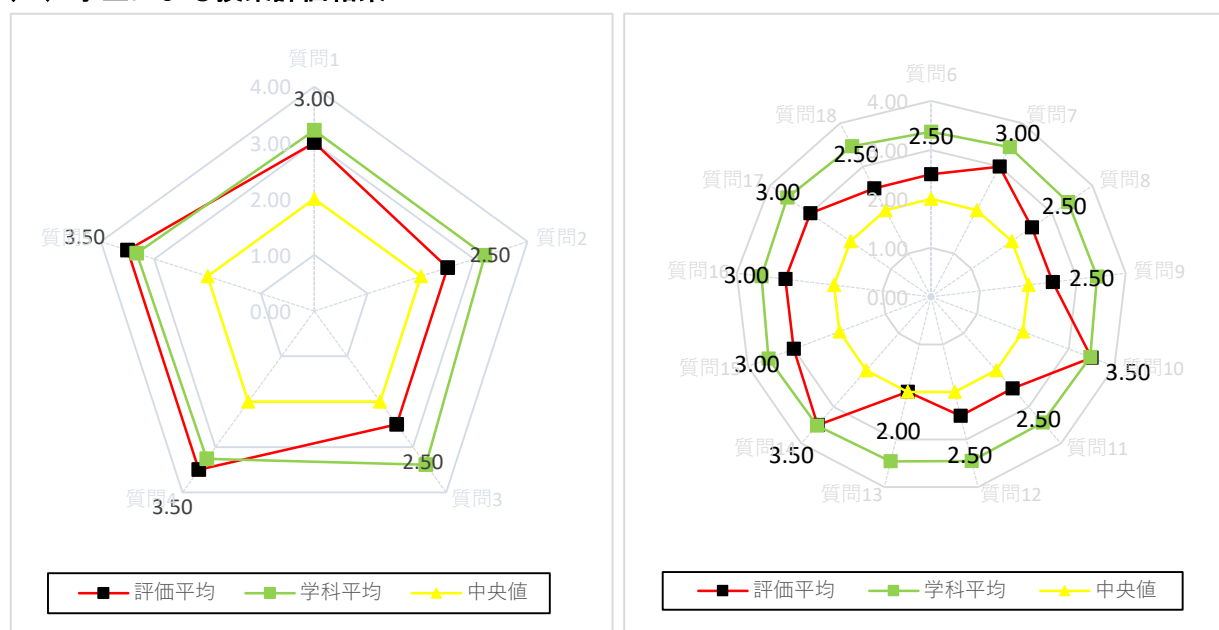
すべての項目が高得点である。授業の欠席者が多いのが気になる。授業としては良かったと考える

（３）次年度に向けての取り組み

授業への出席を促す仕組みについて検討したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-----------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 幼稚園教育実習指導 | 54名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

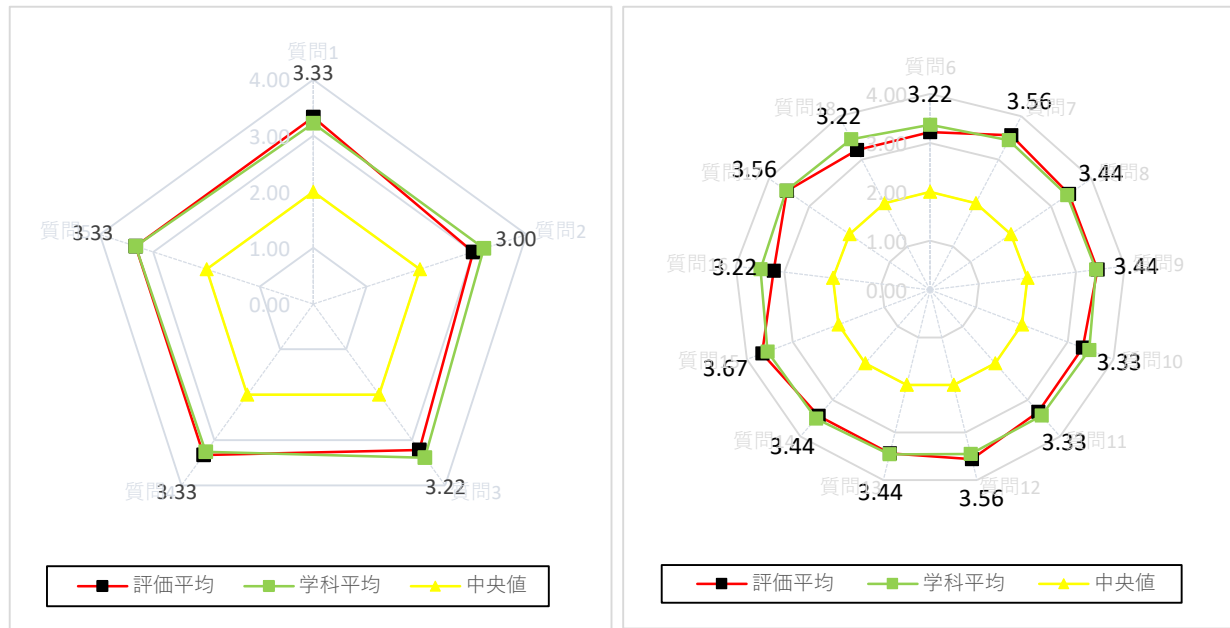
2年次、学生の初めての事前活動は、実習の意義を明確にし、日誌の書き方を学び、何より指導案作成は学生も教員も苦労して立案した。附属幼稚園側は、未熟な実習生に苦慮されながらもご指導頂き、幼稚園教育実習Ⅰを終えることができた。事後活動ではグループにより、実習で学んだことのテーマを絞り、図解作成に取り組んだ。そこから明確になった課題と目標を持って次の実習に繋げている。学生の評価で授業計画の評価が低かったので周知に気を付けていきたい。3年次、去年に引き続き、小学校教育実習が一斉にはなく、何人かずつ五月雨式に行われたため出席状況や構成メンバーに合わせて、授業を展開した。幼稚園教育実習Ⅱの事前・事後の活動は、各自が実習に向けて個人的に取り組んだ。実習手続きの書類配布や指導が難しく、県の企画である保育士の魅力を伝えるセミナーには、全体の半数しか参加できなかった。それでも、この授業の自己評価が高い数値で示され、実習を多くこなした自信が表れていると感じた。実習後の個人テーマによる学びの図解作成は意義深く、作った保育教材に取る模擬保育は保育の奥深さや喜びを感じるものでとても有意義であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

2年次の事前活動は、個人が実習の意義をこれまでよりも明確にし、実習の心得をもって真剣に取り組み、附属幼稚園には迷惑を掛けないように指導したい。指導案作成は難易度が高いので、子どもの姿をイメージしやすいような工夫をしていきたい。事後のグループ活動は、学生の貴重な学び合いの場になるので発表まで丁寧にやり遂げ、それをもとに個人の課題と目標を、次の実習に繋げていく。しかしその後の問題は、幼稚園教育実習Ⅱが、3年次の2月、春休みに設定されている事であった。事前活動は、DVD視聴による日誌の書き方のスキルアップ、指導案を立案した。保育教材により模擬保育なども取り組めた。一方事後には、今年度まで行ってきた個人の学びを整理し、他者に発表し意見交換する時間がとれなかったため、2月末日までのレポート提出を最終課題とし、こちらからコメントを返した。未提出が10人程だった。日誌の提出や個人レベルの学びに留まるようで残念である。「実習で得た学びの報告会」をしていく具体策を練り、保育の面白さや魅力を学生自ら見出せるよう、学生の意見を聞きながら、幼稚園教諭の資格取得に相応しい締めくくりを実践したいと考える。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名   | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 幼児と環境 | 44名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

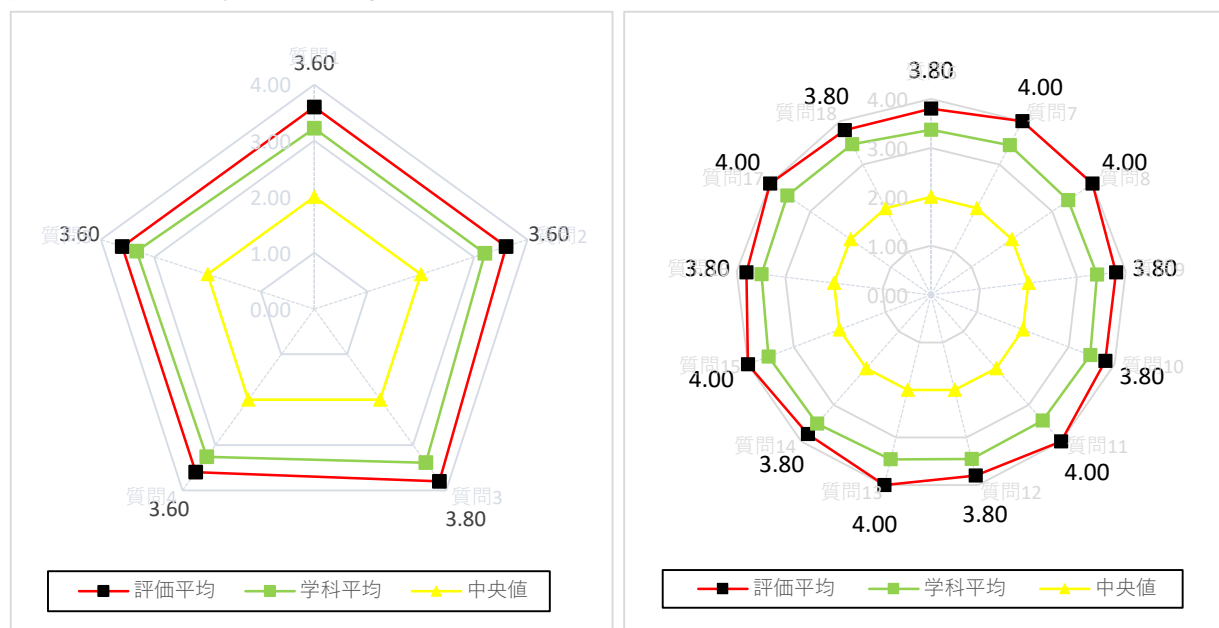
学生からの評価は概ね学科平均値と同じであった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学生のアンケート回答率は非常に低かった。来年度は改善するように指導した。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-----------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 幼稚園教育実習 I | 39名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

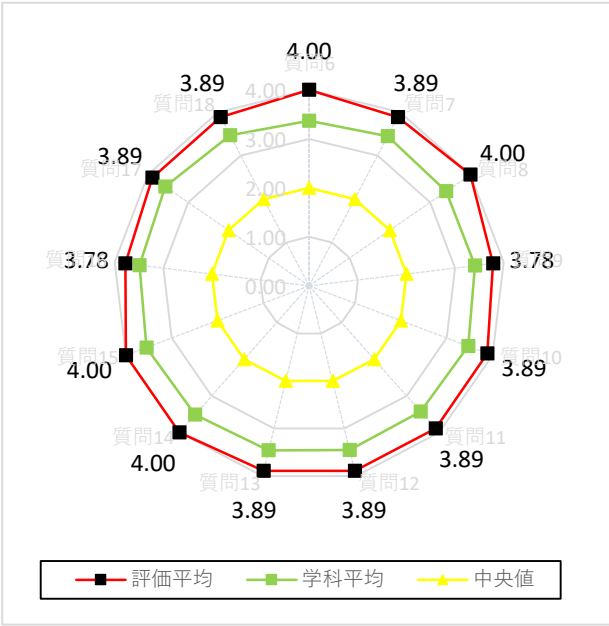
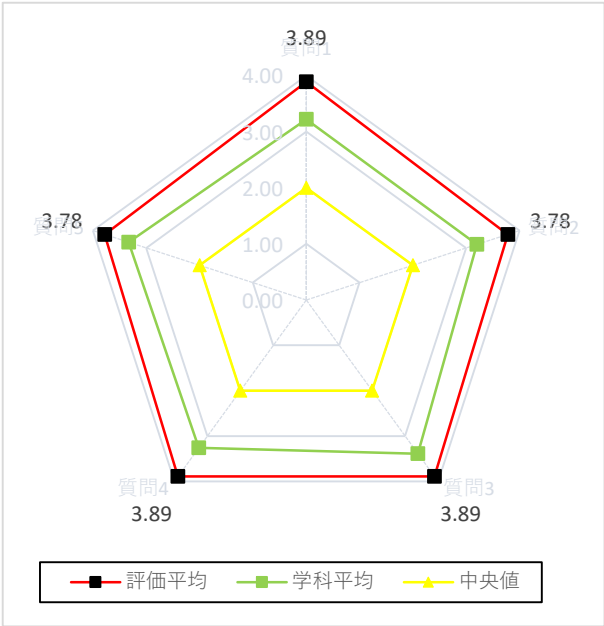
幼稚園教育実習 I は、保育を学ぶ学生にとって初めての保育現場である。附属幼稚園においては、まだ感染症のリスクの中、41名を受け入れて頂いた。配属先の担任の教諭には、学生一人一人が机上で立案した指導案を夏休み中に添削して頂いた。10日間の実習では、観察・参加・部分実習を経て、指導案に基づいた責任実習の機会を得た。今回、aクラスは実習の8日目に運動会に貢献しよく働いていた。担任からは個人指導に手がかかったようであった（日誌の未提出が何度もあり指導が大変、帽子弁当忘れ、責任実習の前日までの準備不足、給食のおかわりや鼻血の報告なし等勝手な行動、その他）。bクラスは芋掘り体験で園外保育など、学ぶことが多く実習態度の困り事はあまりなかった。責任実習については、担任に相談しないで内容を変えた等が数件あった。例年同様の言葉遣い、他のクラスへの実習生への行き来、掃除があまり出来ない等については、注意を促すと改善することもあった。評価などの結果を見ると初めての实習は得るものが多く、学生の自己評価が高いと分析する。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今回の幼稚園教育実習 I の結果を受け、実習生としてどうあるべきか、具体的に実際に伝えていく必要がある。現代の学生は保育中、傍観していることも多く気づくことは少ないので、担任からの指示が必要であった。初めての実習はその上で学生が自分自身で考え、自覚と心得を明確にする必要がある。対策として実習に向け、態度や言葉の表現、目的意識を自分の言葉で伝えるなど、経験のない学生が、気づきを持てる取り組みをしていきたい。また、実習中の様々な事柄について、学生との会話から悩みや課題にいち早く気づき、対応をしていきたい。同様に、園の先生方からの気づきにも応じ、その都度実習中に改善していききたい。次年度に向けて園と大学で話し合い①日誌について、エピソード記録や、日誌の内容を子ども理解に繋げるよう記録部分を区切り焦点を当てた書き方②指導案の活動内容の事前のすり合わせ等、検討して頂いた。次回は大学側の教員体制や日誌が変わる。実習生自身が子どもの魅力・保育の面白さに目覚められようサポートしていく心構えである。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名   | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 幼児と言葉 | 53名  |

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

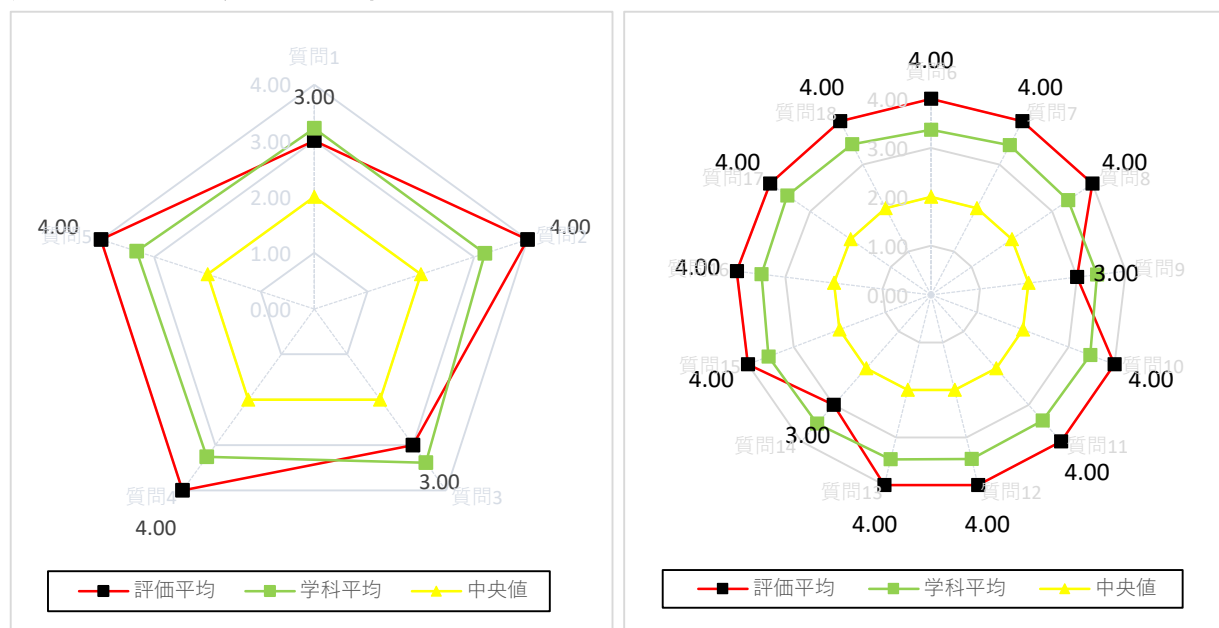
すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名      | 履修者数 |
|-------|-----|-----|----------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 幼稚園教育実習Ⅱ | 54名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

幼稚園教育実習Ⅱでは、幼稚園教育実習Ⅰにおける経験と自らの課題を踏まえ、各幼稚園の特性や一人ひとりの子どもの実態、保護者の状況等を理解し適切な援助を行うことが目標となっている。また、専門職としての幼稚園教諭の役割や職務内容を理解し、自らの保育観や倫理観をさらに深め、新しい学習課題を発見する機会としてとらえることが必要とされる。

この授業評価については、一人ひとりの学生がそれぞれの実習園でさまざまなことを学び、その過程や結果について自己評価したものであるが、質問内容が実習そのものにはあまりそぐわない内容となっている。実習が「分かりやすく工夫がされていたか」「質問に誠実に応じていたか」についてやや評価が低い、自由記述に記載がないために、実習の詳しい事は分からない。しかしながら、それ以外一定以上の高い評価をしており、この経験が学生にすばらしい影響を与えていると考えられる。

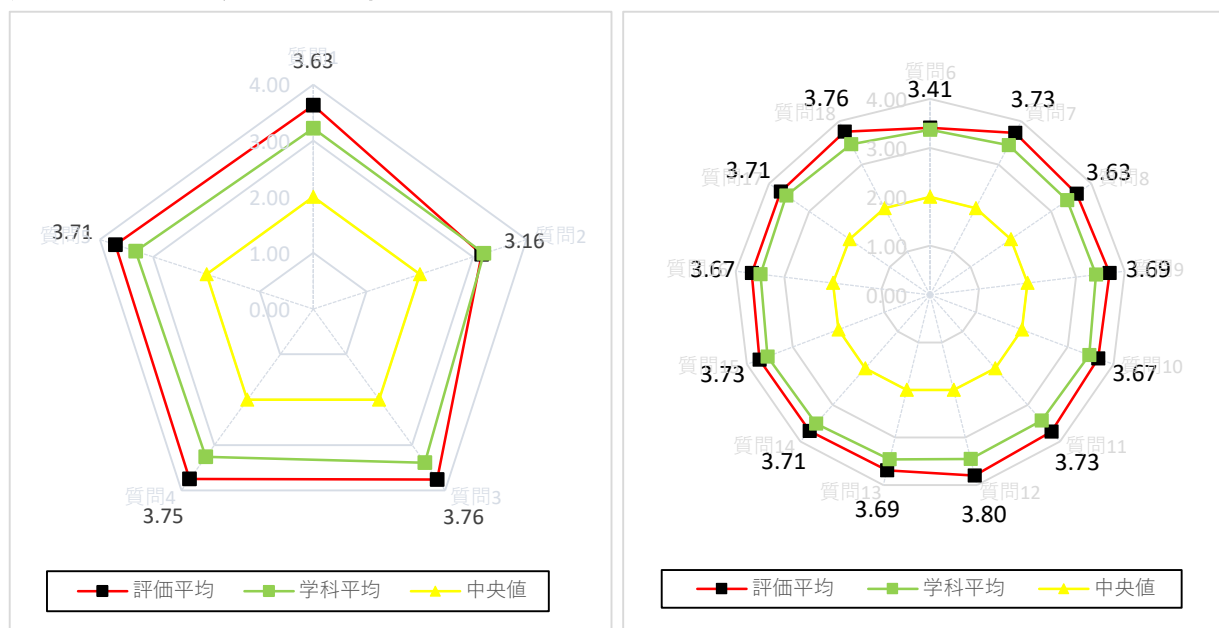
### (3) 次年度に向けての取り組み

幼稚園教育実習Ⅱは、3年生で行われる幼稚園教育実習の仕上げの実習である。自らの今後の進路を定めるうえでも非常に重要な実習であると言える。特に地域社会における保育の現状、子育て支援、保護者支援に対する理解や実践についても求められており、その内容は多種多様である。春休み中の2月の実習に対し、学生のレポートには、子ども理解を深め、保育技術の向上に意欲を持ち、一人一人に合わせた対応の必要性を学び、小学校と接続の問題意識を明確にしているようであった。

これらを踏まえ、令和7年度は実習園ともなお一層連携を密にし、学生一人ひとりの保育観や倫理観を確立していけるよう努力しサポートしていきたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|-------|-----|-----|---------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 小学校教育実習 | 60名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

- ・ 質問2及び6を除く16項目すべてにおいて学科平均を上回っており、加えて16項目すべてが3.6以上であることから、本授業の目標である、受講学生が「実習を通して小学校教諭の職務内容についての理解を深め、実践的指導能力を養うとともに小学校教諭としての適性・能力や覚悟等を確認する」ことは十分達成することができたと考えている。
- ・ 自由記述についても、すべてが肯定的なものであり、大学では学べない実践的なことを学べる、あるいはめざす職への意を新たにすうえでたいへん有用な授業であったというものであった。
- ・ 学科平均を下回った質問2及び6について、オリエンテーションにおいて実習計画等の説明は行っているが、そのこととシラバスとの関係づけが弱かったものと考えている。

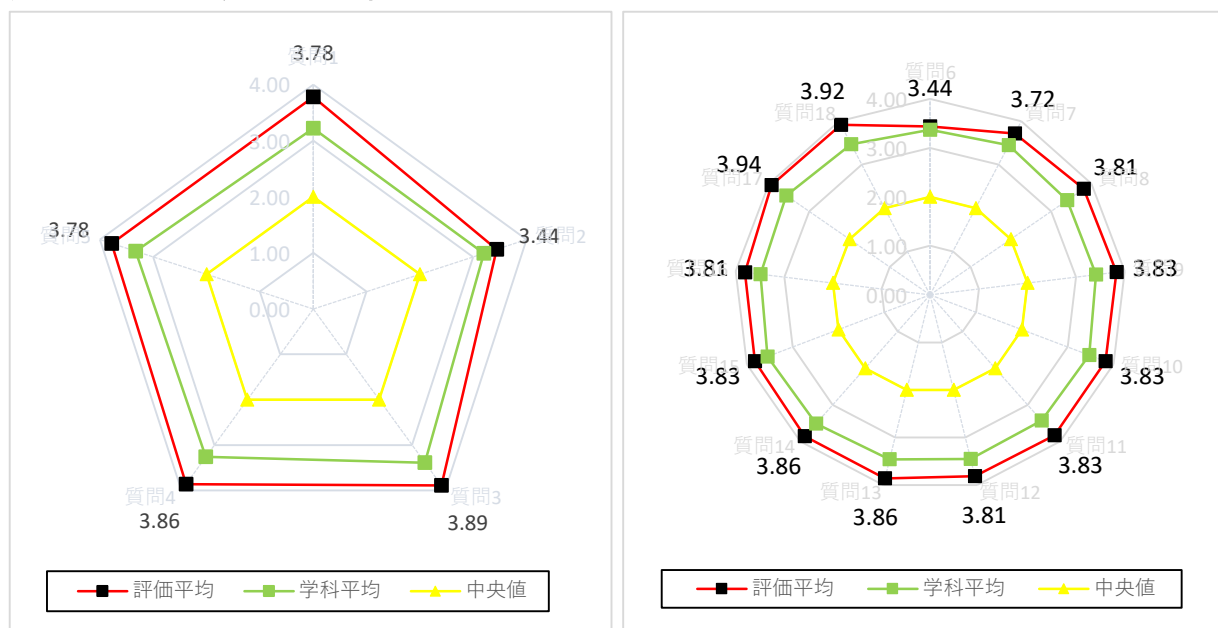
### (3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 引き続き、実習を通して、受講学生が小学校教諭の職務内容についての理解を深め、実践的指導能力を養うとともに小学校教諭としての適性・能力や覚悟等を確認することに資する授業とすることができるよう、受入れ校との連携・協働を密にし、適宜、受講学生の意向も踏まえながら、実習内容と巡回指導の質の向上に努める。



| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 学校体験活動 | 57名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

- ・ 質問6を除く17項目すべてにおいて学科平均を上回っており、加えて17項目中16項目が3.7以上であることから、本授業の目標である「小学校での授業参観・教育活動体験を通じて、保幼小の子どもの実態や接続等を意識し、今後の自分の進路目標を明確にさせる」ことは十分達成することができたと考えている。
- ・ 自由記述についても、疲労に関する1件を除くすべてが肯定的なものであり、3年次の教育実習に向け、あるいは自身の進路決定において、めざす職への意を決するうえでたいへん有用な授業であったというものであった。
- ・ オリエンテーションにおいて授業計画の説明は行っているが、そのこととシラバスとの関係づけが弱かったものと考えている。

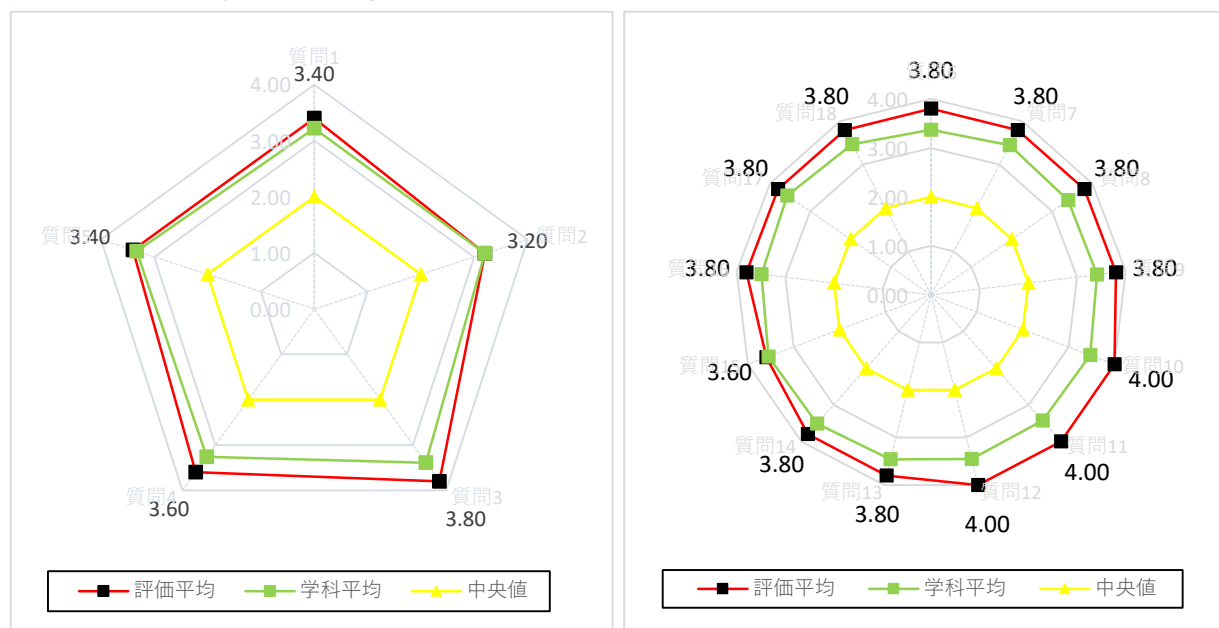
### (3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 引き続き、3年次の教育実習に向け、あるいは受講学生の進路決定において、めざす職への意を決することに資する授業とすることができるよう、受入れ校との連携・協働を密にし、適宜、受講学生の意向も踏まえながら、授業内容及び指導の質の向上に努める。



| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名        | 履修者数 |
|-------|-----|-----|------------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 保育実習Ⅱ（保育所） | 18名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

保育実習Ⅱでは、保育実習Ⅰにおける経験と課題を踏まえ、各保育所の特性や一人ひとりの子どもの実態、保護者の状況等を理解し適切な援助を行うことが目標となっている。また、専門職としての保育士の役割や職務を理解し、自らの保育観や倫理観をさらに深め、新しい学習課題を発見する機会としてとらえることが必要とされる。

本年度は感染拡大を理由としてPCR検査やワクチン接種を条件とするものではなく、実習を希望する学生の全員が実習を終了することができた。学生にとっては実習をさせていただけることに感謝の気持ちが大きく、その気持ちをもって行動することができた。この評価については、一人ひとりの学生がそれぞれの実習園でさまざまなことを学び、その過程や結果について自己評価をしたものであるが、質問内容が実習そのものにはあまりそぐわない内容ではあるものの、おおむね一定以上の評価をしている。また、自分の保育観を確かめる就職に繋がる最後の実習園となったようであった。

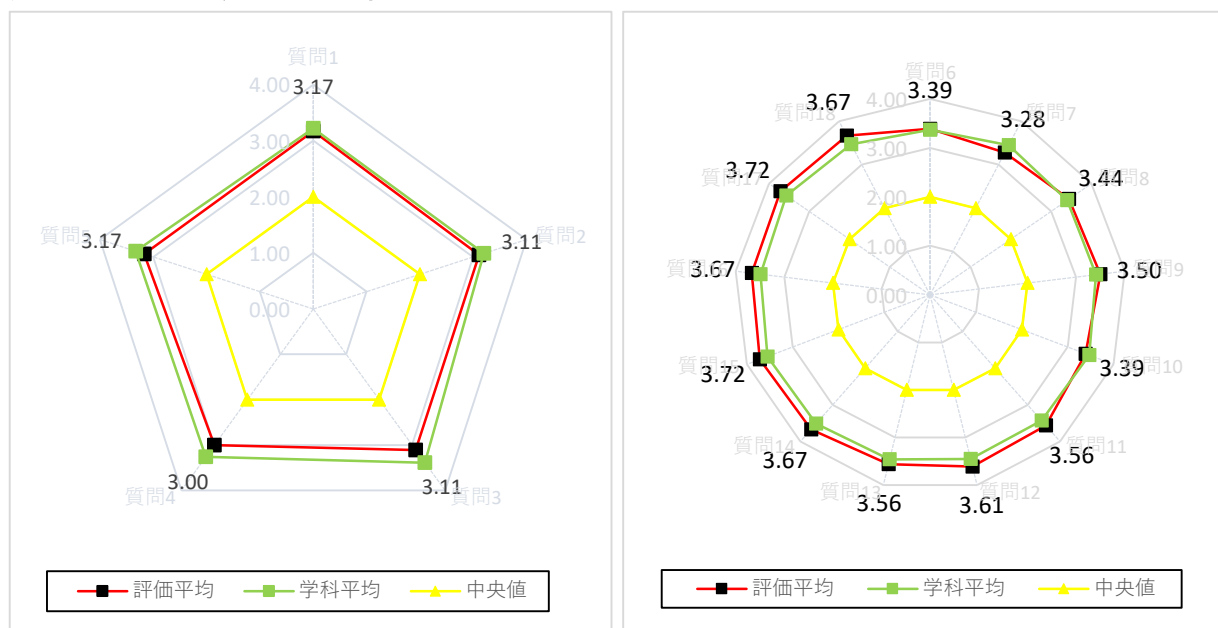
### （３）次年度に向けての取り組み

保育現場では、コロナ禍は明けたものの対象児には未満児もいるため、今まで以上に学生にも配慮するよう指導する必要がある。実習担当者として臨機応変に対応できるよう心がけたい。保育実習Ⅱは、最終学年である4年生で行う仕上げの実習である。自らの今後の進路を定めるうえでも非常に重要な実習であると言える。特に地域社会における保育の現状、子育て支援、保護者支援に対する理解やその実践についての学習、保幼小連携、さらには、さまざまな社会資源との連携の実際などについても学習することが求められており、その内容は多種多様である。最後の集大成となる実習において、学生自身の問題意識も高く、特性を持った子どもに対する支援や、現場の保育者不足を実感していた。

これらを踏まえ、令和7年度は実習園ともさらに連携を密にし、学生一人ひとりの保育観や倫理観を確立して行けるよう、サポートしていきたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 音楽（応用） | 20名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

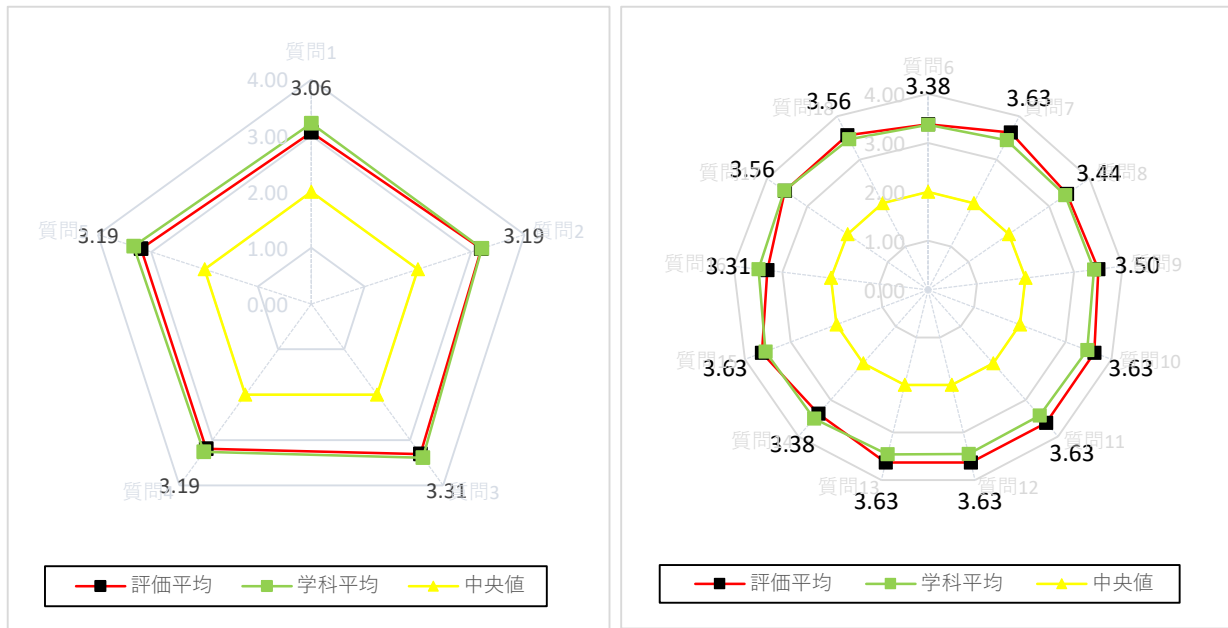
この科目は、カリキュラム変更に伴い、今年度に限り前期には4年生を対象に開講し、後期には3年生を対象に開講した。3年生は学外実習の時期と重なっていたため、実習の準備を進めておく必要に迫られていた時期であったことから、音楽（応用）の課題提出が遅れがちになる学生が出た。学生の自己評価の各項目の点数がやや低めになっているのは、こういった自己反省によるものと考えられる。

### （３）次年度に向けての取り組み

カリキュラム変更に伴い、次年度は開講無しとなっている。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名   | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 環境教育論 | 92名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

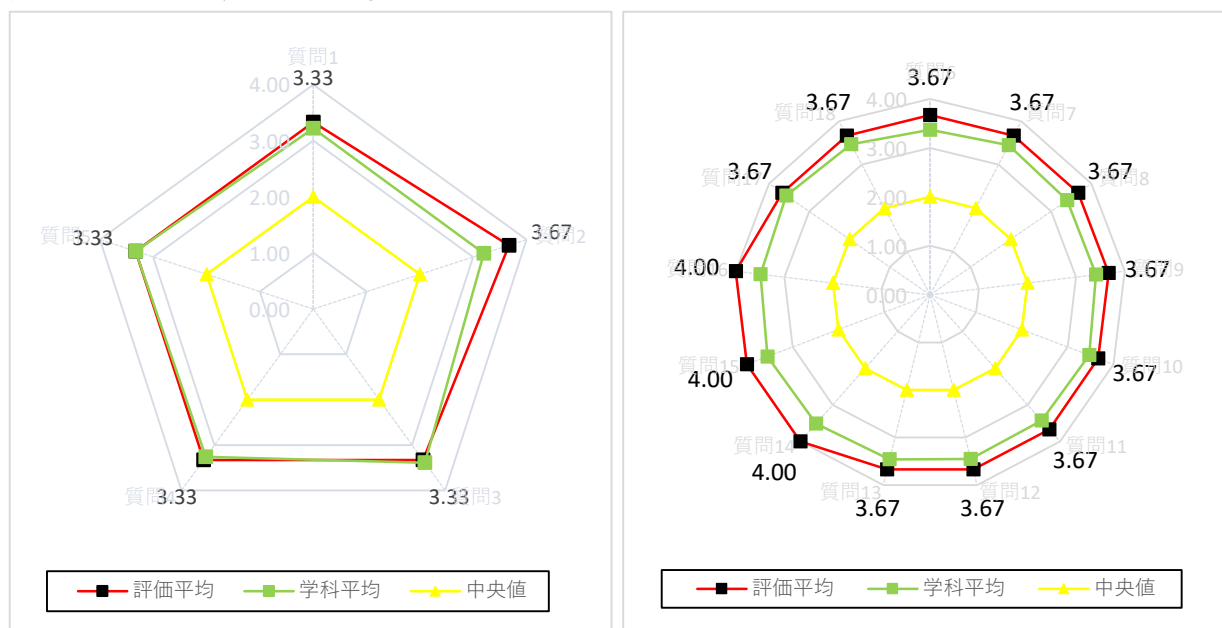
学生からの評価は学科平均値とほぼ同じであった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

地球環境問題は日々変化している。学生が興味を持つように授業内容をアップデートしていく予定である。アンケートの回答率についても、来年度は改善するように学生に指導したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名   | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 国語科演習 | 29名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

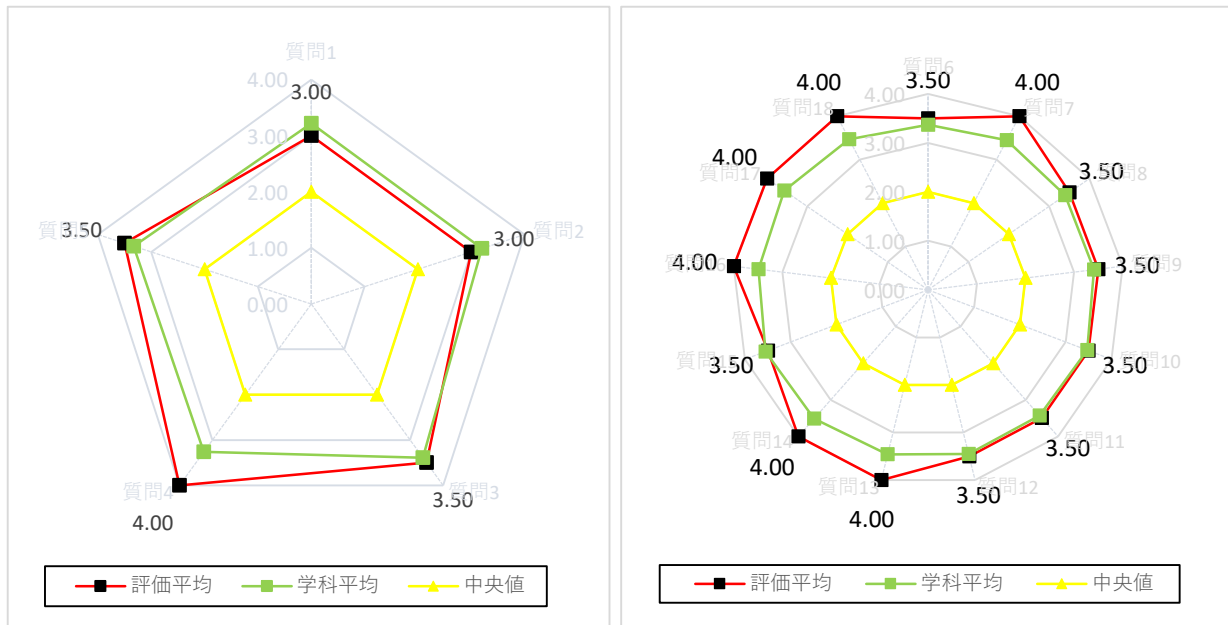
全体的に十分な成果を出せていないといえる。とくに授業への真摯な取り組みに関する項目の評価が低いため、指導のあり方を考える必要がある。

### (3) 次年度に向けての取り組み

少人数授業であったため、授業中の私語、居眠りはなかったように考えていたが、その項目で多少低い学生の評価がみられるため、丁寧にみていく必要がある。ただし次年度は当該授業は未開講であるため、再来年度への持ち越し課題とする。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 体育（応用） | 32名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

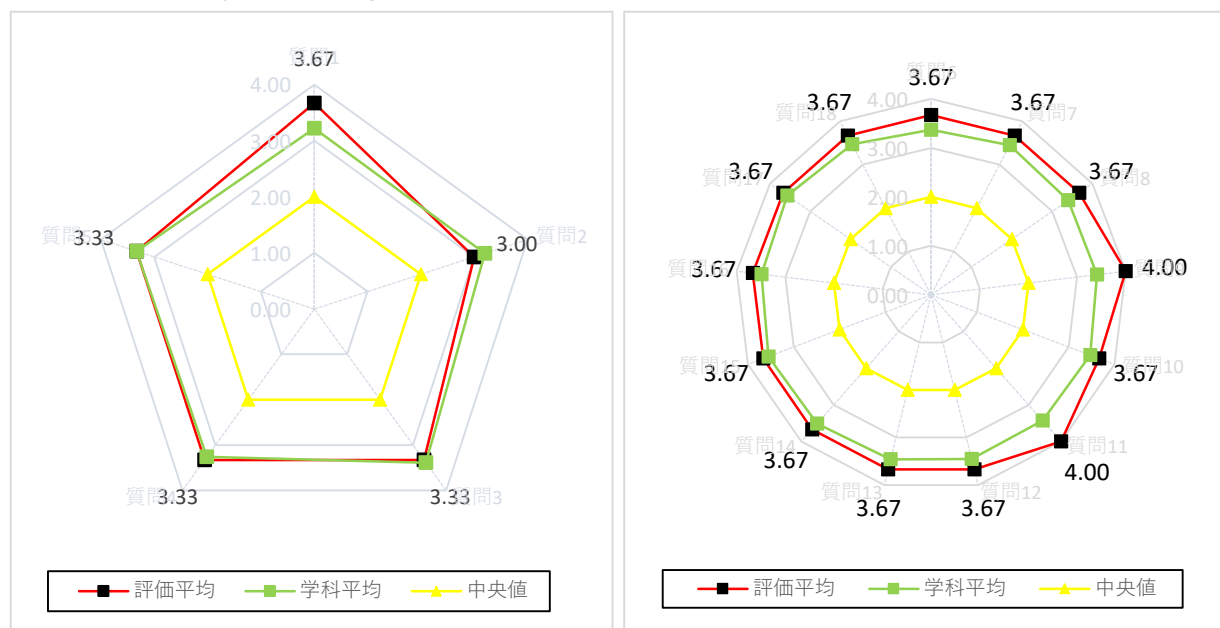
全ての項目において高得点であると言えるが質問項目の１５については学科平均を下回った。この点については自身の言動等に問題がないか反省したい

### （３）次年度に向けての取り組み

自身の言動等に今まで以上に注意を払い質問項目１５も高得点にしたい。実技の性格上どうしても全てに公平に接するのは難しい面もあるが、努力する

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|-------|-----|-----|------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 理科演習 | 19名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

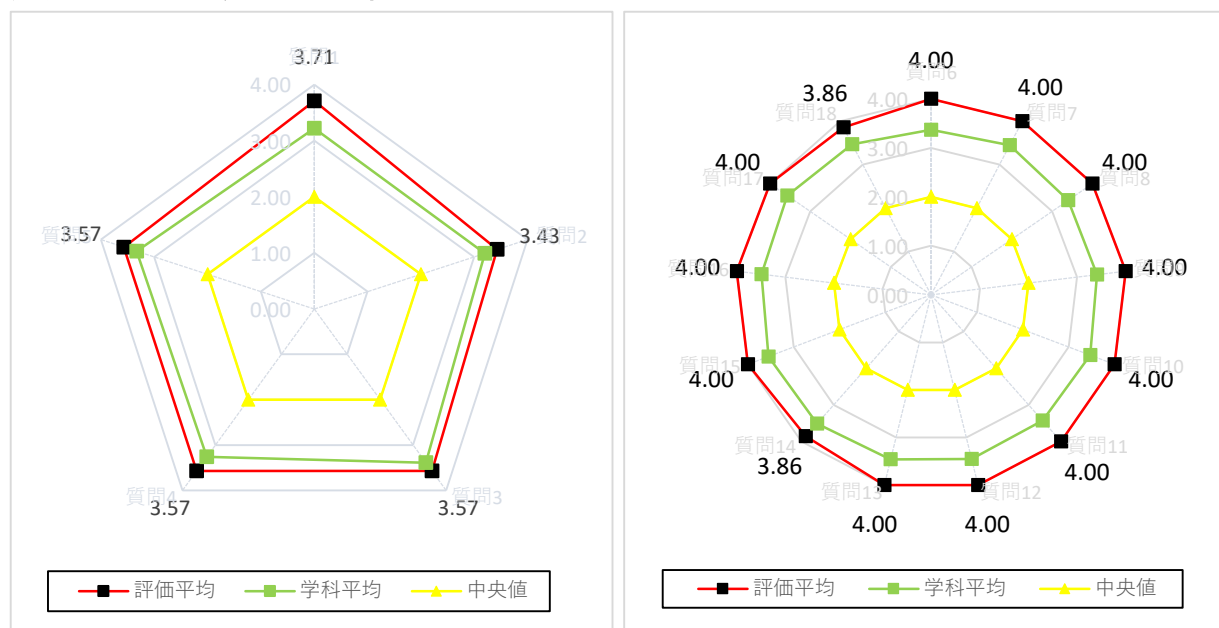
学生からの評価は概ね学科平均値と同じであった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

全体的に本学科の学生は理系科目についての関心が低いようである、今後は少しでも学生が興味を持つよう、授業内容を改善していきたい。アンケート回答率についても、改善するように指導したい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-----------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | あすなろう（発展） | 8名   |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

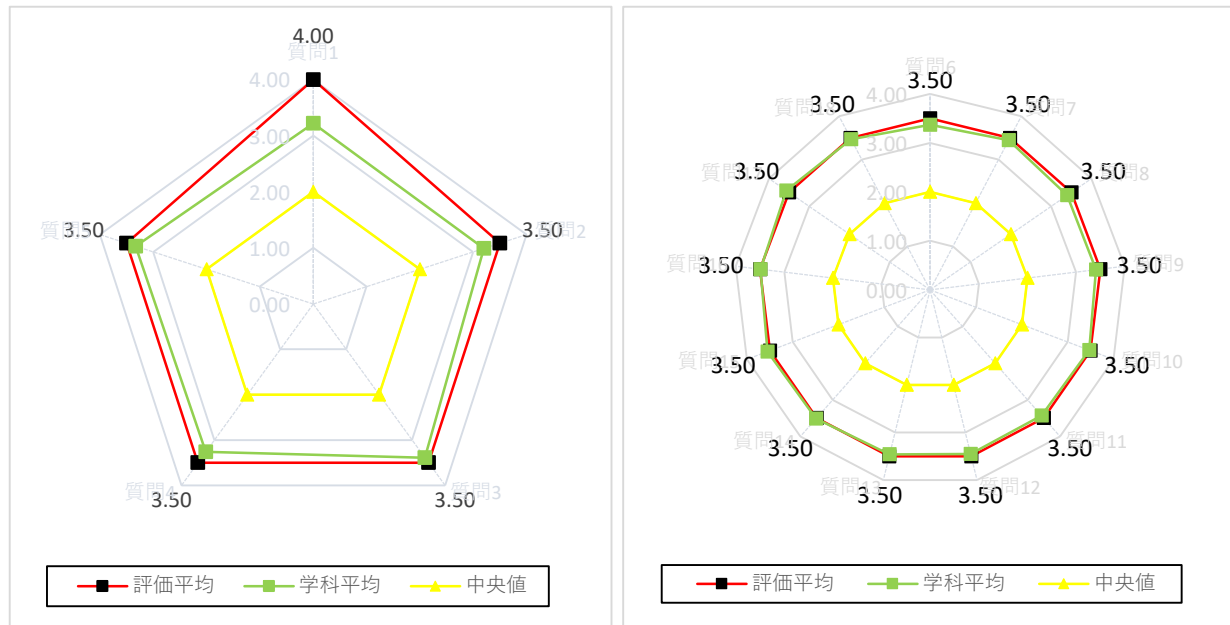
学生たちの課題への取組は意欲的で、各自が設定した課題に真剣に取り組む姿が見られた。質問1～5の学生自身の評価だけでなく、質問6～18の授業者への評価も良好であったことから、大きな改善点はないと思われる。

### （３）次年度に向けての取り組み

ゼミ活動では、学生の問いに丁寧に答えつつ対応していきたい。

| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|-------|-----|-----|-----------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | あすなろう（発展） | 9名   |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

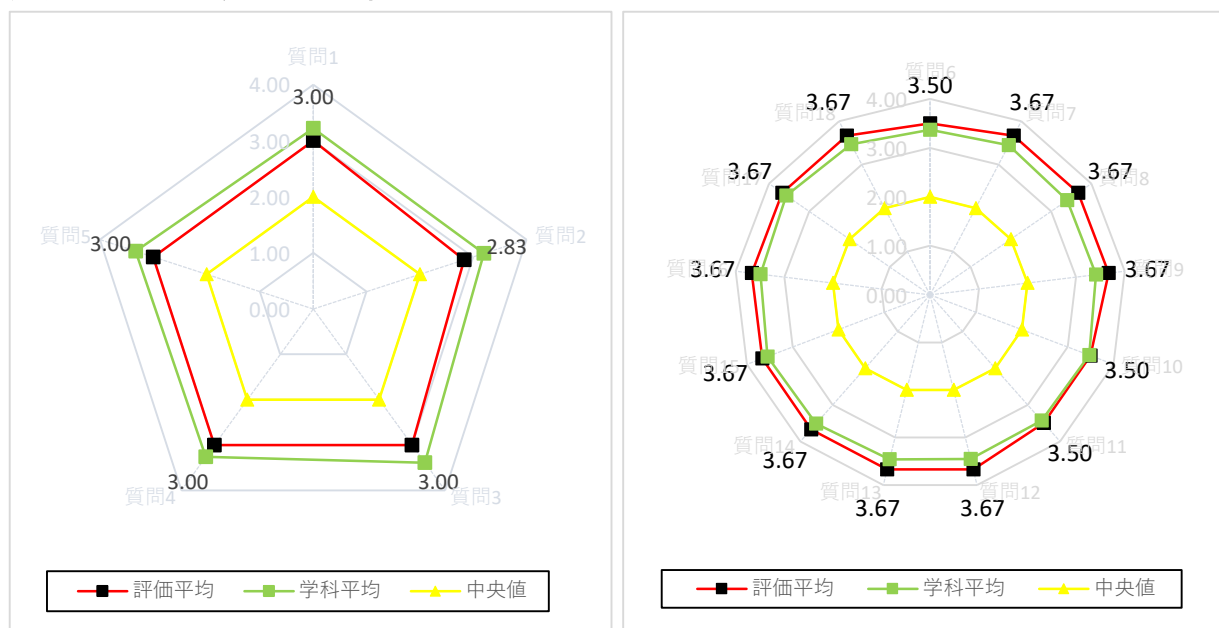
### （３）次年度に向けての取り組み

すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。



| 学部    | 学科  | 担当者 | 科目名    | 履修者数 |
|-------|-----|-----|--------|------|
| 子ども学部 | 子ども |     | 子ども学演習 | 7名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

すべての項目について、一定以上の高い評価を得ている。対面授業による発表をとおして学生相互でテーマを共有し意見を出し合うなど、できる限り双方向的な授業が可能となった。「子ども学演習」については、4年次の卒業研究の基礎になるものであり、論文作成に向けてさまざまな工夫をしているところである。現在は仮テーマを設定し、それに基づいた先行研究検索やその内容について検討しレジュメを作成し、中間発表を行った段階である。学生にとっては、自分が興味ある分野において自らテーマを設定し文章を書くという経験があまりないため、かなり細かい部分まで指導する必要があった。

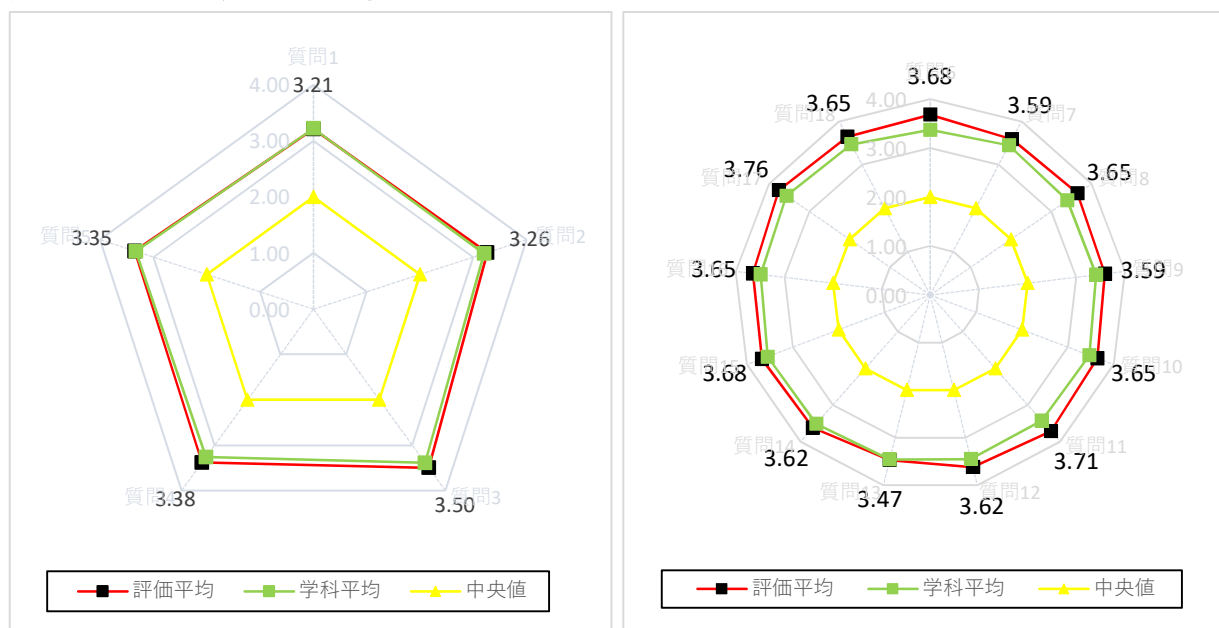
これらのことを踏まえると、一人ひとりの学生の個性や能力に応じた個別対応が不可欠であり、細やかな配慮が求められていると考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

該当なし

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|---------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 臨床心理学概論 | 41名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

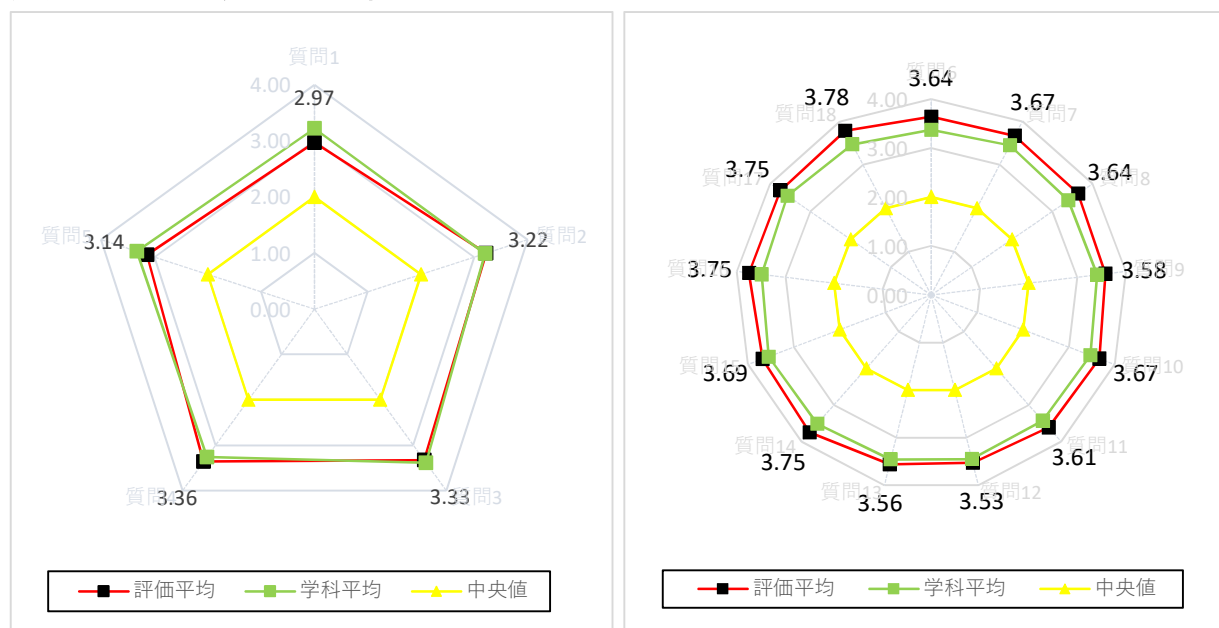
学生は、授業中も私語などせず、しっかり学修していたので、自己評価が厳しいように感じました。また私の抗議については概ね中央値以上なので、今後も学生の興味関心を高く持てるようにしたいと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学生が発表する機会などを入れ、アクティブラーニングができるようにしたいと考える。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名         | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|-------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 心理的アセスメント I | 44名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率は81.8%であった。評価については、概ね学科平均と同程度であった。重要な点を穴埋め式にした資料を作成し、講義では重要点の解説を行うことで授業に集中できる工夫を行った。更に授業外課題で理解度把握に努めるとともに、解説や質問の機会を設け、翌回に疑問点に答えることで、疑問を疑問のまま持ち越さないように配慮した。公認心理師国家試験過去問題の解説や、心理検査が研究等でどのように用いられているかをレポート課題とすることで臨床実践に興味を持たせる工夫も行った。質問12・13が平均よりやや低い評価となった。授業内容によっては、扱う内容が多く進度が速いと感じられたことがあるかもしれないため、今後進度をより意識して講義を行いたい。自由記述においては、特記すべき内容は見受けられなかった。

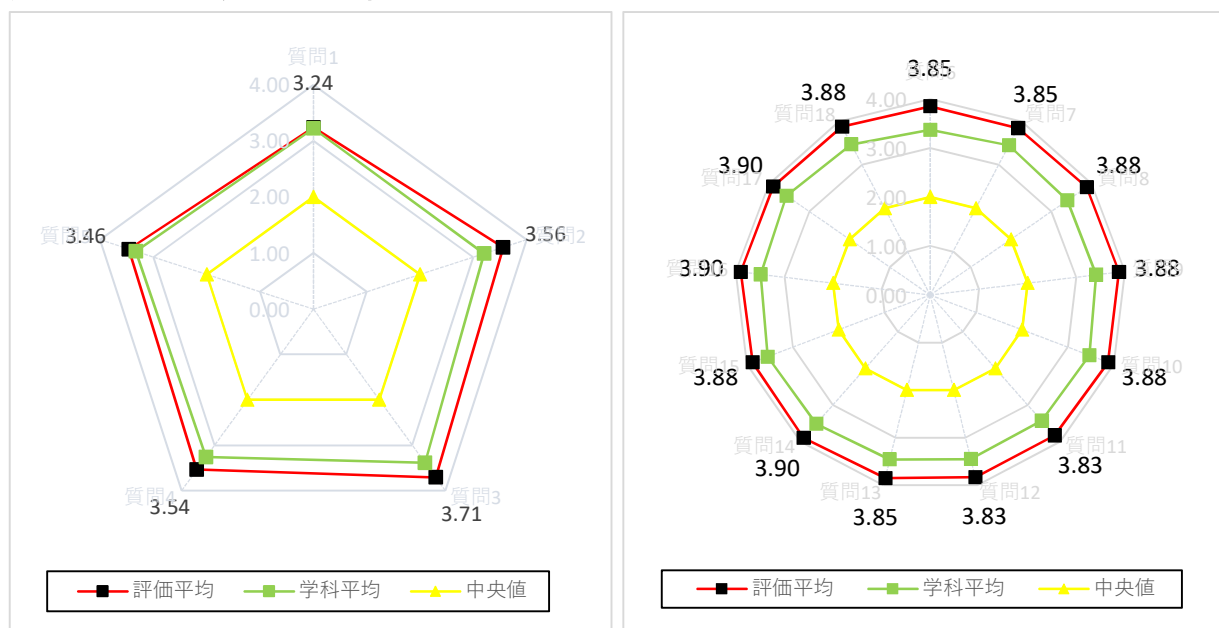
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、各回の感想・疑問を求める形式を踏襲し、授業内で生じた疑問等に適切に対応したい。資料の工夫や授業外課題等での理解度把握、公認心理師国家試験過去問題の解説や、心理検査が研究等でどのように用いられているかをレポート課題とすることで臨床実践に興味を持たせる工夫などの取り組みは次年度以降も行い、学生の理解に合わせた授業進行に留意していきたい。

別途感想にはグループによるディスカッションについての肯定的感想や、国家試験過去問題への取り組み・レポートへの取り組みが復習等に役立ったという感想もあったため、次年度も主体的な学びの機会を提供していきたいと考える。授業評価回答は最終授業日に回答時間を確保して行い81.8%の回答率を得たため、次年度以降も十分な回答時間を確保していきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名         | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|-------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | カウンセリング実践演習 | 42名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

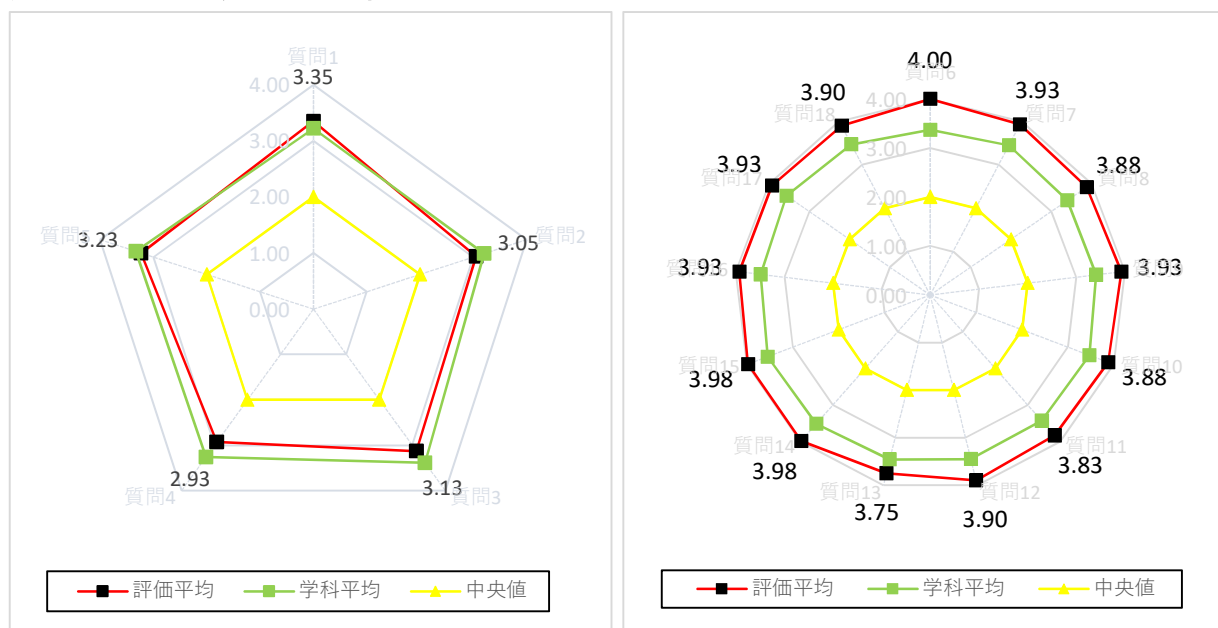
質問6～18については、いずれも概ね高い評価を得ることができていた。  
授業中以外にもレポートフィードバック時にコメントを丁寧に残すなど、双方向のやり取りを積極的且つ丁寧におこない授業展開を図っていったことがよかったと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

当該科目は、令和6年度で廃止科目となるが、下位科目の「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」においても同様に、受講生との双方向のやり取りを丁寧に行い、欠席・遅刻が目立つ学生やレポート未提出学生には積極的にコンタクトを取る等、学習意欲を高められるような関わりや授業展開を行っていきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名        | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | カウンセリング演習Ⅰ | 41名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

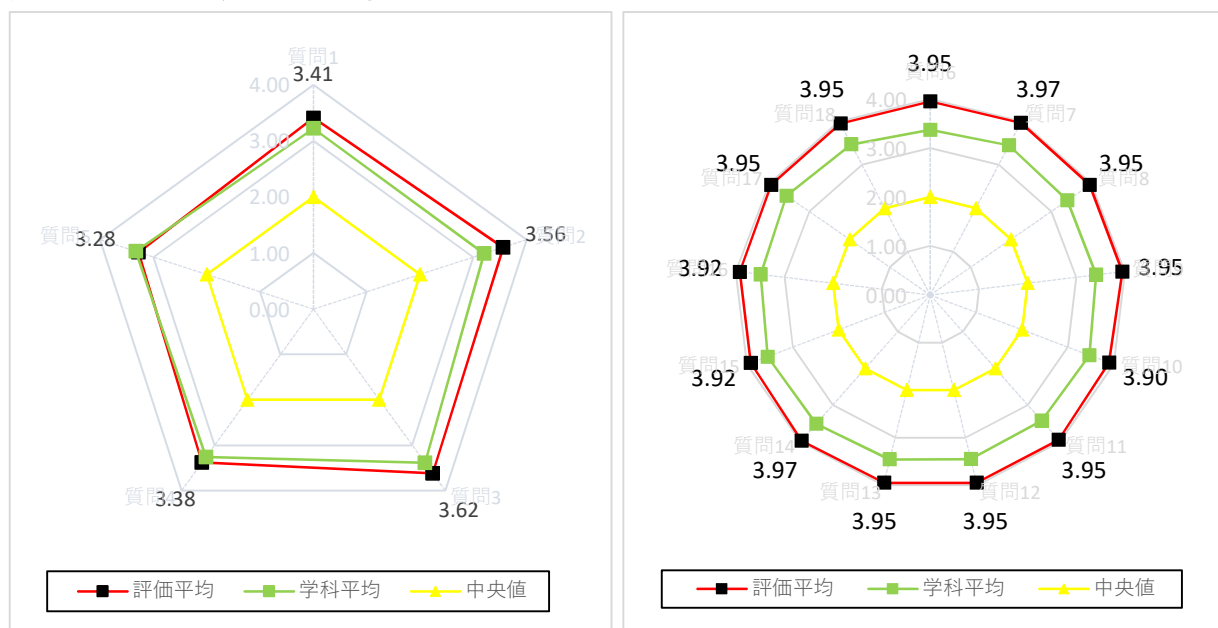
質問6～18に関しては、おおむね高い数値を得ることができていた。しかしながら、相対的に質問13（授業の進む速さは適切で来たか）が、やや低いことから、学生が演習・ワークに取り組む進捗状況を、丁寧に汲み取りながら授業展開していく工夫・配慮が今後は必要になると考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

机間巡視や一つ一つの段階で学生の理解度や進捗状況を丁寧に確認しながら、授業展開していきたい。また、その場で質問できない学生（レポートが未提出、遅刻・欠席が続いている）に対しても、個別に声掛けをおこない対応するなど、今後も一人ひとりの受講生の状況を把握しながら対応していきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名         | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|-------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 思春期・青年期心理臨床 | 42名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

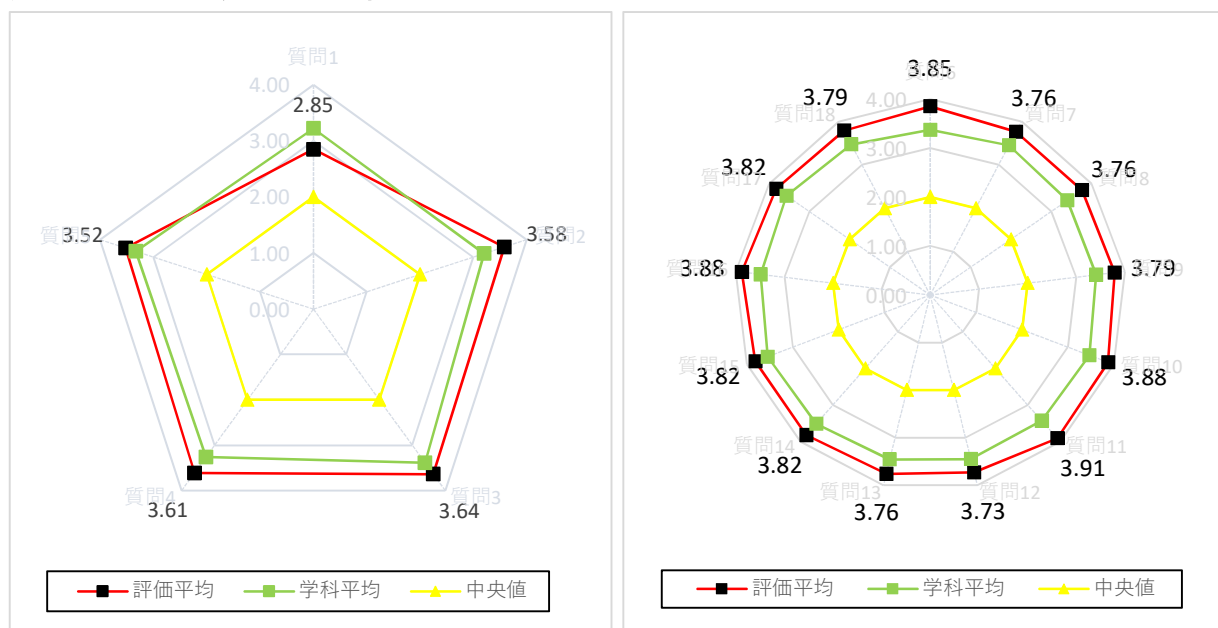
質問6～18に関しては、おおむね高い評定値を得ることができた。  
 今後は、学生の主体的な学び（質問4など）が、より定着するような授業展開の工夫や課題設定のあり方の検討が必要になると考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学生自らが、授業を理解するために自分で工夫ができるような（主体的な学びに繋がるような）、授業展開の工夫が必要になると考える。  
 提示する教材を工夫したり、予習・復習する内容をより具体的に提示する等、主体的な学びに繋がるような働きかけをさらに検討していく。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名                     | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|-------------------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 社会・集団・家族心理学<br>Ⅱ（家族心理学） | 42名  |

### （１）学生による授業評価結果



### （２）結果の分析と評価

授業最終回に授業評価回答時間を設け、78.6%の回答率を得た。教員への評価は学科平均と同程度もしくは学科平均をやや上回る結果であった。

家族心理学に関する様々なテーマに関して、学生が調べたことを発表し、テーマに関連するグループディスカッションを取り入れ、教員が解説を行う形で行った。授業終了時の感想では、「グループワークで色々な意見が聞けて良かった」との感想が見られていた。授業評価の自由記述では「最終課題（公認心理師過去問題への取り組み）も家族システムについて理解することに繋がる内容である為、理解した内容に誤りがないかどうかの再確認ができて良かった。」という肯定的な意見が見られた。学生の発表時間とグループワークの時間、教員の解説時間のバランスに留意したことも資料や双方向のやり取りに関する肯定的な評価につながったと考えられる。

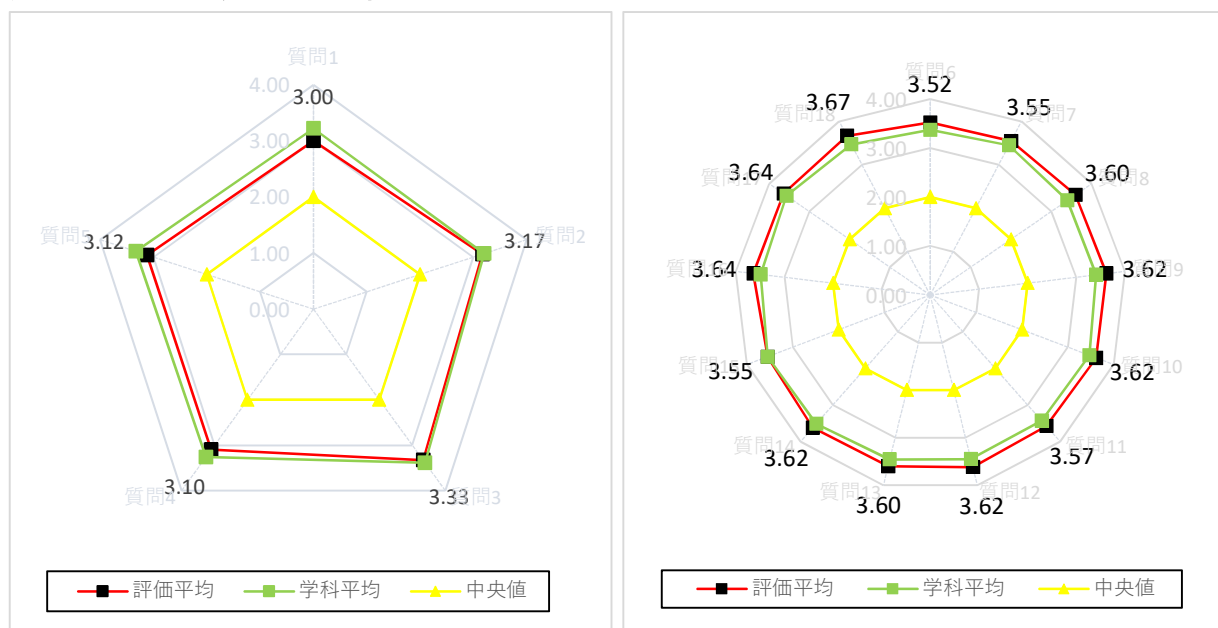
### （３）次年度に向けての取り組み

学生の主体的学修推進のための授業形式であることの意義を周知して授業を進めることを次年度も意識したい。グループワークの取組みは別途授業後に得た感想において高い評価も得られており、公認心理師資格試験の過去問解説などについても、今後も継続していきたいと考える。

授業評価回答数について、授業最終回に回答時間を設けたものの、やや短時間となったため、次年度以降は授業最終回に十分な時間を設けて回答を促していきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名      | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|----------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 教育・学校心理学 | 43名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

昨年度の評価平均よりも下がっていた結果となっていた。ほぼ同じ内容であり、変更した点は資料の変更などである。もしかすると、学生の側の変化かもしれない。昨年度は、ワークなどの体験を重要視する学生が多かった傾向を感じていた。しかしながら、今年度の学生は、あまりワークに重点を置いていなかった。純粋に興味関心を持てる講義かどうか、という点が大きいようであった。コロナ禍であったことも影響しているのかもしれない。

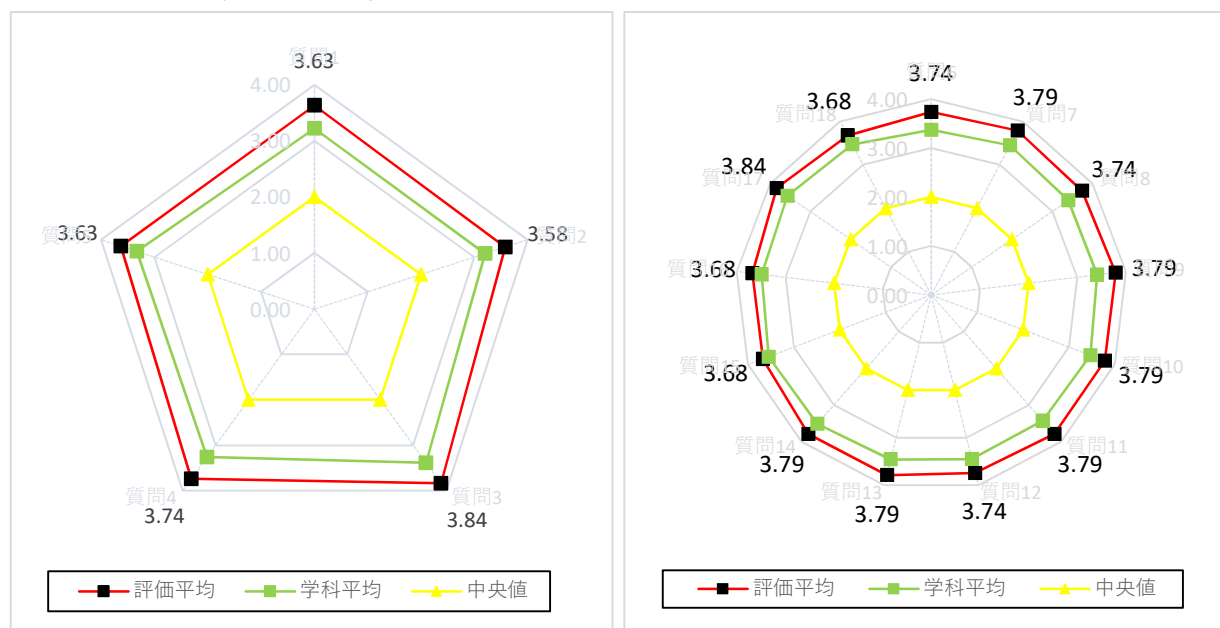
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、もう少し興味関心を惹くような内容を加えていきたい。3年後期科目「カルチャーと心」の担当者が変更になったため、その内容を教育・学校心理学に加えて、学生の興味関心を惹くような内容にした。しかしながら、内容自体の質を落とすわけにはいかない。教科書を基本としながら、他の文献なども紹介しつつ、動画における映像資料など、よりわかりやすく丁寧な内容を加えていきたい。こちらも学生の変化に対応していきたい。



| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名        | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 障害者・障害児心理学 | 43名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

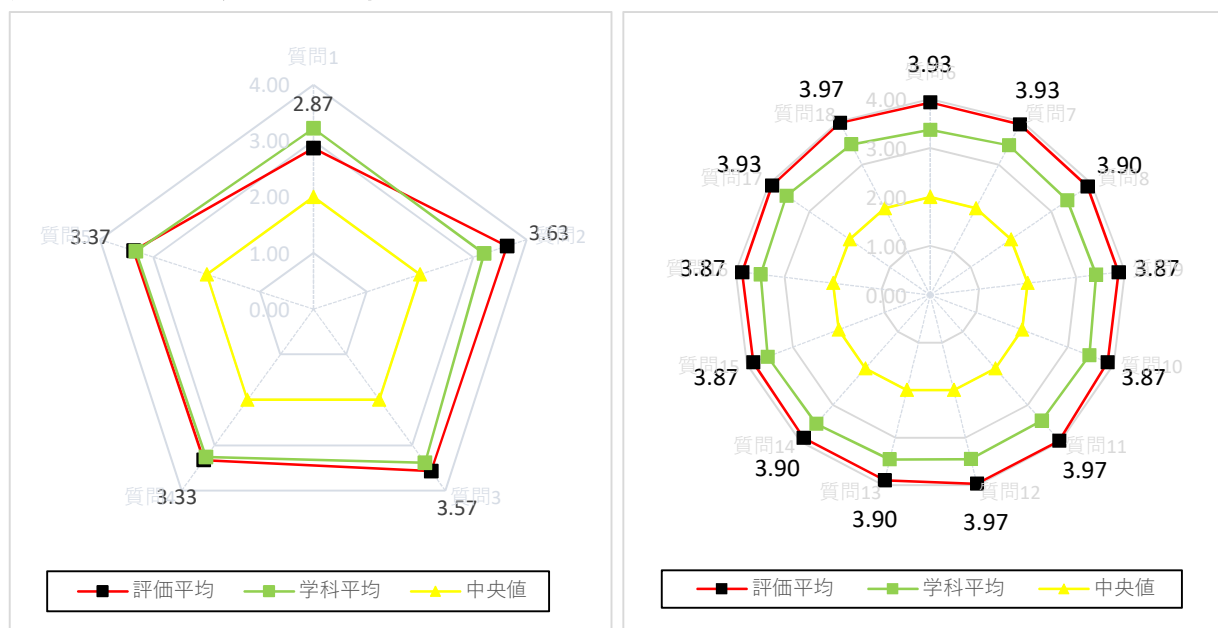
全項目で、学科の平均得点を上回っている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度の授業では、これまでの授業に加え、動画視聴や具体的例を挙げながら説明を行い、学生に感想を聞くことで双方向性を高めていきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|-----------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | コミュニティ心理学 | 48名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

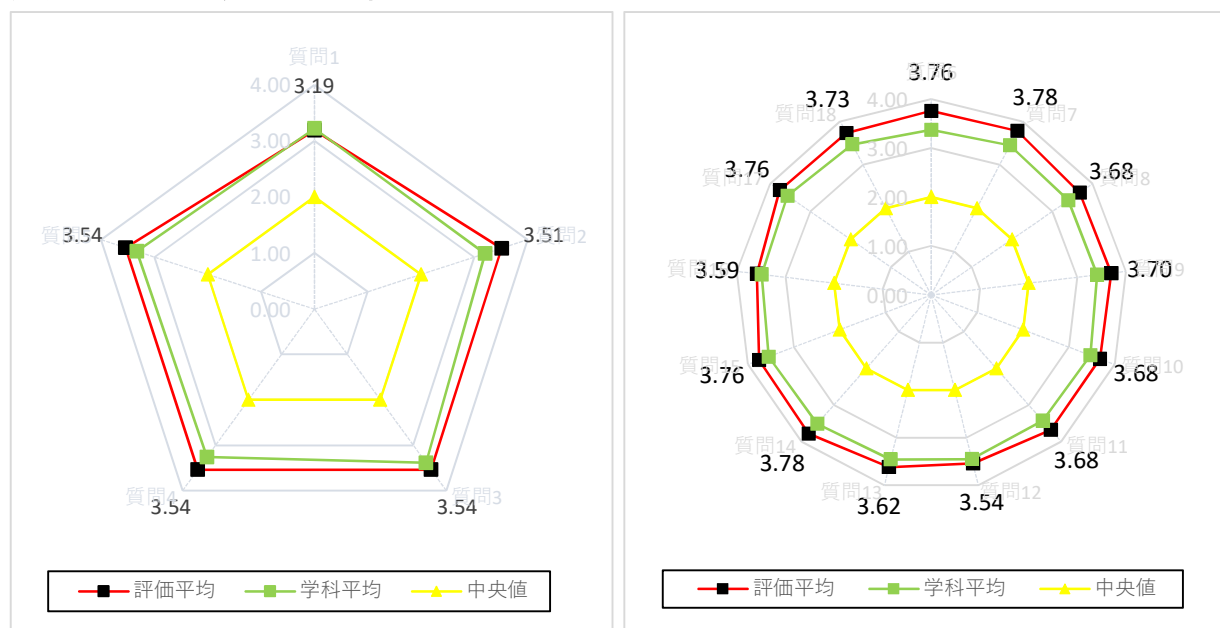
質問6～18に対しては、おおむね高い評価を得ることが出来ていた。しかしながら、質問①、④については相対的に低い結果となっており、いかにして学習意欲を高めるかが今後の課題となるのではないかと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

受講生の学習意欲を高めるための教材の工夫や、授業展開のあり方の検討が必要であると考え。学生に身近な社会的問題や興味・関心のあるテーマやトピックをヒヤリングしつつ、その内容を可能な限り、授業の中に組み込みながら講義を展開していきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|---------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 心理学的支援法 | 45名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

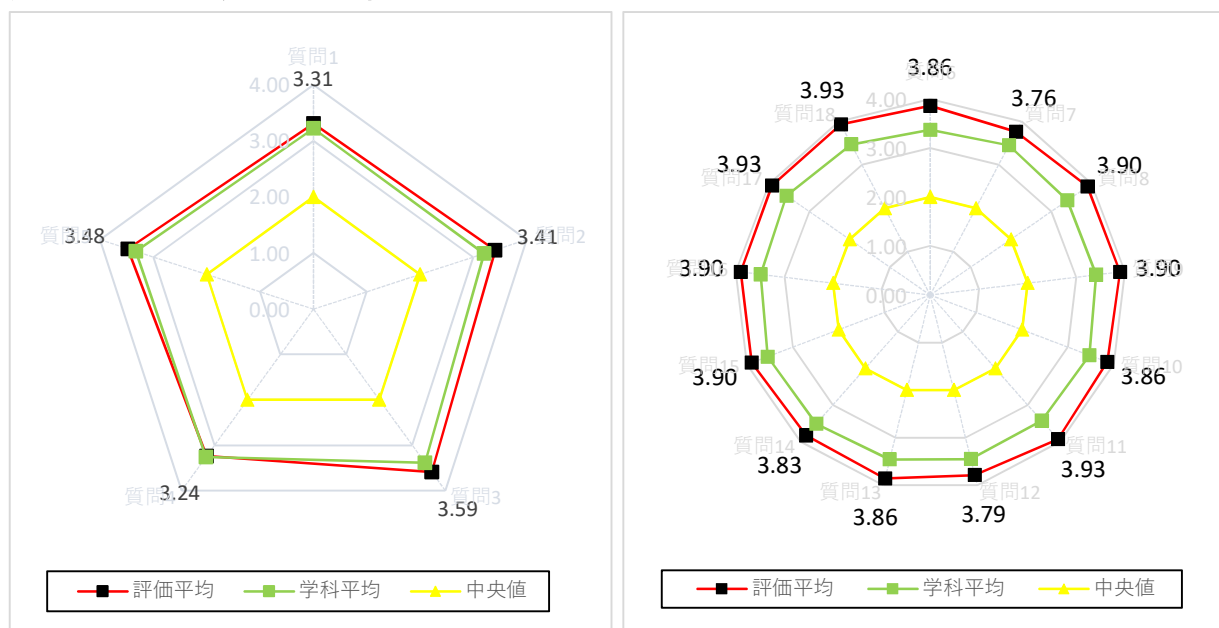
支援法は、概論に続くもので、学生の基礎知識にばらつきがややあったと思われます。しかし、授業中はほぼ真剣に聴いており、私語もなく、授業態度は良かったと思います。

### (3) 次年度に向けての取り組み

資料などもできる限りそろえたつもりでしたので、それが反映されての評価で、概ね中央値以上になったと思います。次年度は今年度の半分の授業時間になるので、精選した内容にしたいと思います。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名     | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|---------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | カルチャーと心 | 44名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

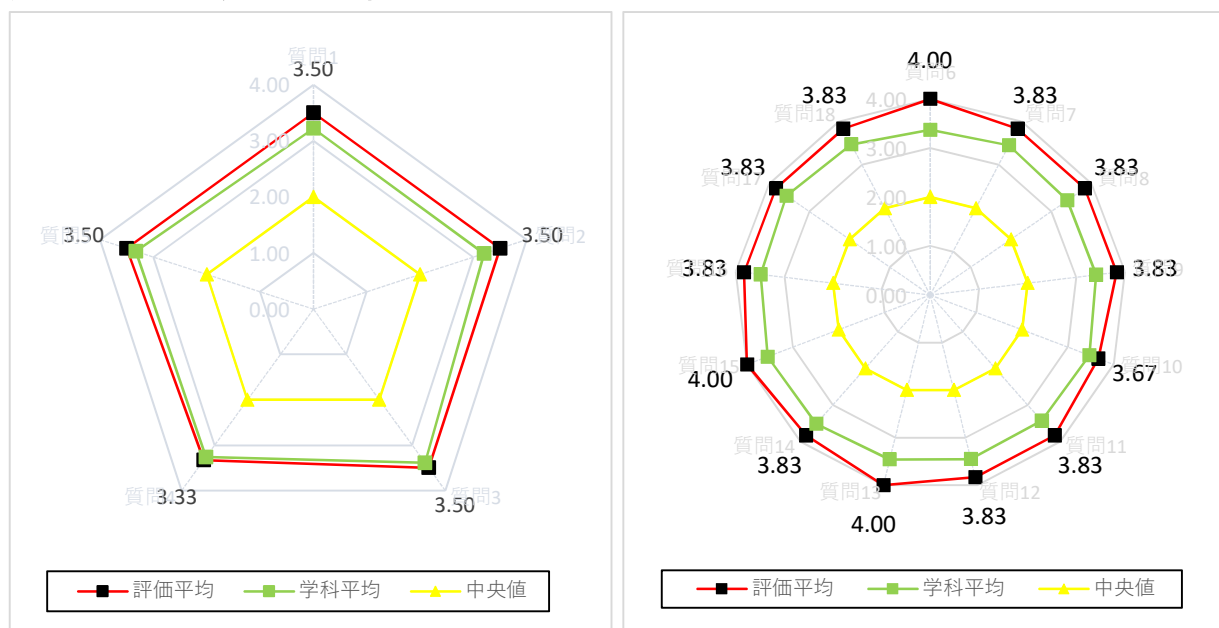
概ね高評価であり、学科平均よりも高い数値になっている。開始前からの狙い通りに講義が進めたと思われる。内容の質も、量としても問題なかったように思います。また、学生からの振り返りシートに対して、毎回フィードバックをしていた。このフィードバックに関しても、好評を得ていた。近年、直接的に質問する学生が少ないため、この方法を持ち続けることは効果的であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当教員の変更のため、講義を実施しない。そのため、残念である。一方で、好評であった内容に関しては、教育・学校心理学の中で扱うことを検討中である。学生に対して好評を得ているため、是非とも活かしていきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名                  | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|----------------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | セルフマネジメントゼミ<br>ナール I | 10名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

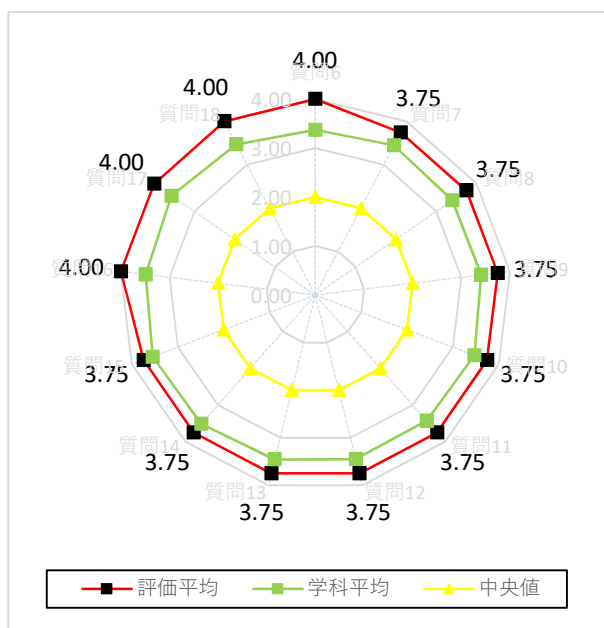
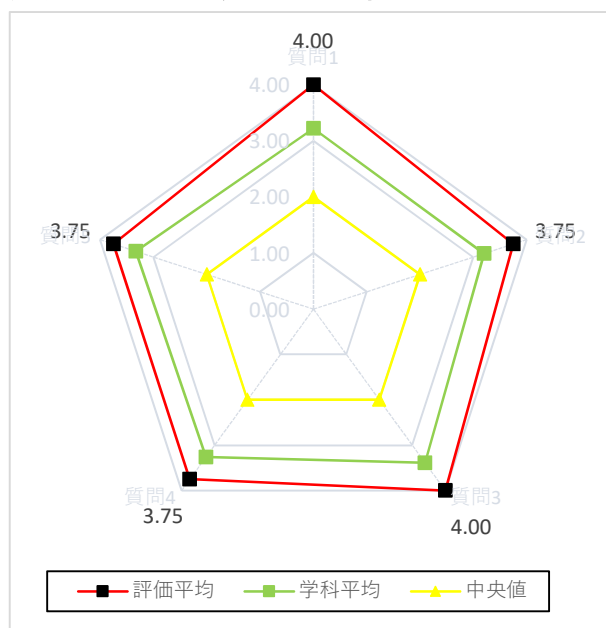
質問6～18に関しては、相対的に高い数値を得ることができていた。また、質問1～5の結果を見ても、おおむね受講生の学習意欲を維持しつつ、授業展開出来ていたのではないかと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

ゼミ生個々の課題の進捗状況が異なり、個々のペースや状況を把握しながら指導にあたるのが難しかったが、次年度も、個々の状況に寄り添いながら指導にあたっていきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名                  | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|----------------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | セルフマネジメントゼミ<br>ナール I | 11名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

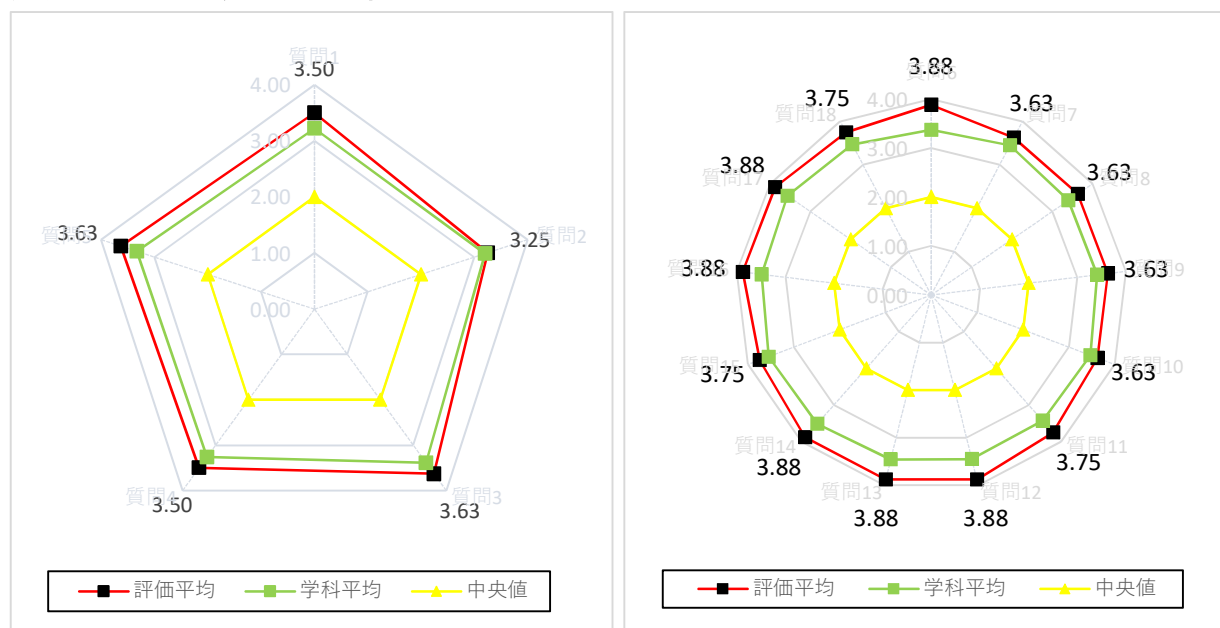
全項目において、学科平均得点を大きく上回っている。  
これは、ゼミナール担当教員がカリキュラムの骨子を重厚に作成し、それを各ゼミナール担当教員が確認・周知を図りながら運営していることが大きな理由と考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度担当せず。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名                  | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|----------------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | セルフマネジメントゼミ<br>ナール I | 11名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

72.7%の回答率を得た。本講義はゼミ指導・個人指導と学科全体での授業形式とが混在しており、ゼミ指導においても各教員の指導体制が揃うよう、事前に調整を行って授業が行われた。評価として、学科平均と概ね同程度、いくつかの項目では学科平均を上回る評価を得た。

ゼミ指導では、学生のレポートへのフィードバックの際、わかりやすい指示や卒業論文とのつながりなどモチベーションを上げる言葉かけなどを意識した。

学生自身のセルフマネジメント能力を高めるための取組みとその指導や、学生自らの興味関心がある文献の収集や分析等を行う課題など、学生の主体的な取り組みとそれに対する個別指導を行う授業内容が主であり、主体的にテーマを追求できた学生が多かった。

授業評価回答数は、最終回での評価を求めたことで、欠席者以外からの回答を得た。次年度以降は最終回の回答時間を確保し、最終回前にも声掛けを行い欠席した場合にも回答を意識できるよう促していきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度同様授業担当するすべての教員で授業内容や教授方法などについて十分話し合いコンセンサスを得る時間をとることで、より分かりやすい授業構成につなげたい。また、より適切な教材の検討や実施内容の時期の検討などさらなる工夫を行えるよう準備していきたい。

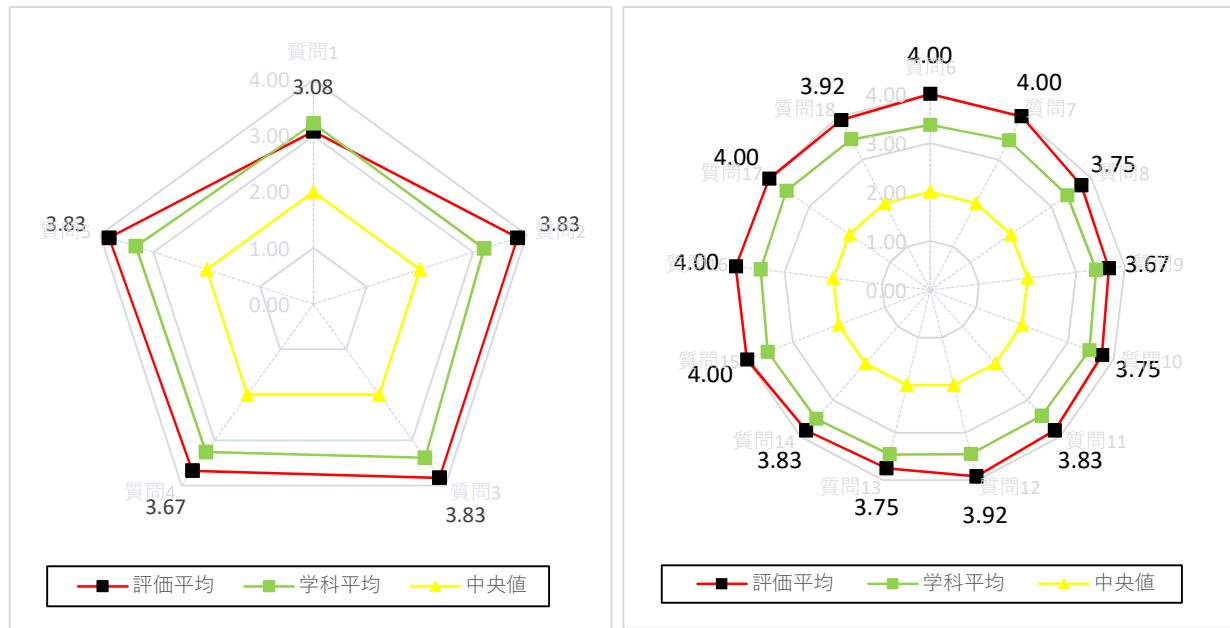
ゼミ指導内では、上記にも述べたように、個別ゼミ指導で使用した教材が卒業論文に向けてどのように関連するかなどを見通しを詳細に伝えることで、課題に取り組むモチベーションを上げるよう工夫したい。

資料提示の工夫や全体指導・個別指導、授業外課題などをバランスよく行うことで学生の学修の向上につなげたいと考える。

授業評価回答数は、最終回での評価を求めたことで、欠席者以外からの回答を得た。次年度以降は最終回の回答時間を確保し、最終回前にも声掛けを行い欠席した場合にも回答を意識できるよう促していきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 心理実習 | 33名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

質問1授業は何回欠席しましたか。  
 以外の項目は、すべて学科平均得点を上回っている。  
 これは、見学実習に向けた4年間の学びを踏襲する授業であるため、初回から「公認心理師に国が求める資質」、「厚生労働省が定める心理実習の位置づけ」など、シラバスをよりかみ砕いた資料を作成、学生に繰り返し指導を行っていくこと、また、実習に向けて「自己評価表」を作成、学生自身が実習で何をスキルアップさせていくのか自身で考えさせるツールを開発して取り組ませていること、毎回グループ学習を行い、協働体験を構築させること、などの取り組みが反映していると考えられる。

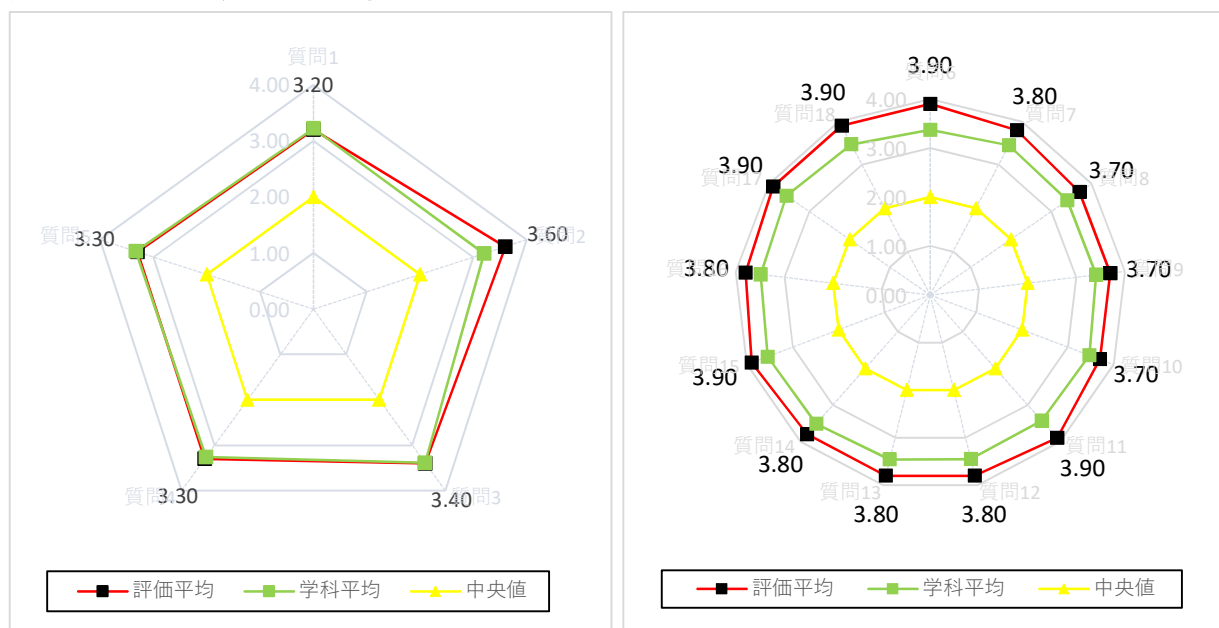
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当せず。



| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名                 | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|---------------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | セルフマネジメントゼミ<br>ナールⅡ | 12名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

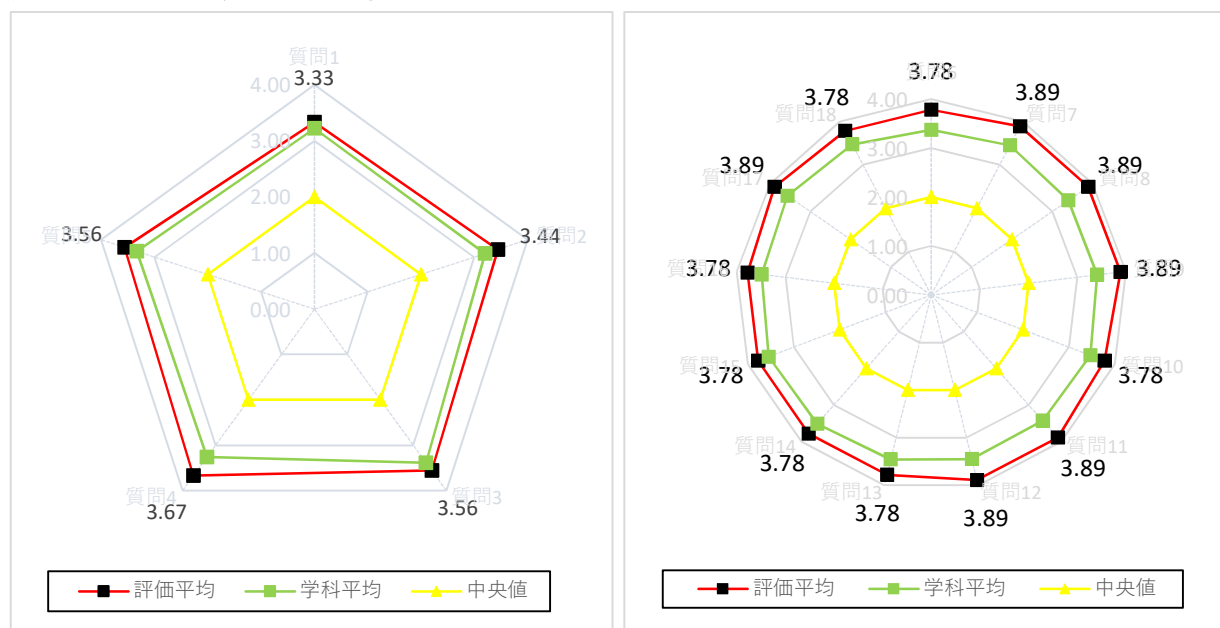
質問1授業は何回欠席しましたか。  
 質問3授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。  
 質問4あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。  
 質問5あなた自身の総合自己評価が、学科平均得点をやや下回っている。  
 教員への評価は学科平均と同様、あるいはやや高い。  
 これは学生が、前期に比べ後期の授業になると、ややエネルギーが枯渇してしまうことが考えられる。  
 アカデミックスキルに加え、キャリアアップスキルも取り扱うカリキュラムのため、自分に向き合うことが難しくなるのではないかと？

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度担当しない。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名                 | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|---------------------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | セルフマネジメントゼミ<br>ナールⅡ | 11名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

受講者11名中9名の回答を得た。

本講義はゼミ指導・個人指導と学科全体での授業形式とが混在しており、ゼミ指導においても各教員の指導体制が揃うよう、事前に調整を行って授業が行われた。後期は、学生が自らの興味があるテーマについてのレポートのまとめや発表を行うための指導の時間と全体でのキャリアプランニングのための授業とが大きな柱であり、各学生の主体的な取り組みを求めることが多かったため、学生自身の自己評価も高い結果となったことが推察される。教員への評価は学科平均と同程度もしくは上回る状況であった。公平性に意識しながら、学生一人一人のレポートへのフィードバック等を丁寧に行うことを意識したことが結果につながったと考えられる。

授業評価回答数は、最終回に評価時間を設けたが、欠席学生の評価が行われなかったため、授業最終回だけでなく、早めに周知を行い授業評価に取り組めるよう、計画を立てていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度同様授業担当するすべての教員で授業内容や教授方法などについて十分話し合いコンセンサスを得る時間をとることで、より分かりやすい授業構成につなげたい。

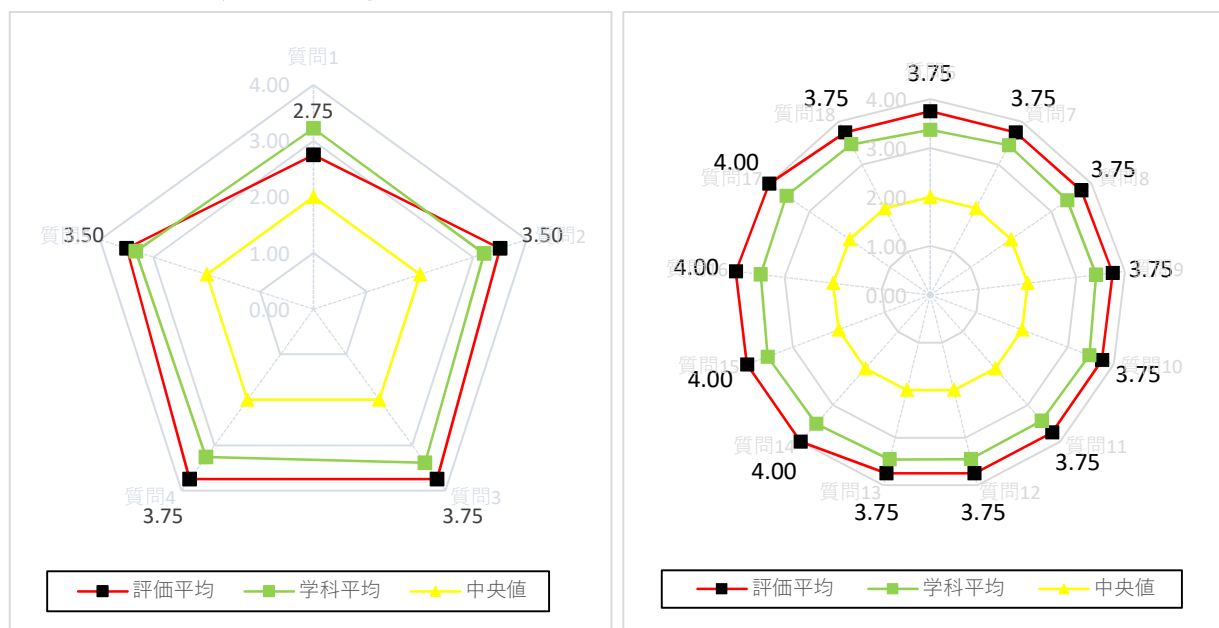
ゼミ指導内では、上記にも述べたように、個別ゼミ指導の中で現在取り組んで切るレポートが卒業論文にどのように関連するかなどの見通しを詳細に伝えることで、課題に取り組むモチベーションを上げるよう工夫したい。

今年度、個別指導を細やかに行い、学生自身の主体的な取り組みも行われたため、次年度以降も学生のモチベーションを高めるような働きかけを行いたい。資料提示の工夫や全体指導・個別指導、授業外課題などをバランスよく行うことで学生の学修の向上につなげたいと考える。

授業評価回答数は、最終回に評価時間を設けたが、欠席の学生の評価が行われなかったため、授業最終回だけでなく、早めに周知を行って授業評価に取り組めるよう、計画を立てていきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|-----------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 心理専門ゼミナール | 7名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

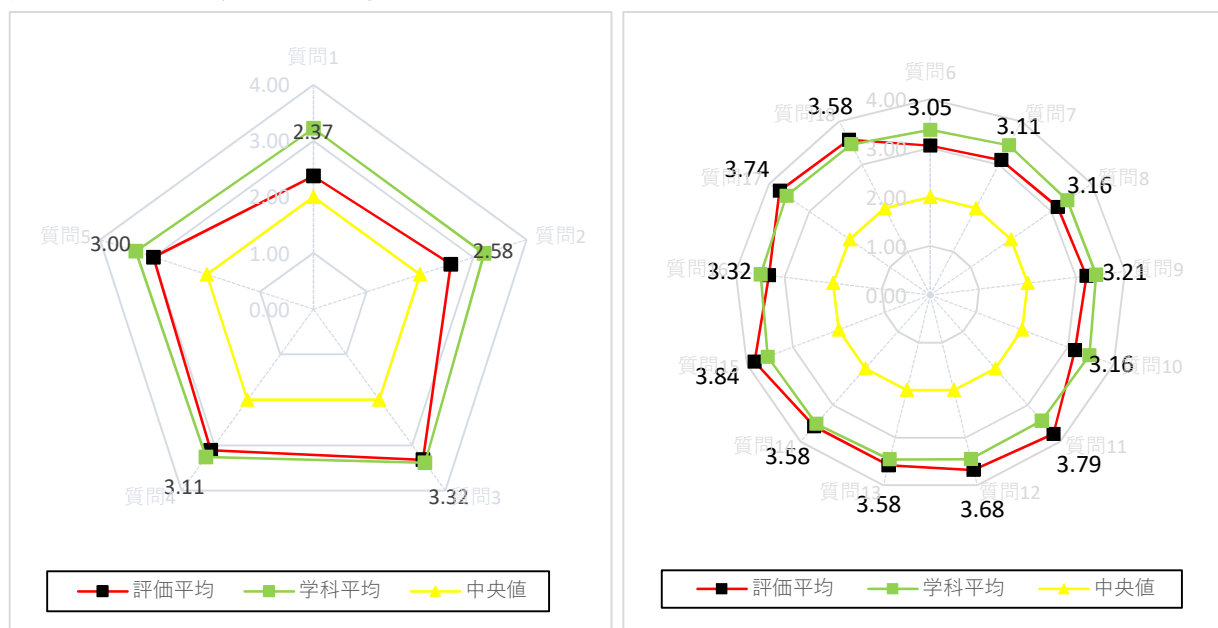
学生のなかには体調不良の方がおられ、出席が少なかったことが反映された結果になっていると思います。しかし、学修内容はそれぞれ頑張っておられたと思います。授業の評価は概ね中央値以上なので、今後もこの調子で行きたいと考えます。

### (3) 次年度に向けての取り組み

取り組む内容と到達目標をしっかりと示し、学生が取り組むべき内容を責任もってできるようにしたいと思います。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|-----------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 心理学文献講読 I | 21名  |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

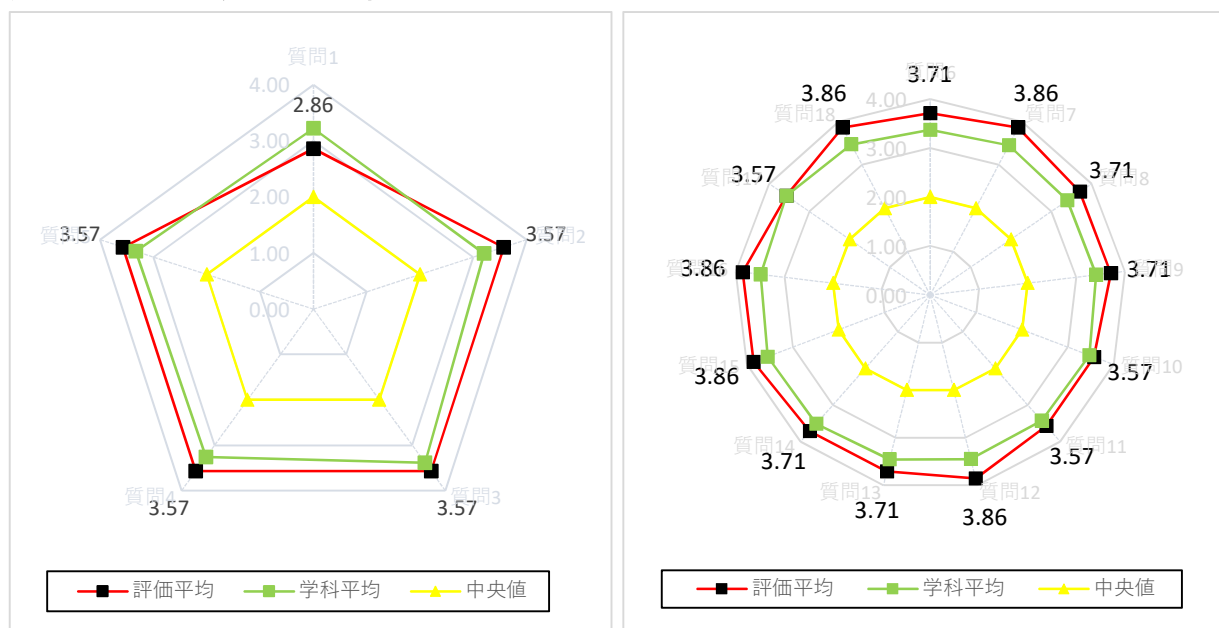
英文の文献購読であり、大学院を目指すレベルで授業を行いました。4年生なので、就活や卒論調査で出席率が低くなっていたと思います。また学生の英語の基礎知識に幅が広く、英語が苦手な学生には難しかったと思います。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度はこの授業はありませんので、対象外です。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名       | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|-----------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 心理専門ゼミナール | 7名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

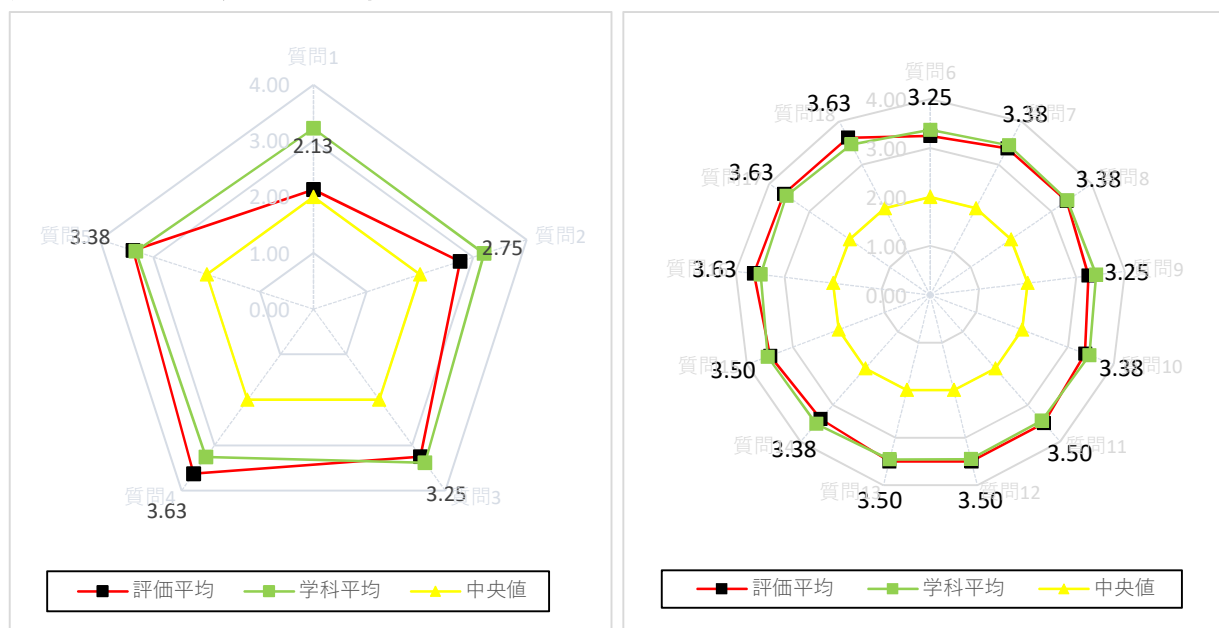
概ね高評価を得ている項目ばかりであった。しかしながら、質問17教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。のみ他の項目に比べて高い数字ではなかった。バランスを見ながら、あまり内容や学生の興味関心が偏らないように平等に接するように心掛けている。しかしながら、もしかするとその態度が学生には熱心さに欠けていたと思われていたのかもしれない。それ以外に関しては問題ないようである。一方で、もう少し踏み込んで興味関心を持てないようにしたいと思われる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

概ね高評価であるので、現状を踏襲する形で進めていきたい。加えて、次年度はもう少し指向を変えて、いろいろな体験を学生と共に実施してみたいと思う。なかなかゼミの中でディスカッションに発展することが少なかったため、文献に加えて参考資料となる映像等（ドキュメンタリー等）の資料を加えたい。いろいろな視点からの検討が可能なように工夫してゼミ運営を行いたい。活発な意見のやり取りができるように工夫したい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 卒業研究 | 9名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

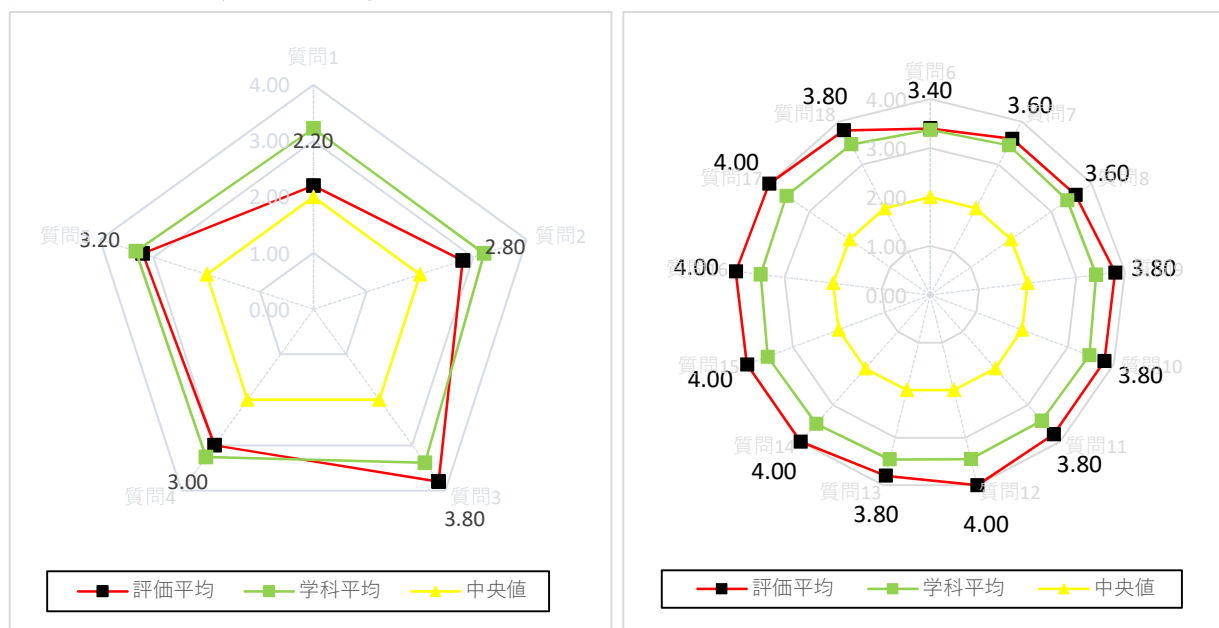
講義最終回に授業評価への回答を求め、88.9%の回答率を得た。学生の自己評価においては、就職活動や体調等で欠席が複数回生じた学生が複数いたため質問1の回答に影響したと思われる。  
教員の授業への評価は学科平均を下回る結果となった。卒業研究の性質上、いくつかの項目については講義形式の場合を想定する項目であったことから、評価しづらいものもあったと考えられる。  
各回授業で学生の進捗状況を細かく確認し、次回までの課題を伝え、学生が取り組んだ事柄を評価、必要な場合添削するというような取り組みを1年間行ったが、回によっては一人当たりの時間に差があったことが反省として挙げられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も、各回授業で学生の進捗状況を細かく確認し、次回までの課題を伝え、学生が取り組んだ事柄を評価、必要な場合添削するというような取り組みを継続したい。指導時間含め、学生への公平な対応も意識しながら指導を行っていきたいと考える。  
授業最終回などに十分に時間をとって評価を行う時間を次年度以降も確保し、授業評価の回答率を維持していきたい。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 卒業研究 | 7名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

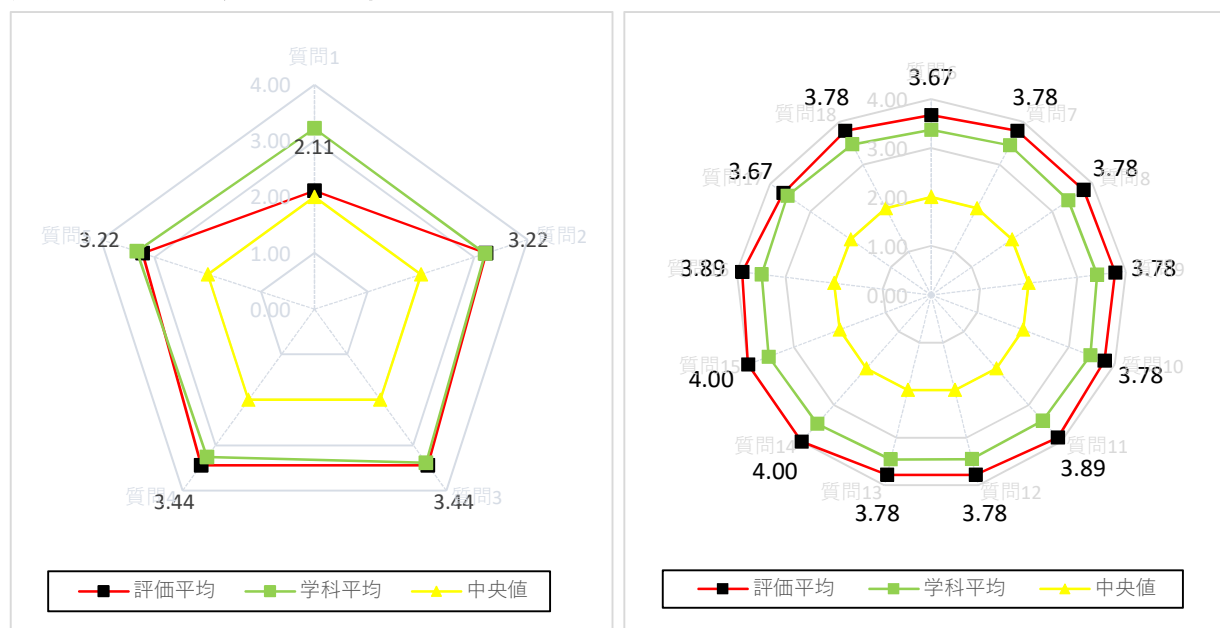
卒論ゼミは、就活や調査等で出席率が低くなった学生もいたと思われます。また計画を慎重にしすぎて時間をとられ、最後の執筆に時間が少なくなった学生もいたようでした。しかしながら、全員期限までに提出できたことは良かったと思います。

### (3) 次年度に向けての取り組み

計画と実行を前期のうちにある程度実施できるように、個別面談をして計画を確認し、執筆までを年内に終わらせるようにしたいと思います。また情報共有できていない学生も昨年はいたので、適時学生に確認していきたいと思います。

| 学部    | 学科        | 担当者 | 科目名  | 履修者数 |
|-------|-----------|-----|------|------|
| 子ども学部 | 心理カウンセリング |     | 卒業研究 | 9名   |

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

概ね高評価を得ている。そのため、基本的には今年度の内容（計画）を踏襲する形で進めていきたい。しかしながら、質問17教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。の項目に関しては、やや低い評価になっている。これは、個々の学生と一定の距離を取りながら、一人の指導に偏ることなく、全体を見ながらバランスをとることを意識して関わっていたためと思われる。学生からすると、やや距離を感じていたのかもしれない。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けて、基本的には今年度の形を踏襲したいと思う。しかしながら、距離を感じた学生が一定数いたのであれば、個別対応の時間を少し増やして、個々の研究と一緒に検討する時間を設けていきたい。時間に追われることが多いため、どこまで一緒に検討できるか未知数であるが。時間がない中でも、共に考えていく姿勢を大切にしたい。